



〔河井書記官朗讀〕

去ル十三日本院ニ於テ修正議決シタル左ノ政府提出案ハ即日之ヲ衆議院ニ回付セリ

大正三年度歲入歲出總豫算案

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ハ即日裁可ヲ奏請シ又可決ノ旨ヲ衆議院ニ通知セリ

大正三年度各特別會計歲入歲出豫算案

豫算外國庫ノ負擔トナルヘキ契約ヲ爲スヲ要スル件

同日本院ニ於テ可決シタル左ノ政府提出案ヲ受領セリ

大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案

賣藥法案

同日本院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

盲人保護法案

公共團體ノ管理スル公用土地物件ノ使用ニ關スル法律案

醫師法中改正法律案

輕便鐵道補助法中改正法律案

畜牛結核病豫防法中改正法律案

執達吏規則中改正法律案

執達吏手數料規則中改正法律案

一昨十四日特別委員會ニ於テ當選シタル正副委員長ノ氏名左ノ如シ

地方學事通則改正法律案特別委員會

委員長

岡田 良平君

同日本院ヨリ左ノ報告書ヲ提出セリ

未成年者飲酒取締ニ關スル法律案可決報告書

明治四十四年度歲入歲出總決算、明治四十四年度各特別會計歲入歲出決算審查報告書

同日本院ヨリ本院ノ回付ニ係ル左ノ政府提出案ハ同院ニ於テ本院ノ修正

ニ同意セサルコトニ決議シタル旨ヲ以テ兩院協議會ヲ開クノ請求ヲ受ケ又

同時ニ同院ヨリ協議委員ノ數ヲ十名ト爲スニ決セル旨ノ通牒ヲ受領セリ

大正三年度歲入歲出總豫算案

同日本院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

畜產組合法案

同日本院ヨリ左ノ法律案ヲ受領セリ

耕地整理法中改正法律案

府縣制中改正法律案

同日本院ヨリ左ノ法律案ヲ提出セリ

治安警察法中改正法律案

農工銀行法中改正法律案

○議長(公爵徳川家達君) 是ヨリ本日ノ會議ヲ開キマス、此際議長ハ最モ悲シムベキ事ニ付テ諸君ニ御相談ヲ致シタイト存ジマス、ソレハ外ノ事デモゴザイマセヌガ、衆議院議長谷場純孝君、昨十五日俄ニ薨去セラレマシタ、同君ハ第一期以來本日マデ衆議院議員ヲ繼續セラレマシテ、第二十五回議會ヨリ第二十七回議會マデ衆議院議長ノ職ヲ勤メラレマシタ、其後本月七日再び衆議院ノ議長ニ勅任セラレマシタ、今此不幸ナル報ニ接シマシタコトハ誠ニ痛惜ノ至ニ堪ヘマセヌ、依テ本院ヨリ院議ヲ以テ哀悼ノ意ヲ表スル爲ニ弔辭ヲ贈リタイト存ジマス、何卒滿場諸君ノ御同意ヲ得タイト存ジマス

○公爵二條基弘君 唯今御誥リニナリマシタ事ハ誠ニ我モ賛成スル所デアリマス、付キマシテハ右弔辭文ノ起草ノ事ハ議長ニ御一任ヲ致シタイト考デアリマス、又葬儀ノ當日ハ御苦勞デゴザイマスルガ、議長ニ貴族院ヲ代表シテ御會葬アラムコトヲ希望イタシマス、願ハクハ滿場ノ諸君モ御同意下サレマシテ、滿場一致ヲ以テ此事ニ御賛成アラムコトヲ希望イタシマス

○伯爵柳原義光君 賛成

○男爵石黒忠惠君 賛成

〔其他「賛成」ト呼フ者多シ〕

○伯爵奥平昌恭君 賛成

○伯爵松平直之君 賛成

○伯爵奥平昌恭君 賛成

總員起立

○議長(公爵徳川家達君) 全會一致ト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 次ニ同君ノ葬儀ノ當日議長ガ本院ヲ代表イタシマ  
シテ會葬ヲ致スヤウニト云フ、二條公爵ノ動議ニ對シテ同意ノ諸君ノ起立ヲ  
請ヒマス

總員起立

○議長(公爵徳川家達君) 全會一致ト認メマス、弔辭ノ文案ハ議長ニ御一任  
ニ相成ツテ御異存ゴザイマセヌカ

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、故ニ議長ハ起草イタシマ  
シテ長谷場家へ贈ルコトニ致シマス、左様御承知ヲ請ヒマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第一、大正三年度歲入歲出總豫算案兩院  
協議委員ノ選舉

○子爵曾我祐準君 此協議委員ノ選舉ハ議長ノ御指定ニ任セタク考ヘマス、  
ドウカ諸君ノ御賛成ヲ請ヒマス

○男爵中川興長君 賛成

○江木千之君 賛成

○伯爵柳澤保惠君 賛成

○伯爵柳原義光君 賛成

〔其他「贊成」ト呼フ者多シ〕

○議長(公爵徳川家達君) 唯今ノ曾我子爵ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ  
〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、協議委員ノ氏名ヲ御報告  
ニ及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

大正三年度歲入歲出總豫算案兩院協議委員

公爵二條基弘君 伯爵柳澤保惠君 子爵曾我祐準君  
子爵入江爲守君 子爵牧野忠篤君 男爵有地品之允君  
男爵田健治郎君 男爵日賀田種太郎君 男爵吉川重吉君

桑田熊藏君

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第二、戸籍法改正法律案、政府提出、衆  
議院送付、第一讀會

〔左ノ送付文及議案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ載録ス以下之ニ  
倣フ〕

戸籍法改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付  
候也

大正三年三月十二日

衆議院議長長谷場純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

〔小字ハ衆議院ノ修正、一ハ  
同削除ノ符號、以下之ニ倣フ〕

戸籍法

第一章 戸籍事務ノ管掌

第二章 戸籍簿

第三章 戸籍ノ記載手續

第四章 届出

第一節 通則

第二節 出生

第三節 認知

第四節 養子縁組

第五節 養子離縁

第六節 婚姻

第七節 離婚

第八節 親權及ヒ後見

第九節 隱居

第十節 死亡及ヒ失踪

第十一節 家督相續

第十二節 推定家督相續人ノ廢除

## 第十三節 家督相續人ノ指定

## 第十四節 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶

## 第十五節 廢家及ヒ絶家

## 第十六節 分家及ヒ廢絶家再興

## 第十七節 戸籍簿

## 第十八節 氏名、族稱ノ變更及ヒ襲爵

## 第十九節 轉籍及ヒ就籍

## 第五章 戸籍ノ訂正

## 第六章 抗告

## 第七章 罰則

## 戸籍法 附 則

## 第一章 戸籍事務ノ管掌

## 第二條 戸籍ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス

## 第三條 市町村長ハ自己又ハ自己ト家ヲ同シクスル者ニ關スル戸籍事件ニ付キ其職務ヲ行フコトヲ得ス

## 第四條 戸籍事務ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ一人ノ判事又ハ監督判事之ヲ監督ス

## 第五條 戸籍事務ノ監督ニ付テハ司法行政ノ監督ニ關スル規定ヲ準用ス

## 第六條 市町村長カ其職務ノ執行ニ付キ届出人其他ノ者ニ損害ヲ加ヘタルトキハ其損害カ市町村長ノ故意又ハ重大ナル過失ニ因リテ生シタル場合ニ限リ之ヲ賠償スル責ニ任ス

## 第七條 市制第六條及ヒ第八十二條第三項ノ市ニ在リテハ本法中市、市長及ヒ市役所ニ關スル規定ハ區、區長及ヒ區役所ニ之ヲ準用ス

## 第八條 市制町村制ヲ施行セサル地ニ在リテハ本法中市町村、市町村長及ヒ市役所並ニ町村役場ニ關スル規定ハ之ニ相當スル地區、吏員及ヒ公署ニ之ヲ準用ス

## 第九條 前項ノ場合ニ於テ市町村長ノ職務ヲ行フ吏員ノ事務ヲ代理スル吏員ナキ地ニ在リテハ其地ヲ管轄スル地方裁判所ノ長司法大臣ノ認可ヲ得テ豫メ其代理人ヲ定ム

## 第七條 第二條及ヒ第四條ノ規定ハ戸籍事務ヲ管掌スル吏員ノ代理者ニ之

ヲ準用ス

第八條 本法ノ規定ニ依リテ納付スル手數料ハ之ヲ市町村ノ收入トス 手數料ノ額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第九條 戸籍ハ市町村ノ區域内ニ本籍ヲ定メタル者ニ付キ戸主ヲ本トシテ 戸籍簿編製ス 第二章 戸籍簿

第十條 戸籍ハ地番號ノ順序ニ從ヒ之ヲ編綴シテ帳簿ト爲ス 一戸毎ニ之ヲ作ル

正本ハ之ヲ市役所又ハ町村役場ニ備へ副本ハ監督區裁判所之ヲ保存ス

第十二條 新ニ戸籍ヲ作リタルトキハ市町村長ハ遲滯ナク其副本ヲ監督區 裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第十三條 戸籍簿ハ事變ヲ避クル爲メニスル場合ヲ除ク外市役所又ハ町村 役場外ニ之ヲ持出スコトヲ得ス

第十四條 戸籍簿ヲ閲覽シ又ハ戸籍ノ謄本若クハ抄本ノ交付ヲ受ケントス ル者ハ手數料ヲ納付シテ之ヲ請求スルコトヲ得

市町村長ハ正當ノ理由アル場合ニ限り前二項ノ請求ヲ拒ムコトヲ得此場 合ニ於テハ書面ヲ以テ其旨ヲ請求者ニ告知スルコトヲ要ス

謄本又ハ抄本ハ市町村長之ヲ作リ原本ト相違ナキ旨ヲ附記シ且之ニ職氏 名ヲ署シ職印ヲ押捺スルコトヲ要ス

第十五條 戸籍簿ノ全部若クハ一部カ滅失シタルトキ又ハ滅失ノ虞アルトキハ司法大臣ハ其再製又ハ補完ニ付キ必要ナル處分ヲ命ス但滅失ノ場 合ニ於テハ其旨ヲ告示スルコトヲ要ス

第十六條 家督相續、廢絶家其他ノ事由ニ因リ戸籍ノ全部ヲ抹消シタルトキハ其戸籍ハ之ヲ戸籍簿ヨリ除キ別ニ編綴シ除籍簿トシテ之ヲ保存ス

除籍簿ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第十七條 第十三條乃至第十五條ノ規定ハ除籍簿及ヒ除カレタル戸籍ニ之

ヲ準用ス

### 第三章 戸籍ノ記載手續

第十八條 戸籍ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 戸主、前戸主及ヒ家族ノ氏名

二 戸主ノ本籍

三 戸主カ華族又ハ士族ナルトキハ其族稱

四 家族カ戸主ト族稱ヲ異ニスルトキハ其族稱

五 戸主及ヒ家族ノ出生ノ年月日

六 戸主又ハ家族ト爲リタル原因及ヒ年月日

七 戸主竝ニ家族ノ實父母ノ氏名及ヒ戸主竝ニ家族ト實父母トノ續柄

八 戸主又ハ家族カ養子ナルトキハ其養親竝ニ實父母ノ氏名及ヒ養子トノ續柄

九 戸主ト前戸主及ヒ家族トノ續柄

十 家族ノ配偶者又ハ家族ヲ經テ戸主ト親族關係ヲ有スル者ニ付テハ

十一 他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者カ他ノ家族トノミ親族關係ヲ

有スルトキハ其續柄

十二 他家ヨリ入リテ戸主又ハ家族ト爲リタル者ニ付テハ其原籍、原

籍ノ戸主ノ氏名及ヒ其戸主ト戸主又ハ家族ト爲リタル者トノ續柄

十三 後見人又ハ保佐人アル者ニ付テハ後見人又ハ保佐人ノ氏名、本  
籍及ヒ其就職竝ニ任務終了ノ年月日

十四 其他戸主又ハ家族ノ身分ニ關スル事項

第十九條 戸主及ヒ家族ノ氏名ノ記載ハ左ノ順序ニ依ル

第一 戸主

第二 戸主ノ直系尊屬

第三 戸主ノ配偶者

第四 戸主ノ直系卑屬及其配偶者

第五 戸主ノ傍系親及ヒ其配偶者

第六 戸主ノ親族ニ非サル者

直系尊屬ノ間ニ在リテハ親等ノ遠キ者ヲ先ニシ直系卑屬又ハ傍系親ノ間ニ在リテハ親等ノ近キ者ヲ先ニス

戸籍ヲ<sup>編製シ</sup>タル後家族ト爲リタル者ニ付テハ戸籍ノ末尾ニ記載スルコト

### ヲ要ス

第二十條 戸籍ノ記載ハ届出、報告、申請若クハ請求、證書若クハ航海日誌ノ謄本又ハ裁判ニ依リ之ヲ爲ス

第二十一條 戸籍ニハ第十八條ニ掲タルモノノ外左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

### トヲ要ス

一 届出又ハ申請ノ受附ノ年月日、事件ノ本人ニ非サル者ノ届出又ハ

申請ニ係ル場合ニ於テハ届出人又ハ申請人ノ資格及ヒ氏名、他ノ市

町村長又ハ官廳ヨリ届書又ハ申請書ノ送付ヲ受ケタル場合ニ於テハ

其受附ノ年月日及ヒ發送者ノ職氏名

二 報告又ハ請求ノ受附ノ年月日及ヒ報告者又ハ請求者ノ職氏名

三 證書又ハ航海日誌ノ謄本ノ受附ノ年月日及ヒ證書又ハ航海日誌ノ

作製者竝ニ謄本發送者ノ職氏名

四 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第五 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第六 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第七 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第八 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第九 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第十 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第十一 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第十二 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第十三 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第十四 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第十五 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第十六 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第十七 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第十八 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第十九 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十一 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十二 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十三 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十四 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十五 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十六 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十七 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十八 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第二十九 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

第三十 戸籍ノ記載ヲ命シタル裁判ノ年月日及ヒ裁判所

ハ復籍拒絶ニ關スル事項ヲ抹消スルコトヲ要ス

第二十五條 家督相續人指定ノ届出アリタルトキハ其指定ヲ爲シタル者ノ戸籍ニ届出ノ要旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第二十六條 離籍又ハ廢家ニ因ル除籍ノ手續ハ離籍セラレタル者ノ一家創立文、廢家ヲ爲ス者ノ入籍ノ手續アリタル後之ヲ爲スコトヲ要ス

第二十七條 一戸ノ全員又ハ一戸内ノ一人若クハ數人ヲ戸籍ヨリ除クヘキトキハ事由ヲ記載シテ戸籍ノ全部又ハ一部ヲ抹消スルコトヲ要ス

除籍セラルヘキ者ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ前項ノ手續ハ入籍ノ通知ヲ受ケタル後之ヲ爲スコトヲ要ス 但入籍地ノ市町村長カ届出ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第二十八條 戸籍ノ記載ヲ爲スニハ略字又ハ符號ヲ用キス字畫明瞭ナルコトヲ要ス

年月日ヲ記載スルニハ壹貳參拾ノ文字ヲ用ウルコトヲ要ス

文字ハ之ヲ改竄スルコトヲ得ス若シ訂正、插入又ハ削除ヲ爲シタルトキハ其字數ヲ欄外ニ記載シ又ハ文字ノ前後ニ括弧ヲ附シ市町村長之ニ認印シ其削除ニ係ル文字ハ尙ホ明カニ讀得ヘキ爲メ字體ヲ存スルコトヲ要ス

第二十九條 戸籍ノ記載ヲ爲ス毎ニ市町村長ハ其文末ニ認印スルコトヲ要ス

第三十條 戸籍用紙中ノ一部分ヲ用キ盡シタルトキハ掛紙ヲ爲スコトヲ得此場合ニ於テハ市町村長ハ職印ヲ以テ掛紙ト本紙トニ契印ヲ爲スコトヲ要ス

第三十一條 届出事件ノ本人ノ本籍カ一ノ市町村ヨリ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後遲滞ナク届書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十二條 前條ノ場合ヲ除ク外他ノ市町村長カ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ必アル場合ニ於テハ届出ヲ受理シタル市町村長ハ遲滞ナク届書ノ一通ヲ他ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第三十三條 本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ届出ヲ受理シタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタル旨又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタル旨ノ届出アリタル場合ニ於テハ前二條ノ規定ハ其届書及ヒ前ニ受理シタル

届書ニ付キ之ヲ適用ス

第三十四條 前三條ノ規定ハ届書ニ非サル書面ニ因リ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ市町村長ハ其受附ケタル書面ノ謄本ヲ作リ其謄本ヲ送付スルコトヲ要ス

第三十五條 届出事件ノ本人ノ本籍カ他ノ市町村ニ轉屬スル場合ニ於テハ入籍地ノ市町村長ハ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後除籍地ノ市町村長ニ入籍ノ通知ヲ爲スコトヲ要ス但入籍地ノ市町村長カ届出ヲ受理シタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ規定ハ市町村長カ一家創立ノ届出ニ因リ除籍ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 戸籍ノ記載手續ヲ完了シタルトキハ届書其他受理シタル書類ハ本籍人及ヒ非本籍人ニ區別シ本籍人ニ關スルモノハ戸籍編綴ノ順序ニ從ヒテ之ヲ編綴シ非本籍人ニ關スルモノハ事件ノ種類ニ依リ各別ニ之ヲ編綴シ且各目録ヲ附スルコトヲ要ス

戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ受理シタル書類ハ之ヲ合綴シ且目録ヲ附スルコトヲ要ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ受理シタル書類亦同シ

第三十七條 前條第一項ノ書類ハ一个月毎ニ遲滞ナク之ヲ監督區裁判所ニ送付スルコトヲ要ス

第三十八條 第三十六條ノ書類ノ保存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

第三十九條 戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラナルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遺漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ市町村長ハ遲滞ナク届出人又ハ届出事件ノ本人ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス但其錯誤又ハ遺漏カ市町村長ノ過誤ニ出テタルトキハ此限ニ在ラス

前項ノ通知ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ通知ヲ爲シタルモ戸籍訂正ノ申請ヲ爲ス者ナキトキハ市町村長ハ監督區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ得前項但書ノ場合亦同シ

裁判所其他ノ官廳、檢事又ハ吏員カ其職務上戸籍ノ記載ニ錯誤又ハ遺漏アルコトヲ知リタルトキハ遲滞ナク届出事件ノ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ通知スルコトヲ要ス

第四十條 同一ノ事件ニ付キ數人ノ届出義務者ヨリ各別ニ届出アリタル

場合ニ於テ後ニ受理シタル届出ニ因リテ戸籍ノ記載ヲ爲シタルトキハ前ニ受理シタル届出ニ基キ其戸籍ノ訂正ヲ爲スコトヲ要ス

第四十一條 行政區畫又ハ土地ノ名稱ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ハ訂正セラレタルモノト看做ス但其記載ヲ更正スルコトヲ妨ケス

地番號ノ變更アリタルトキハ戸籍ノ記載ヲ更正スルコトヲ要ス

第四十二條 市町村ノ區域ノ變更アリタルトキハ戸籍及ヒ之ニ關スル書類ハ之ヲ當該市町村ニ引繼クトヲ要ス

## 第四章 届出

### 第一節 通則

第四十三條 届出ハ届出事件ノ本人ノ本籍地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第四十四條 日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル届出ハ其寄留地又ハ届出人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

所在地ノ市町村長カ届書ヲ受理シタルトキハ之ヲ寄留地ノ市町村長ニ送付スルコトヲ要ス

第四十五條 本籍分明ナラサル者又ハ本籍ナキ者ニ付キ届出アリタル後其者ノ本籍カ分明ト爲リタルトキ又ハ其者カ本籍ヲ有スルニ至リタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ届出事

件ヲ表示シテ届出ヲ受理シタル市町村長ニ其旨ヲ届出ヅルコトヲ要ス  
第四十六條 届出ハ書面又ハ口頭ヲ以テ之ヲ爲スコトヲ得  
第四十七條 届書ニハ左ノ事項ヲ記載シ届出人之ニ署名、捺印スルコトヲ要ス

### 要ス

#### 一 届出事件

##### 二 届出ノ年月日

##### 三 届出人ノ出生ノ年月日及ヒ本籍

##### 四 届出人、届出事件ノ本人及ヒ其本人ノ父母ノ職業

届出事件ノ本人ニ隨ヒテ家ヲ去リ、他家ニ入り其他身分ニ變更スル者アル場合ニ於テハ届書ニ其者ノ氏名、出生ノ年月日並

ニ本籍及ヒ身分變更ノ事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十八條 届出人ト届出事件ノ本人ト異ナルトキハ届書ニ其續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

届出人カ家族ナルトキハ届書ニ戸主ノ氏名及ヒ届出人ト戸主トノ續柄ヲ記載スルコトヲ要ス

第四十九條 届出ヲ爲スヘキ者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ親權ヲ行フ者又ハ後見人ヲ以テ届出義務者トス但出生、死亡其他單純ノ事實ニ關スル届出ハ未成年者又ハ禁治產者モ亦之ヲ爲スコトヲ得

親權ヲ行フ者又ハ後見人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 届出ヲ爲スヘキ者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二 無能力ノ原因

三 届出人カ親權ヲ行フ者又ハ後見人ナルコト

第五十條 無能力者カ其法定代理人ノ同意ヲ得スシテ爲スコトヲ得ヘキ行爲ニ付テハ無能力者之ヲ届出ヅルコトヲ要ス

禁治產者カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ届出事件ノ性質及ヒ效果ヲ理會スルニ足ルヘキ能力ヲ有スルコトヲ證スヘキ診斷書ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十一條 證人ヲ要スル事件ノ届出ニ付テハ證人ハ届書ニ出生ノ年月日及ヒ本籍ヲ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

第五十二條 届出人、届出事件ノ本人又ハ證人カ本籍ニ在ラサルトキハ届書ニ其所在ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十三條 届書ニ記載スヘキ事項ニシテ存セサルモノ又ハ知レサルモノアルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス但市町村長ハ特ニ重要ト認ムル事項ヲ記載セサル届書ヲ受理スルコトヲ得ス

第五十四條 届書ニハ本法其他ノ法令ニ定メタル事項ノ外戸籍ニ記載スヘキ事項ヲ明瞭ナラシムル爲メ必要ナルモノハ之ヲ記載スルコトヲ要ス

第五十五條 第二十八條第一項及ヒ第三項ノ規定ハ届書ニ之ヲ準用ス

第五十六條 二箇所以上ノ市役所又ハ町村役場ニ於テ戸籍ノ記載ヲ爲スヘキ場合ニ於テハ市役所又ハ町村役場ノ數ト同數ノ届書ヲ提出スルコトヲ要ス

本籍地外ニ於テ届出ヲ爲ストキハ前項ノ規定ニ依ルモノノ外尙ホ一通ノ届書ヲ提出スルコトヲ要ス

前二項ノ場合ニ於テ相當ト認ムルトキハ市町村長ハ届書ノ謄本ヲ作リ之

ヲ以テ届書ニ代フルコトヲ得

第五十七條 口頭ヲ以テ届出ヲ爲スニハ届出人ハ市役所又ハ町村役場ニ出頭シ届書ニ記載スヘキ事項ヲ陳述スルコトヲ要ス

市町村長ハ届出人ノ陳述ヲ筆記シ届出ノ年月日ヲ記載シテ届出人ニ讀聞カセ且届出人ヲシテ其書面ニ署名、捺印セシムルコトヲ要ス

届出人カ疾病其他ノ事故ニ因リ出頭スルコト能ハサルトキハ代理人ヲ以テ届出ヲ爲スコトヲ得

第五十八條 届出事件ニ付キ戸主、父母、後見人、親族會其他ノ者ノ同意、承諾又ハ承認ヲ要スルトキハ届書ニ其同意、承諾又ハ承認ヲ證スル書面ヲ添附スルコトヲ要ス且同意、承諾又ハ承認ヲ爲シタル者ヲシテ届書ニ其旨ヲ附記シ署名、捺印セシムルヲ以テ足ル

届出事件ニ付キ官廳ノ許可ヲ要スルトキハ届書ニ許可書ノ謄本ヲ添附スルコトヲ要ス

第五十九條 届書ニ關スル規定ハ第五十七條第二項及ヒ前條第一項ノ書面

第六十條 外國ニ在ル日本人ハ本法ノ規定ニ從ヒ其國ニ駐在スル日本ノ大使公使又ハ領事ニ届出ヲ爲スコトヲ得

第六十一條 外國ニ在ル日本人カ其國ノ方式ニ從ヒ届出事件ニ關スル證書ヲ作ラシメタルトキハ一个月内ニ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ其證書ノ謄本ヲ提出スルコトヲ要ス

大使、公使又ハ領事カ其國ニ駐在セサルトキハ一个月内ニ本籍地ノ市町

村長ニ證書ノ謄本ヲ發送スルコトヲ要ス  
第六十二條 大使、公使又ハ領事ハ前二條ノ規定ニ依リ受理シタル書類ヲ一个月内ニ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第六十三條 届出期間ハ届出事件發生ノ日ヨリ之ヲ起算ス

裁判確定ノ日ヨリ期間ヲ起算スヘキ場合ニ於テ裁判カ送達又ハ交付前確定シタルトキハ其送達又ハ交付ノ日ヨリ之ヲ起算ス

第六十四條 市町村長カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタルトキハ相當ノ期間ヲ定メ届出義務者ニ對シ其期間内ニ届出ヲ爲スヘキ旨ヲ催告スルコトヲ要ス

届出義務者カ前項ノ期間内ニ届出ヲ爲サルトキハ市町村長ハ更ニ相當ノ期間ヲ定メテ催告ヲ爲スコトヲ得

第三十九條 第二項ノ規定ハ前二項ノ催告ヲ爲スコト能ハサル場合及ヒ催告ヲ爲スモ届出ヲ爲サル場合ニ、同條第三項ノ規定ハ裁判所其官廳、檢事又ハ吏員カ届出ヲ怠リタル者アルコトヲ知リタル場合ニ之ヲ準用ス

第六十五條 市町村長カ届出ヲ受理シタル場合ニ於テ届書ニ欠缺アル爲メ戸籍ノ記載ヲ爲スコト能ハサルトキハ届出義務者ヲシテ其追完ヲ爲サシムルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第六十六條 届出期間經過後ノ届出ト雖モ市町村長ハ之ヲ受理スルコトヲ要ス

第六十七條 届出人ハ届出ノ受理又ハ不受理ノ證明書ヲ請求スルコトヲ得但受理ノ證明書ヲ請求スル場合ニ於テハ手數料ヲ納付スルコトヲ要ス

利害關係人ハ手數料ヲ納付シテ第三十六條第二項ノ書類ノ閱覽ヲ請求シ又ハ其書類ニ記載シタル事項ニ付キ證明書ヲ請求スルコトヲ得

第十四條 第二項ノ規定ハ前二項ノ場合ニ之ヲ準用ス  
利害關係人ハ特別ノ理由アル場合ニ限り第三十七條ノ書類ノ閱覽ヲ請求スルコトヲ得

第六十八條 届出人其他ノ者カ署名、捺印スヘキ場合ニ於テ印ヲ有セサルトキハ署名スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル署名スルコト能ハス且印ヲ有セサルトキハ氏名ヲ代署セシメ捺印スルヲ以テ足ル

前項ノ場合ニ於テハ書面ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

## 第二節 出生

第六十九條 出生ノ届出ハ十四日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス  
届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 子ノ<sup>○氏</sup>名及ヒ男女ノ別

二 子カ私生子又ハ庶子ナルトキハ其旨

三 出生ノ年月日時及ヒ場所

四 父母ノ氏名及ヒ本籍及ヒ職業

五 子ノ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍  
六 子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因並ニ場所

七 日本ノ國籍ヲ有セサル者ノ子ナルトキハ其旨

第七十條 出生ノ届出ハ出生地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第七十一條 汽車又ハ航海日誌ヲ備ヘサル船舶中ニテ出生アリタル場合ニ於テハ到著地ニ於テ届出ヲ爲スコトヲ得

第七十二條 嫁出子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ父カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合又ハ民法第七百三十四條第一項、第二項但書ノ場合ニ於テハ母之ヲ爲スコトヲ要ス

庶子出生ノ届出ハ父之ヲ爲シ私生子出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス」前二項ノ規定ニ依リ届出ヲ爲スヘキ者カ届出ヲ爲スコト能ハサル場合ニ於テハ左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一 戸主

第二 同居者

第三 分娩ニ立會ヒタル醫師又ハ産婆

第四 分娩ヲ介抱シタル者

第七十三條 嫁出子否認ノ訴ヲ提起シタルトキト雖モ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十四條 民法第八百二十一條ノ規定ニ依リ裁判所カ父ヲ定ムヘキトキハ出生ノ届出ハ母之ヲ爲スコトヲ要ス此場合ニ於テハ届書ニ父ノ未定ナル事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第七十二條第三項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第七十五條 航海中ニ出生アリタルトキハ艦長又ハ船長ハ二十四時内ニ第六十九條第二項ニ掲ケタル事項ヲ航海日誌ニ記載シテ署名、捺印スルコトヲ要ス

前項ノ手續ヲ爲シタル後艦船カ日本ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

船舶カ外國ノ港ニ著シタルトキハ艦長又ハ船長ハ遲滞ナク出生ニ關スル航海日誌ノ謄本ヲ其國ニ駐在スル日本ノ大使、公使又ハ領事ニ發送シ大使、公使又ハ領事ハ一个月内ニ之ヲ外務大臣ニ發送シ外務大臣ハ十日内ニ之ヲ本籍地ノ市町村長ニ發送スルコトヲ要ス

第七十六條 病院、監獄其他ノ公設所ニ於テ出生アリタル場合ニ於テ父母

共ニ届出ヲ爲スコト能ハサルトキハ公設所ノ長又ハ管理人届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十七條 出生ノ届出前ニ子カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ出生ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第七十八條 壬兒ヲ發見シタル者又ハ壬兒發見ノ申告ヲ受ケタル警察官ハ二十四時内ニ其旨ヲ市町村長ニ申出ツルコトヲ要ス

第七十九條 ○<sup>日</sup>本籍ヲ調書ニ記載スルコトヲ要ス其調書ハ之ヲ届書ト看做スノ規定ニ依ル届出ヲ爲シ且戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第八十條 第七十八條第一項又ハ前條ノ手續ヲ爲ス前ニ壬兒カ死亡シタルトキハ死亡ノ届出ト共ニ其手續ヲ爲スコトヲ要ス

第三節 認知

第八十一條 私生子認知ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 子ノ氏名、男女ノ別、出生ノ年月日及ヒ本籍

二 死亡シタル子ヲ認知スル場合ニ於テハ死亡ノ年月日

三 父カ認知ヲ爲ス場合ニ於テハ母ノ氏名及ヒ本籍及ヒ父ノ職業

四 子カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主ト子トノ續柄

第八十二條 胎内ニ在ル子ヲ認知スル場合ニ於テハ届書ニ其旨、母ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載シ認知者ノ本籍地ニ於テ之ヲ届出ツルコトヲ要ス

第八十三條 父カ庶子出生ノ届出ヲ爲シタルトキハ其届出ハ認知届出ノ效力ヲ有ス民法第八百三十六條第二項ノ規定ニ依リ嫁出子タルヘキ者ニ付キ父母カ嫡出子出生ノ届出ヲ爲シタルトキ亦同シ

第八十四條 認知ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第八十一條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十五條 遺言ニ依ル認知ノ場合ニ於テハ遺言執行者ハ其就職ノ日ヨリ十日内ニ認知ニ關スル遺言ノ謄本ヲ添附シ第八十一條又ハ第八十二條ノ規定ニ從ヒテ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十六條 認知セラレタル胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ出生届出義務

者ハ其事實ヲ知リタル日ヨリ十四日内ニ認知ノ届出地ニ於テ其旨ヲ届出

ツルコトヲ要ス但遺言執行者カ前條ノ届出ヲ爲シタル場合ニ於テハ遺言

執行人其届出ヲ爲スコトヲ要ス

第八十七條 第五十七條第三項ノ規定ハ第八十一條及ヒ第八十二條ノ届出

ニハ之ヲ適用セス

#### 第四節 養子緣組

第八十八條 緣組ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍及ヒ職業

二 養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

婚家又ハ養家ヨリ更ニ縁組ニ因リテ他家ニ入ル者ニ付テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外實家ノ戸主、前養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第八十九條 配偶者ノ一方カ雙方ノ名義ヲ以テ縁組ヲ爲ス場合ニ於テハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十條 民法第八百四十三條ノ規定ニ依リテ縁組ノ承諾ヲ爲シタル場合ニ於テハ届出ハ其承諾ヲ爲スコトヲ得

第九十一條 民法第八百四十八條ノ規定ニ依リ縁組ノ届出ヲ爲ストキハ縁組ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第九十二條 緣組ノ届出ハ養親ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第九十三條 緣組取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ第五十條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第九十九條 第五十七條第三項ノ規定ハ第九十五条乃至第九十七条ノ届出ニハ之ヲ適用セス

#### 第六節 婚姻

第一百條 婚姻ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍及ヒ職業

二 父母ノ氏名及ヒ本籍

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名、本籍及ヒ戸主トノ續柄

四 入夫婚姻又ハ壻養子縁組ナルトキハ其旨

五 入夫婚姻ノ場合ニ於テ入夫カ戸主ト爲ルトキハ其旨

当事者ノ一方カ婚家又ハ壻養子縁組ノ場合ニ於テハ前項ニ掲ケタル事項ノ外實家ノ戸主、養親ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百一條 婚姻ノ届出ハ夫ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻又ハ壻養子縁組ノ場合ニ於テハ妻ノ本籍地又ハ所在地ニ於テ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

五 裁判確定ノ日

第九十四条 第五十七條第三項ノ規定ハ縁組ノ届出ニハ之ヲ適用セス

#### 第五節 養子離縁

第九十五条 離縁ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名及ヒ本籍及ヒ職業

二 養子ノ實父母ノ氏名及ヒ本籍

三 養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因並ニ場所但實家

四 養子ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

五 養子カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因並ニ場所但實家

ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

用ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ裁判確定ノ後遲滞ナク戸籍記載ノ請求ヲ爲スコトヲ要ス

第一百三條 第五十七條第三項ノ規定ハ婚姻ノ届出ニハ之ヲ適用セス

#### 第七節 離婚

第一百四條 離婚ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 當事者ノ氏名及ヒ本籍及ヒ職業

二 父母ノ氏名及ヒ本籍

三 當事者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

四 婚家ヲ去ル者ノ復籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

五 婚家ヲ去ル者カ一家ヲ創立スルトキハ其旨及ヒ創立ノ原因並ニ場所但實家ヲ再興スルトキハ其旨及ヒ再興ノ場所

第一百五條 離婚ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ前條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百六條 第五十七條第三項ノ規定ハ第一百四條ノ届出ニハ之ヲ適用セス

#### 第八節 親權及ヒ後見

第一百七條 父カ親權又ハ管理權ノ喪失ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ母其權利ヲ行フトキハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス其届書ニハ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百八條 第九十三條第一項ノ規定ハ失權宣告取消ノ裁判カ確定シタル場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ届書ニ裁判確定ノ日ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百九條 後見開始ノ届出ハ後見人其就職ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 後見人及ヒ被後見人ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二 被後見人カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

三 後見開始ノ原因及ヒ年月日

四 後見人就職ノ年月日

第一百十條 後見人更迭ノ場合ニ於テハ後任者ハ就職ノ日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス此場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第一百十一條 遺言ニ依ル後見人指定ノ場合ニ於テハ指定ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

後見人選任ノ場合ニ於テハ選任ヲ證スル書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第一百十二條 後見終了ノ原因及ヒ年月日

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 被後見人ノ氏名及ヒ本籍

二 後見終了ノ原因及ヒ年月日

第一百十三條 前四條ノ届出ハ被後見人ノ本籍地又ハ後見人ノ所在地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第一百四條 後見人ニ關スル本節ノ規定ハ保佐人ニ之ヲ準用ス

#### 第九節 隱居

第一百五條 隱居ノ届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 隱居者ノ氏名、出生ノ年月日及ヒ本籍

二 家督相續人ノ氏名、出生ノ年月日並ニ本籍及ヒ家督相續人ト隠居者トノ續柄

三 隱居ノ原因

#### 第十節 死亡及ヒ失踪

第一百六條 死亡ノ届出ハ届出義務者カ死亡ノ事實ヲ知リタル日ヨリ五日

内ニ診斷書若クハ検案書又ハ檢視調書ノ謄本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 死亡者ノ氏名及ヒ本籍及ヒ職業

二 死亡ノ年月日時及ヒ場所

三 死亡者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト死亡者トノ續柄

第一百七條 左ニ掲ケタル者ハ其順序ニ從ヒ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

但順序ニ拘ハラス届出ヲ爲スコトヲ得

第一 戸主

第二 同居者

第三 家主、地主又ハ家屋若クハ土地ノ管理人

第一百八條 死亡ノ届出ハ死亡地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第百十九條 水難、火災其他ノ事變ニ因リ死亡シタル者アル場合ニ於テハ其取調ヲ爲シタル官廳又ハ公署ハ死亡者ノ本籍地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十條 死刑ノ執行アリタルトキハ監獄ノ長ハ遅滞ナク監獄所在地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

前項ノ規定ハ在監中死亡シタル者ノ引取人ナキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ報告書ニ診斷書又ハ検案書ヲ添附スルコトヲ要ス

第百二十一條 前二條ノ報告書ニハ第百十六條第二項ニ掲ケタル事項ヲ記載スルコトヲ要ス

第百二十二條 死亡者ノ本籍分明ナラス又ハ死亡者ヲ認識スルコト能ハサル場合ニ於テハ警察官ハ檢視調書ヲ作リ之ヲ添附シテ遅滞ナク死亡地ノ市町村長ニ死亡ノ報告ヲ爲スコトヲ要ス

死亡者ノ本籍分明ナルニ至リ又ハ死亡者ヲ認識スルコトヲ得ルニ至リタルトキハ警察官ハ遲滞ナク其旨ヲ報告スルコトヲ要ス

第一項ノ報告アリタル後第百十七條第一號及ヒ第二號ニ掲ケタル者カ死亡者ヲ認識シタルトキハ十日内ニ死亡ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十三條 第七十一條、第七十五條及ヒ第七十六條ノ規定ハ死亡ノ届出ニ之ヲ準用ス

第百二十四條 失踪宣告ノ届出ハ其宣告ヲ請求シタル者裁判ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ勝本ヲ添附シテ之ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 失踪者ノ氏名及ヒ本籍
- 二 民法第三十條ニ定メタル期間満了ノ日
- 三 失踪者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ戸主ト失踪者トノ續柄

第十一節 家督相續

第一百二十五條 家督相續ノ届出ハ戸主ト爲リタル者相續ノ事實ヲ知リタルヨリ一个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要ス但入夫婚姻ニ因リテ戸主ト爲リタル者ハ此限ニ在ラス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 家督相續ノ原因及ヒ戸主ト爲リタル年月日
- 二 前戸主ノ氏名及ヒ前戸主ト戸主トノ續柄

第一百二十六條 選定ニ因ル家督相續人カ届出ヲ爲ス場合ニ於テハ届書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第百二十七條 家督相續人カ胎兒ナルトキハ母ハ相續ノ開始アリタルコトヲ知リタルヨリ一个月内ニ診斷書ヲ添附シ家督相續ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十八條 前條ノ届出ヲ爲シタル後胎兒カ死體ニテ生レタルトキハ母ハ一个月内ニ醫師又ハ産婆ノ検案書ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

母カ前項ノ届出ヲ爲ササルトキハ家督相續人ハ分娩ノ事實ヲ知リタル日ヨリ一个月内ニ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百二十九條 家督相續回復ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ一个月内ニ裁判ノ勝本ヲ添附シ第百二十五條ノ規定ニ依ル届出ヲ爲スコトヲ要ス

第百三十條 第百二十五條及ヒ前二條ノ届出ハ被相續人ノ本籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ス

第十二節 推定家督相續人ノ廢除

第一百三十一條 推定家督相續人廢除ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ勝本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

- 一 廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍
- 二 廉除ノ原因

三 裁判確定ノ日

第一百三十二條 廉除取消ノ裁判カ確定シタルトキハ訴ヲ提起シタル者ハ裁判確定ノ日ヨリ十日内ニ裁判ノ勝本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 廢除セラレタル者ノ氏名及ヒ本籍

二 裁判確定ノ日

### 第十三節 家督相續人ノ指定

第一百三十三條 家督相續人指定ノ届書ニハ指定セラレタル者ノ氏名及ヒ本

籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百三十四條 家督相續人指定取消ノ届書ニハ指定家督相續人ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百三十五條 遺言ニ依ル家督相續人ノ指定又ハ指定取消ノ場合ニ於テハ

指定又ハ指定取消ニ關スル遺言ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第一百三十六條 指定家督相續人カ死亡シタルトキハ指定者ハ其事實ヲ知リ

タル日ヨリ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

### 第十四節 入籍、離籍及ヒ復籍拒絶

第一百三十七條 民法第七百三十七條ノ規定ニ依リ家族ト爲ラント欲スル者

ハ左ノ事項ヲ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 入籍スヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二 入籍スヘキ家ノ戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

三 原籍ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト入籍スヘキ者トノ續柄

第一百三十八條 民法第七百三十八條ノ規定ニ依リ自己ノ親族ヲ家族ト爲サ

ント欲スル者ハ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

届書ニハ前條ニ掲ケタル事項ノ外入籍スヘキ者ノ氏名及ヒ出生ノ年月日

ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百三十九條 戸主カ其家族ヲ離籍セント欲スルトキハ左ノ事項ヲ記載シテ其旨ヲ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 離籍セラルヘキ者ノ氏名

二 離籍ノ原因

第一百四十條 離籍ニ因リテ一家ヲ創立シタル者ハ其事實ヲ知リタル日ヨ

リ十日内ニ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 離籍者ノ氏名及ヒ本籍

二 離籍者ト離籍セラレタル者トノ續柄

三 離籍ノ原因及ヒ年月日

第一百四十一條 戸主カ其家族タリシ者ノ復籍ヲ拒マント欲スルトキハ左ノ事項ヲ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 復籍ヲ拒マルヘキ者ノ氏名及ヒ本籍

二 復籍ヲ拒絶ノ原因

三 復籍拒絶ノ原因

第一百四十二條 復籍拒絶又ハ復籍スヘキ家ノ廢絶ニ因リテ一家ヲ創立シタル者カ縁組若クハ婚姻ノ取消又ハ離縁若クハ離婚ノ届書ニ其場所ヲ記載セサリシトキハ一家創立ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ其届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要ス

一 復籍拒絶者又ハ廢絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二 復籍拒絶ノ原因及ヒ年月日又ハ廢絶ノ年月日

第三十五節 廢家及ヒ絶家

第一百四十三條 廉家ヲ爲サント欲スル者ハ其者カ入ルヘキ家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍ヲ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス但家督相續ニ因リ

テ戸主ト爲リタル者ニ非サルトキハ其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百四十四條 絶家ノ家族ハ絶家ノ事實ヲ知リタル日ヨリ十日内ニ一家創立ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

第一百四十五條 分家ヲ爲サント欲スル者ハ左ノ事項ヲ記載シテ其旨ヲ記載シテ其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

一 本家ノ戸主ノ氏名、本籍及ヒ其戸主ト分家ノ戸主トノ續柄

二 民法第七百四十三條第二項ノ規定ニ依リ分家ノ家族ト爲ルヘキ者アルトキハ其氏名及ヒ出生ノ年月日

三 分家ノ戸主及ヒ家族ト爲ルヘキ者ノ父母ノ氏名及ヒ本籍

其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百四十六條 廉絶家ヲ再興セント欲スル者ハ左ノ事項ヲ記載シテ

其旨ヲ記載スルコトヲ要ス

一 廢絶家ノ戸主ノ氏名及ヒ本籍

二 廉絶ノ年月日

三 廉絶ト再興ヲ爲ス者ノ家トノ續柄

四 再興ヲ爲ス者カ家族ナルトキハ戸主ノ氏名及ヒ本籍

第十七節 國籍ノ得喪

第一百四十七條 外國人カ養子縁組又ハ婚姻ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知

ス  
キトキハ緣組又ハ婚姻ノ届書ニ國籍取得者ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要

第一百四十八條 外國人カ認知ニ因リテ日本ノ國籍ヲ取得スヘキトキハ認知

ノ届書ニ子ノ原國籍ヲ記載スルコトヲ要

認知者カ父ナルトキハ届書ニ母ノ國籍ヲ記載スルコトヲ要

第一百四十九條 歸化ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要

一 歸化ヲ爲シタル者ノ原國籍

二 父母ノ氏名及ヒ國籍

三 許可ノ年月日

四 歸化ヲ爲シタル者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シタル者アルトキハ其

○名、出生ノ年月日及ヒ其者ト歸化人トノ續柄

歸化ヲ爲シタル者ノ妻又ハ子カ歸化人ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得セサルト

キハ届書ニ其事由ヲ記載スルコトヲ要

第一百五十條 國籍喪失ノ届出ハ戸主又ハ家督相續人其事實ヲ知リタル日

ヨリ一个月内ニ之ヲ爲スコトヲ要

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要

一 國籍喪失者ノ氏名及ヒ本籍

二 國籍喪失ノ原因及ヒ年月日

三 新ニ國籍ヲ取得シタルトキハ其國籍

第一百五十一條 國籍喪失者カ滿十七年以上ノ男子ナルトキハ其者カ陸海軍

ノ現役ニ服シタルコト又ハ之ニ服スル義務ナキコトヲ證スヘキ書面ヲ届

書ニ添附スルコトヲ要

國籍喪失者カ日本ノ官職ヲ帶ヒタル者ナルトキハ其官職ヲ失ヒタルコトヲ證スヘキ書面ヲ届書ニ添附スルコトヲ要

第一百五十二條 國籍回復ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要

ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要

一 日本ノ國籍ヲ失ヒタル原因及ヒ年月日

二 國籍回復前ニ有セシ國籍

三 許可ノ年月日

四 國籍回復者ト共ニ日本ノ國籍ヲ取得シ又ハ之ヲ回復シタル者アル  
トキハ其○名、出生ノ年月日及ヒ其者ト國籍回復者トノ續柄

第一百四十九條第三項ノ規定ハ前項ノ届出ニ之ヲ準用ス

第十八節 氏名、族稱ノ變更及ヒ襲爵

第一百五十三條 氏名變更ノ届出ハ許可ノ日ヨリ十日内ニ之ヲ爲スコトヲ要

ス

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要

一 變更前ノ氏名

二 變更シタル氏名

三 許可ノ年月日

第一百五十四條 新ニ華族ニ列セラレ又ハ士族ニ編入セラレタル者ハ十日内

ニ辭令書又ハ許可書ノ謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要

届書ニハ左ノ事項ヲ記載スルコトヲ要

一 新舊族稱

二 族稱變更ノ原因

三 辞令又ハ許可ノ年月日

第一百五十五條 酎ヲ襲キタル者ハ辭令書ノ交付ヲ受ケタル日ヨリ十日内ニ

其謄本ヲ添附シ其旨ヲ届出ツルコトヲ要

届書ニハ辭令ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要

第一百五十六條 華族又ハ士族ノ族稱ヲ喪失シタル場合ニ於テハ戸主ハ十日内ニ其旨ヲ届出ツルコトヲ要

届書ニハ族稱喪失ノ原因及ヒ年月日ヲ記載スルコトヲ要

第一百五十七條 前條ノ規定ハ處刑ニ因リテ族稱ヲ喪失シタル場合ニハ之ヲ適用セス此場合ニ於テハ裁判所ハ本人ノ本籍地ノ市町村長ニ其旨ヲ報告

スルコトヲ要

## 第十九節 転籍及ヒ就籍

第一百五十八條 転籍セント欲スルトキハ原籍及ヒ新本籍ヲ届書ニ記載シ戸主其旨ヲ届出ツルコトヲ要ス

他ノ市町村ニ轉籍スル場合ニ於テハ戸籍ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

第一百五十九條 転籍ノ届出ハ轉籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第一百六十條 本籍ヲ有セナル者ハ其就籍セント欲スル地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ十日内ニ就籍ノ届出ヲ爲スコトヲ要ス

届書ニハ第十八條ニ掲ケタル事項ノ外就籍許可ノ年月日ヲ記載スルコトヲ要ス

第一百六十一條 就籍ノ届出ハ就籍地ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得

第一百六十二條 就籍許可ノ裁判ヲ得タル者カ就籍ノ届出ヲ爲サナルトキハ戸主之ヲ爲スコトヲ要ス

第一百六十三條 第百六十條ノ規定ハ確定判決ニ因リテ就籍ノ届出ヲ爲スヘキ場合ニ之ヲ準用ス此場合ニ於テハ判決ノ謄本ヲ届書ニ添附スルコトヲ要ス

## 第五章 戸籍ノ訂正

第一百六十四條 戸籍ノ記載カ法律上許スヘカラサルモノナルコト又ハ其記載ニ錯誤若クハ遗漏アルコトヲ發見シタル場合ニ於テハ利害關係人ハ其戸籍ノ存スル市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコト得

第一百六十五條 届出ニ因リ效力ヲ生スヘキ行爲ニ付キ戸籍ノ記載ヲ爲シタル後其行爲ノ無效ナルコトヲ發見シタルトキハ届出人又ハ届出事件ノ本人ハ前條ノ區裁判所ノ許可ヲ得テ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ得

第一百六十六條 前二條ノ許可ノ裁判アリタルトキハ一个月内ニ其謄本ヲ添附シ戸籍ノ訂正ヲ申請スルコトヲ要ス

第一百六十七條 確定判決ニ因リ戸籍ノ訂正ヲ爲スヘキトキハ訴ヲ提起シタル者ハ判決確定ノ日ヨリ一个月内ニ判決ノ謄本ヲ添附シ訂正ノ申請ヲ爲スコトヲ要ス

檢事カ訴ヲ提起シタル場合ニ於テハ判決確定ノ後遲滞ナク戸籍ノ訂正ヲ請求スルコトヲ要ス

第一百六十八條 第四十三條、第四十六條乃至第五十條、第五十二條乃至第五十九條及第六十三條乃至第六十八條ノ規定ハ戸籍訂正ノ申請ニ之ヲ準用ス

## 第六章 抗告

第一百六十九條 戸籍事件ニ付キ市町村長ノ處分ヲ不當トスル者ハ市役所又ハ町村役場ノ所在地ヲ管轄スル區裁判所ニ抗告ヲ爲スコトヲ得

第一百七十條 抗告ハ管轄區裁判所ニ抗告状ヲ提出シテ之ヲ爲ス

抗告状ニハ届書又ハ申請書及ヒ關係書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第一百七十一條 抗告ヲ受ケタル裁判所ハ抗告ニ關スル書類ヲ市町村長ニ送付シテ其意見ヲ求ムルコトヲ要ス

第一百七十二條 市町村長ハ抗告ヲ理由アリト認ムルトキハ處分ヲ變更シテ其旨ヲ裁判所及ヒ抗告人ニ通知スルコトヲ要ス

抗告ヲ理由ナシト認ムルトキハ意見ヲ附シ送付ヲ受ケタル日ヨリ五日内ニ書類ヲ裁判所ニ返還スルコトヲ要ス

第一百七十三條 裁判所ハ抗告ヲ理由ナシトスルトキハ之ヲ却下シ理由アリトスルトキハ市町村長ニ相當ノ處分ヲ命スルコトヲ要ス

抗告ヲ却下シ又ハ處分ヲ命スル裁判ハ決定ヲ以テ之ヲ爲シ市町村長及ヒ抗告人ニ送達スルコトヲ要ス

第一百七十四條 裁判所ノ決定ニ對シテハ法律ニ違背シタル裁判ナルコトヲ理由トスルトキニ限り非訟事件手續法ノ規定ニ從ヒテ抗告ヲ爲スコトヲ得

抗告裁判所ノ裁判ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス  
第七章 罰則

第一百七十六條 正當ノ理由ナクシテ期間内ニ爲スヘキ届出又ハ申請ヲ爲サ

サル者ハ十圓以下ノ過料ニ處ス

第一百七十七條 第六十四條ノ規定ニ依リ市町村長カ期間ヲ定メテ届出又ハ申請ノ催告ヲ爲シタル場合ニ於テ正當ノ理由ナクシテ其期間内ニ届出又ハ

ハ申請ヲ爲サナル者ハ二十圓以下ノ過料ニ處ス  
第一百七十八條 市町村長ハ左ノ場合ニ於テハ三十圓以下ノ過料ニ處ス  
一 正當ノ理由ナクシテ届出又ハ申請ヲ受理セサルトキ

二 戸籍ノ記載ヲ爲スコトヲ怠リタルトキ

三 正當ノ理由ナクシテ戸籍簿、除籍簿又ハ第三十六條第二項ノ書類

ノ閱覽ヲ拒ミタルトキ

四 正當ノ理由ナクシテ戸籍若クハ除カレタル戸籍ノ謄本、抄本又ハ

第六十七條ノ證明書ヲ交付セサルトキ

五 其他戸籍事件ニ付キ職務ヲ怠リタルトキ

第六十九條 過料ノ裁判ハ過料ニ處セラルヘキ者ノ住所又ハ居所ノ地ヲ

管轄スル區裁判所之ヲ爲ス其裁判及ヒ裁判ノ執行ニ付テハ非訟事件手續

法ノ規定ヲ準用ス

第一百八十條 戸籍ノ記載ヲ要セサル事項ニ付キ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ百圓以下ノ罰金ニ處ス日本ノ國籍ヲ有セサル者ニ關スル事項ニ付キ虚偽ノ届出ヲ爲シタル者亦同シ

#### 附 則

第一百八十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第一百八十二條 本法ノ施行ニ關スル細則ハ司法大臣之ヲ定ム

第一百八十三條 本法ノ規定ハ本法施行前ノ届出其他ノ事由ニ因リテ戸籍ノ

編製スル

記載ヲ爲シ又ハ新ニ戸籍ヲ作ル場合ニモ亦之ヲ適用ス

第一百八十四條 舊法ノ規定ニ依ル戸籍ハ本法ノ規定ニ依ル戸籍トシテ其效力ヲ有ス但本法ノ規定ニ依リ戸籍ニ記載スヘキ事項ニシテ舊法ノ規定ニ依ル戸籍ニ記載ナキモノハ身分登記ニ依リ之ヲ記載スルコトヲ得

司法大臣ハ前項ノ規定ニ拘ハラス本法ノ規定ニ依リ戸籍ヲ改製スヘキコトヲ命スルコトヲ得

第一百八十五條 舊法ノ規定ニ依リテ改製セサリシ戸籍ハ司法大臣ノ命スル所ニ依リ本法ノ規定ニ依リテ之ヲ改製スルコトヲ要ス但記載ヲ要スル事項ニシテ從前ノ戸籍ニ依リ其事實ヲ知ルコト能ハサルモノハ其記載ヲ省

クコトヲ得

第一百八十六條 身分登記簿及ヒ舊法ニ保存期間ノ定アル帳簿竝ニ書類ノ保

存期間ハ司法大臣之ヲ定ム

〔國務大臣奥田義人君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(奥田義人君) 唯今議題ニ上リマシタル戸籍法改正法律案提出ノ理由ニ付、此場合ニ於テ一言イタシテ置キタイト考ヘマス、本案ノ理由ト致シ

マスル所ハ法律案ノ理由書ノ中ニモ載セテアリマスル如クニ、要スルニ主タル目的ハ戸籍事務ノ簡捷ヲ圖リ、出來得ルダク手續ヲ便宜ニシタイト云フノ所ガ實際ノ經驗ニ徴シテ見マスルノニ、戸籍吏ニ届出デサセマス、戸籍吏ハ其届出ニ基キマシテ、身分登記簿ニ登記ヲ致シ、更ニ其登記ニ基イテ、戸籍ノ届出事項ヲ記載スルト云フコトガ必要ノ手續ニナラテ居ルノデアリマス、然ルハ浩瀚ナルモノトナリマスルノミナラズ、永久ニ保存シナケレバナラヌ必要アルガ爲ニ、之ヲ保藏ヲ致シマス裁判所及戸籍役場ノ倉庫ハ漸ク狹隘ヲ告ゲリマス、當事者又ハ官公署ニ於キマシテ之ヲ利用スルト云フコトハ極メテ少クアリマシテ、而カモ登記簿ハ其記載ガ詳密ニ涉ブテ居リマスルガ爲ニ、簿冊ハシマスル事柄ト、從來身分登記簿ニ登記ヲ致シマスル事柄トハ、大部分重複ニ涉ブテ居リマシテ、此ニツノ帳簿ヲ別々ニ保藏ヲ致スト云フコトノ必要ガ、今日ノ實際ニ於キマシテハナイト言ツテ宜シイノデアリマス、是ハドウシテモ此場合ニ於キマシテ、身分登記簿ト云フモノヲ廢シテ、即チ戸籍簿一ツニ致シマシテ、此戸籍簿ニ依テ以テ、人ノ身分ニ關スル事柄ヲモ分明ニスルコトガ出來ルヤウニシテ、事務ノ簡捷ヲ圖ルノ必要ガアラウト存ジマスルノデ、改正案ニ於キマシテハ、即チ從來ノ身分登記簿ヲ廢シテシマヒマシテ、戸籍簿一ツニ致シマシタノデアリマス、是ガ本案ノ改正ノ最モ重要ナル事項、デアリマス、其以外ニ於キマシテモ、或ハ現行法ニ於ケル所ノ戸籍吏戸籍役場ト云フヤウナ、特別ノ設備、特別ナル名稱ヲ定メテアリマシタモノヲ廢シマシテ、市長村長、町村役場ニ當然此戸籍ノ事務ヲ扱ハシメルト云フヤウナコトニ致シマシテ、其外又現行ノ制度上ニ於テ不備ナル點モアリマスルシ、又文字其他ニ付テ其當ヲ得ナイモノモアリマスルノデ、彼此レ全部ニ瓦ツタ改正ヲ施シマシタノデアリマス、改正ハ全部ニ瓦ツテ居リマスルケレドモ、其主要ナル點ハ先刻述ベマシタ所ノ登記簿ヲ廢シテ之ヲ戸籍簿一ツニシテ、人ノ身分ニ關係ニ於キマシテ、些小ナル點ヲ改メタト申シテ差支ハナイト考ヘマスルノデ改メマシタノガ、是ガ唯一ノ主要ナル點デアリマス、其以外ノコトハ先づ大アリマス、此會期ノ切迫ナ場合ニ於キマシテ、斯ノ如ク大ナル改正案ノ御審

議ヲ請ヒマスルノハ甚ダ恐縮デアリマスルガ、何卒御協賛アラムコトヲ希望  
イタシマス

○河村讓三郎君 戸籍法ハ浩瀚ナル法律デゴザイマスル、又戸籍法及之ニ關  
聯ヲ致シマスル附屬法ハ何人ニ於キマシテモ屢々適用ヲ受ケマスル大切ナル  
法律デゴザイマス、付キマシテハ本案ノ特別委員ハ十五名ト致シマシテ、議  
長ヨリ御指名アラムコトヲ希望イタシマス

○子爵曾我祐準君 賛成

○男爵田健治郎君 賛成

○奥山政敬君 賛成

○男爵有地品之允君 賛成

○男爵岡内重俊君 賛成

○議長(公爵徳川家達君) 河村讓三郎君ノ動議ニ御異存ゴザイマセヌカ  
〔其他賛成ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス  
〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第三、明治三十八年法律第六十二號中改  
正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、第四、寄留法案、政府提出、衆  
議院送付、第一讀會

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第三、明治三十八年法律第六十二號中改  
正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會、第四、寄留法案、政府提出、衆  
議院送付、第一讀會

右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付  
大正三年三月十二日

衆議院議長長谷場純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿  
明治三十八年法律第六十二號中改正法律案

明治三十八年法律第六十二號中左ノ通改正ス

第二條中「之ヲ」ノ下ニ「市町村長ニ」ヲ加ヘ「一家創立地」ヲ「一家創立ノ場  
所」ニ、「本籍地」ヲ「本籍」ニ、「第一百六十五條」ヲ「第一百五十四條」ニ改メ、「族  
稱」及「職業」ヲ削リ同條第二項ヲ左ノ如ク改ム  
市町村長カ前項ノ届出ヲ受理シタルトキハ之ニ依リ戸籍記載ノ手續ヲ爲  
スヘシ

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
附 則

寄留法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付  
候也

大正三年三月十二日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長長谷場純孝

第一條 九十日以上本籍外ニ於テ一定ノ場所ニ<sup>○住所又ハ居所ナ有</sup>居住スル者ハ之ヲ寄留者  
トシ届出ニ因リ又ハ職權ヲ以テ寄留簿ニ記載スルコトヲ要ス 本籍ナキ

者、本籍分明ナラサル者及日本ノ國籍ヲ有セサル者ニシテ九十日以上一  
定ノ場所ニ居住スルモノ亦同シ  
寄留ニ關スル事項ハ届出ニ因リ又ハ職權ヲ以テ之ヲ寄留簿ニ記載スルコトヲ要ス

第二條 寄留ニ關スル事務ハ市町村長之ヲ管掌ス  
戸籍法第三條、第五條及第六條ノ規定ハ寄留ニ關スル事務ニ之ヲ進用ス

第三條 寄留ニ關スル届出、届出義務者、<sup>○届出期間</sup>寄留簿其ノ他寄留ニ關スル事項  
ハ<sup>○勅令ヲ以テ</sup>司法大臣之ヲ定ム

第四條 寄留ニ關スル届出ヲ怠リタル者ハ五圓以下ノ過料ニ處ス  
戸籍法第一百七十九條ノ規定ハ前項ノ過料ニ付之ヲ準用ス

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
附 則

〔國務大臣奥田義人君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(奥田義人君) 唯今議題ニ相成リマシタ法案ニ付キマシテ、此提  
出ノ理由ヲ一言イタシテ置キマス、寄留法案ハ、是ハ戸籍法ノ改正ニ伴ヒマ  
シテ是非必要ナルモノデアリマス、御承知モアラセラルル通り今日ノ戸籍法  
ニ於キマシテハ、明治四年ニ定メラレマシタ所ノ寄留ニ關スル規定ガ其儘ニ  
效力ヲ有スルコトニ相成ブテ居ルノデアリマス、是ハ固ヨリ不完全ナルモノデ  
アリマシテ、實際上不便ヲ感ズルコトガ少クナインデアリマス、然ルニ今回

戸籍法ノ全部ヲ改正ヲ致シマスルニ當ッテ、其明治四年ニ定メタ寄留ニ關スル規定ハ、戸籍法ノ中カラ取リマシテ、新ニ茲ニ寄留法案ヲ提出イタシマシタ、完備シタモノデハアリマセヌケレドモ、ナカノ複雜ナル規定ヲ要スルモノデアリマスルニ依テ、別ニ原案ニ於テハ司法大臣ガ總テノ細イ事項ハ定メルモノト致シテ居リマシタガ、衆議院ニ於キマシテ勅令ヲ以テ之ヲ定メルト云フコトニ修正ニナリマシタノデアリマス、若シ此法案ガ獨立ニナツテ通過ヲ致シマセナケレバ、戸籍法ノ方ガ改リマセヌト云フト、寄留ニ關スル規定ト云フモノハ全クナクナツテシマフト云フ結果ヲ見マスルノデアリマス、尙ホ其外……

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第五ノ明治四十三年法律第三十九號中改正法律案、是モ關連シテ居リマスカラ、此際議題ト致シテ御異存ゴザイマセヌカ

## 〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
大正三年三月十二日  
衆議院議長長谷場純孝

貴族院議長公爵徳川家達殿

明治四十三年法律第三十九號中改正法律案

明治四十三年法律第三十九號中左ノ通改正ス

第二條中「之ヲ」ノ下ニ「市町村長ニ」ヲ加ヘ同條第二項ヲ削ル

第三條中「之ヲ」ノ下ニ「市町村長ニ」ヲ加ヘ「一家創立地」ヲ「一家創立ノ場所」ニ改メ「職業」及同條第二項ヲ削ル

第四條中「之ヲ」ノ下ニ「市町村長ニ」ヲ加ヘ「本籍地」ヲ「本籍」ニ、「原籍地」ヲ「原籍」ニ改メ同條第二項ヲ削ル

第五條 市町村長前二條ノ届出ヲ受理シタルトキハ之ニ依リ戸籍記載ノ手續ヲ爲スヘン

## 附則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

○國務大臣(奥田義人君) 明治三十八年法律第六十二號中ノ改正案ト明治四

十三年法律第三十九號中ノ改正案ハ、是ハ戸籍法ノ改正ニ伴ヒマシテ、或ハ箇條ヲ改メ、或ハ又從來特別ニ戸籍吏若クハ戸籍役場ト云フヤウナ設備ノ設ノアリマシタモノハ、先刻モ述べマシタ通り、總テ是ハ市町村長、市町村役場ト云フコトニ改メマシタ、其結果是等ノ法律ニ於テモ之ニ伴ウテ、ソレ等ノ事柄ヲ改メナケレバナラヌ必要ヲ認メマシテ、茲ニ之ヲ提出シタ次第、デアリマス、御承知ヲ……

○議長(公爵徳川家達君) 諸君ニ御諮リヲ致シマス、議事日程第二ヨリ第五マデノ法律案ハ同一委員デ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵徳川家達君) 御異議ナイト認メマス、特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ヒマス

## 〔東久世書記官朗讀〕

## 戸籍法改正法律案外三件特別委員

侯爵徳川 賴倫君	伯爵寺 島 誠一郎君	松岡 康毅君
子爵岡 部 長職君	子爵酒井 忠亮君	山脇 玄君
男爵久保田 讓君	河村 謙三郎君	男爵藤堂 憲九君
奥山 政敬君	富井 政章君	加太 邦憲君
安廣伴一郎君	馬屋原 二郎君	田島 竹之助君

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第六、關稅定率法中改正法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會

關稅定率法中改正法律案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也

大正三年三月十二日

貴族院議長公爵徳川家達殿

衆議院議長長谷場純孝

## 關稅定率法中改正法律案

關稅定率法別表輸入稅表中左ノ通改正ス

第二十五號中「栗子」ノ下ニ「及芥子」ヲ加フ

第一百一號中「一、四〇」ヲ「一、五〇」ニ改ム

第一百四號中「四十二度」ヲ「四十五度」ニ改ム

第一百五十號中「及赤鱗」ヲ「赤鱗及硫化鱗」ニ改ム

第二百四十五號中「每斤」ヲ削リ「一一、四〇」ヲ「無稅」ニ改ム

第二百八十三號第一項甲中「從價」ヲ「每百斤」ニ、「一割五分」ヲ「一〇、五〇」ニ、乙中「一割五分」ヲ「二〇、五〇」ニ、丙中「每百斤」ヲ「同」ニ改ム

第二百九十四號中「毛粉」ヲ「綿粉、毛粉」ニ改ム

第二百九十八號及第二百九十九號中「別號」ヲ「別項」ニ改ム

第三百號中「亞麻」ノ下ニ「苧麻」ヲ加フ

三三八ノ二 瓦斯填充用囊

第四百七號中「泥狀ノモノ」ヲ「液狀又ハ泥狀ノモノ」ニ改ム

第四百八號中「、ヴァーツストーン」ヲ削ル

第四百十八號第一項中「每百斤」ヲ削リ「〇、七〇」ヲ「無稅」ニ、第二項中「同」ヲ「每百斤」ニ改ム

第四百六十二號第十二項甲ノ二中「二、三〇」ヲ「三、〇〇」ニ、ハチ左ノ如ク改ム

四八五ノ二 壓榨瓦斯填充用鐵製シリンドラー

第五百二十七號第八項ヲ左ノ如ク改ム

八 其ノ他

甲 金製又ハ白金製ノモノ

同 同

四 割 割

第六百五號中第十三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加ヘ第十四項中「從價」ヲ「同」ニ改

メ同項ヲ第十五項トス

六一七 骨炭  
一 経一二五ミリメートルノ圓眼ヲ有  
二 其ノ他

每百斤 〇、四〇

本法ハ大正三年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス  
附則

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君) 唯今議題ニナリマシタル法案ニ付キマシテ、改正ノ重ナルモノヲ申上ゲマスレバ、從來有稅品トナツテ居リマシタルモノヲ無稅品ニ改メマシタルモノハ、「バラフィン」蠟中ノ一部分、硫化鱗、金液、銀液、白金液、石綿及「ボッタル」中ノ一部分等デアリマス、又從來ヨリモ低イ稅ヲ課スルコトニナリマシタルモノハ、瓦斯填充用ノ囊、壓榨瓦斯填充用ノ鐵製ノ「シリンドラー」、「スチームタービン」等デアリマス、是等ハ何レモ我輸出貿易品ノ原料トシテ用キラレマシタリ、又ハ内地工業用ニ使用セラルモノデアリマシテ、此改正ノ結果ハ我輸出貿易並ニ内地工業ノ發達ニ少カラザル利便ヲ與フルコトヲ信ジテ居リマス、其他ノ物品ニ於キマシテハ改正ノ結果、稅率ノ高マルモノモゴザイマス、又ハ從價稅ヲ從量稅ニ改正イタシタルモノモゴザイマス、要シマスルニ何レモ貿易ノ状勢、内地工業ノ進運並ニ現行稅率中、彼此ノ權衡等ニ鑑ミマシテ、改正ノ必要ヲ認メタルモノデゴザイマス、而シテ衆議院ニ於キマシテ尙第四百六十二號第二項中ニ修正ヲ加ヘラレマシタ、此修正ハ重ニ此鐵管ニ課スル輸入稅ノ改正デゴザイマスルガ、昨今追ムト我内地ニ於テ鐵管ノ製造ガ起リマシタル爲ニ、此衆議院修正ノ輸入稅ノ改正ハ至極適當ナルモノト認メマシテ之ニ同意ヲ致シタル次第デゴザイマス、ドウカ御協賛アラムコトヲ望ミマス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス  
〔東久世書記官朗讀〕

關稅定率法中改正法律案特別委員

伯爵川村鐵太郎君	子爵松平乘承君	子爵大田原一清君
子爵鍋島直虎君	子爵黒田和志君	仲小路廉君
男爵目賀田種太郎君	石井省一郎君	山下喜兵衛君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第七、大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案、政府提出、衆議院送付、第一讀會  
大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案  
右政府提出案本院ニ於テ可決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付候也  
大正三年三月十三日

貴族院議長長谷場純孝

## 大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案

大嘗祭ノ齋田ニ指定セラレタル土地ノ地租ハ大正三年分ニ限り之ヲ免除ス」  
府縣市町村其ノ他ノ公共團體ハ前項ノ土地ニ對シ大正三年度ニ於テ租稅其  
ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

本法ニ依リ免除シタル稅金ハ法律上總テノ納稅資格中ヨリ控除セス

〔國務大臣男爵高橋是清君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(男爵高橋是清君) 恭シク惟ミマスルニ、大嘗祭ハ國家ノ大典ニ  
シテ、悠紀主基ノ齋田ニ指定セラレマシタル土地ニ付テ、租庸ヲ免ジ給ヘル  
ハ古來ノ典例デゴザイマス、本年此大典ヲ舉行セラルルニ當リマシテ、齋田  
ニ指定セラレタル土地ニ對シテ、古典ニ則リ地租ヲ免除スルハ最モ至當ナリ  
ト認メマシテ本案ヲ提出イタシタル次第ニアリマス、速ニ御協賛ヲ與ヘラレ  
ムコトヲ望ミマス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

## 大嘗祭齋田ノ土地免租ニ關スル法律案特別委員

伯爵正親町實正君	男爵岡内重俊君	子爵山口弘達君
子爵井上匡四郎君	前田正名君	男爵中川興長君
中島永元君	仁尾惟茂君	佐々田懋君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第八、賣藥法案、政府提出、衆議院送付、  
第一讀會

## 賣藥法案

右政府提出案本院ニ於テ修正議決セリ因テ議院法第五十四條ニ依リ及送付  
候也

大正三年三月十三日

衆議院議長谷場純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

## 賣藥法

第一條 本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製又ハ輸入若ハ移入シ  
テ販賣スル者ヲ謂フ  
原料品ニ加工セスシテ賣藥ト爲スモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ賣藥ノ

## 調製ト看做ス

第二條 賣藥營業者賣藥ヲ發賣セムトスルトキハ方名、原料品名及其ノ分  
量、調製ノ方法、用法、用量並效能<sup>効能ヲ記載シ</sup>ニ付主タル營業所所在地ノ地方長官  
ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ日本藥局方ニ記載セサル原料品ヲ使用セムトスル者ハ  
其ノ見本品ヲ提出スヘシ

第三條 賣藥營業者ニ箇所以上ノ營業所ヲ設ケタルトキハ營業所毎ニ所在  
地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第四條 賣藥<sup>ニハ毒藥、劇藥及</sup>ノ原料品ハ其ノ性狀又ハ配伍ノ結果ニ由リ危害ヲ生スルノ虞  
アル場合ニ於テハ之ヲ使用スルコトヲ得ス 但シ毒藥、劇藥ハ其ノ用法、用量ニ依  
<sup>行政官廳ニ於テ危害ヲ生スルノ虞ナシト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス</sup>

第五條 賣藥ノ原料品ハ日本藥局方ニ記載スルモノハ其ノ所定ノ性狀品  
質、之ニ記載セサルモノハ第二條第二項ノ見本品ト同様ノ性狀品質ヲ具  
備スルヲ要ス

第六條 藥劑師、藥劑師ヲ使用スル者又ハ<sup>醫師</sup>地方長官ニ於テ藥品及調劑ニ付  
特種ノ智識ヲ有スル者ト認メタル者ニ非サレハ賣藥ヲ調製シテ販賣スル  
コトヲ得ス

第七條 賣藥免許ハ前條ニ掲タル者ニ限り之ヲ讓受ケ又ハ相續スルコトヲ  
得

第八條 賣藥<sup>効</sup>ノ效能ニ關シテハ文書、言語其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ  
問ハス免許ヲ得タル事項ヲ說明スルノ外之ヲ誇張シテ公示スルコトヲ得  
ス

第九條 行政官廳ハ衛生上又ハ風俗上必要ト認ムルトキハ賣藥ニ關スル廣  
告、賣藥ノ容器若ハ被包又ハ賣藥ニ添附シ若ハ添附セスシテ頒布スル文  
書ニ一定事項ノ記載ヲ禁止シ又ハ其ノ記載ノ變更ヲ命スルコトヲ得ス  
<sup>ハ左記ノナ</sup>  
一 瓊製ニ添ル記事又ハ圖畫  
二 避妊又ハ墮胎ヲ暗示スル記事  
三 虚偽誇大ノ證明若ハ醫師其ノ他ノ者カ効能ヲ保證シタルモノト世人ナシテ誤解ゼンムルノ  
處アル記事  
四 醫治ノ無効ヲ暗示シ或ハ暗ニ醫師ヲ誹謗スルカ如キ記事

主務大臣ハ命令ヲ以テ前項ノ廣告、容器、被包又ハ文書ニ記載スル事項ヲ制限スルコトヲ得

第十條 地方長官ハ衛生上危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ賣藥營業者ニ對シ其ノ免許ヲ得タル事項ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十一條 賣藥營業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル處分ニ違反シタル者ニ付地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十二條 行政官廳ハ當該官吏ヲシテ賣藥ヲ調製シ若ハ販賣スル場所ニ臨檢セシメ又ハ賣藥ノ検査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條 行政官廳ハ試験ノ用ニ供スル爲必要ナル分量ニ限り當該官吏ヲシテ賣藥又ハ其ノ原料品ヲ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

第十四條 第二條第一項若ハ第五條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反スル賣藥ハ地方長官其ノ所有者ヲシテ之ヲ廢棄セシメ又ハ直接ニ廢棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者又ハ所持者ニ於テ衛生上危害ヲ生スル虞ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ

第十五條 第二條第一項、第五條若ハ第六條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條 第八條ノ規定ト第九條ノ處分若ハ命令ニ違反シタル者又ハ當該官吏ノ臨檢若ハ検査ヲ拒ミタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條 第三條又ハ第二十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十八條 賣藥營業者又ハ賣藥請賣營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

賣藥營業者又ハ賣藥請賣營業者ハ其ノ代理人戸主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十九條 明治二十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十條 輸出又ハ移出スル賣藥ニ付テハ第二條乃至第十一條、第十四條及第十五條ノ規定ヲ適用セス其ノ取締上必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十一條 本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十二條 賣藥規則ハ之ヲ廢止ス

第二十三條 從前ノ規定ニ依リ受ケタル賣藥免許ハ之ヲ本法ニ依リ受ケタル賣藥免許ト看做ス

第二十四條 本法公布ノ際現ニ賣藥營業者タル者ハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ拘ラス賣藥ヲ調製シテ販賣シ又ハ賣藥免許ヲ讓受ク若ハ相續スルコトヲ得但シ賣藥ヲ輸入若ハ移入シテ販賣スル者又ハ法人ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條 本法公布前免許ヲ受ケタル賣藥ニシテ毒藥、劇藥又ハ藥品營業並藥品取扱規則ノ指定藥品ヲ含有セサルモノニ付テハ第六條及第七條ノ規定ヲ適用セス

第二十六條 第三條及第二十條ノ届出ハ賣藥稅法ノ適用ニ付テハ之ヲ免許ト看做ス

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 御承知ノ如ク、現行賣藥規則ハ明治十年ニ發布ニナリマシタ法律デアリマス、其後數回ノ改正ガ加ヘラレテ居リマスケレドモ、今ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

賣藥營業者又ハ賣藥請賣營業者ハ其ノ代理人戸主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

宜ヲ與ヘ、其他近頃隨分廣告等ニ付キマシテ種々ナル狀態ヲ呈シテ居リマスル、是等ニ關シテモ多少ノ取締ヲ設ケルト云フヤウナル趣意ニ依テ此改正案

ガ出來テ居ルノデアリマス、何レ詳細ノ事ハ委員會ニ於テ陳述イタス積リデ  
ゴザイマス、大體斯様ナル法案デゴザイマスカラ、御審議ノ上御協賛ヲ希望  
イタシマス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第九、畜產組合法案、政府提出、第一讀會

畜產組合法案

右 勅旨ヲ奉シ帝國議會ニ提出ス

大正三年三月十四日

内閣總理大臣 伯爵山本權兵衛

農商務大臣 山本 達雄

陸軍大臣 楠瀬 幸彦

畜產組合法

第一條 本法ニ於テ家畜ト稱スルハ牛馬羊豚ヲ謂フ

第二條 牛羊豚ヲ飼養スル者又ハ馬ノ生産ヲ業トスル者ハ本法ニ依リ畜產

組合ヲ設置スルコトヲ得

第三條 畜產組合ハ法人トシ畜產上ノ改良發達ヲ圖リ組合員ノ利益ヲ増進

スルヲ以テ目的トス

第四條 組合ハ營利事業ヲ爲スコトヲ得ス但シ組合ノ經營上必要アル場合

ニ於テ地方長官ノ認可ヲ受ケ畜產上ノ施設ヲ爲スハ此ノ限ニ在ラズ

第五條 組合ハ組合員ニ非サル者ニシテ其區域内ニ於テ家畜ヲ所有シ又ハ

保管スル者ノ委託ニ依リ委託者ノ費用ヲ以テ家畜衛生上必要ナル處置ヲ

爲スコトヲ得

第六條 組合ヲ設置セムトスキハ郡市ノ區域ニ依リ組合員タルヘキ者

三分ノ二以上ノ同意ヲ以テ定款ヲ作リ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ但シ特

別ノ事情アルトキハ郡市ノ區域ニ依ラサルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ家畜又ハ組合員タルヘキ者ノ種類二種以上アルトキハ

其ノ種類毎ニ三分ノ二以上ノ同意ヲ得ヘシ

前項組合員タルヘキ者ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第七條 組合ノ名稱中ニハ畜產組合タルコトヲ示スヘキ文字ヲ用ウヘシ

畜產組合ニ非サルモノハ其ノ名稱中ニ畜產組合タルコトヲ示スヘキ文字

ヲ用ウルコトヲ得ス

第八條 組合成立シタルトキハ其ノ區域内ニ於テ組合員タル資格ヲ有スル者ハ總テ組合員トス但シ特別ノ事情ニ依リ地方長官ノ認可ヲ受ケタル者ハ此ノ限ニ在ラズ

第九條 地方長官必要アリト認ムルトキハ組合ニ對シ種畜ノ供給、種付、家畜ノ系統若ハ能力ノ登録、家畜衛生ニ關スル施設又ハ家畜市場ノ開設ヲ命スルコトヲ得

第十條 定款ヲ變更セムトスルトキハ總會ニ於テ組合員半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決シ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第十條 定款ノ變更カ經費ノ分賦收入ニ關スルトキハ前項ノ出席者及議決權ノ數ハ家畜又ハ組合員ノ種類毎ニ之ヲ計算スヘシ

定款ノ變更カ區域ノ擴張又ハ家畜若ハ組合員タルヘキ者ノ種類ノ增加ニ關スルトキハ第一項ノ議決ノ外擴張又ハ增加ニ依リ新ニ組合員タルヘキ者三分ノ二以上ノ同意ヲ得ヘシ此ノ場合ニ於テハ第六條第二項ノ規定ヲ準用ス

第十一條 組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ所有又ハ保管ニ係ル家畜、畜產物又ハ畜產上ノ設備ニ付検査ヲ爲シ又ハ試驗ノ用ニ供スル爲必要ナル分量ニ限り無償ニテ物品ヲ收去スルコトヲ得

組合ハ定款ノ定ムル所ニ依リ定款違反者ニ對シ過怠金ヲ徵收シ、其ノ違反ニ係ル物品ノ沒收其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得

第十二條 組合ノ經濟ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員之ヲ負擔ス

第十三條 組合ノ經濟又ハ過怠金ヲ滯納スル者アル場合ニ於テ組合長ノ請求アルトキハ市町村ハ市町村稅ノ例ニ依リ之ヲ處分ス此ノ場合ニ於テハ組合ハ其ノ徵收金額ノ百分ノ四ヲ市町村ニ交付スヘシ

前項徵收金ノ先取特權ノ順位ハ市町村、水利組合其ノ他之ニ準スヘキモノノ徵收金ニ次クモノトス

第十四條 左ニ掲タル事項ハ總會ノ議決ヲ經ヘシ

一 經費ノ收支豫算

二 經費ノ分賦收入方法

三 起債並其ノ方法、利息ノ定率及償還ノ方法

四 共濟其ノ他ノ基金ノ積立、支出及利用ノ方法  
五 事業報告及收支決算ノ承認  
六 訴願、訴訟及和解  
七 定款ニ定メタル事項  
八 其ノ他組合長ニ於テ重要ナリト認メタル事項  
第十五條 前條ノ事項ニ付テハ總會ハ定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ選舉シタル議員  
組織スル評議員會ニ委任シテ議決セシムルコトヲ得  
評議員會ニ關スル事項ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム  
第十六條 第十四條第一號又ハ第三號ノ事項ニ關シ臨時急施ヲ要シ總會ヲ  
招集スルノ暇ナシト認ムルトキハ組合長ハ之ヲ專決處分スルコトヲ得  
ノ場合ニ於テハ次ノ總會ニ於テ其ノ承認ヲ求ムヘシ  
第十七條 第十四條第一號乃至第四號ノ事項ニ付テハ地方長官ノ認可ヲ受  
クヘシ  
第十八條 總會ハ組合員ヲ以テ之ヲ組織ス  
第十九條 總會ハ組合長之ヲ招集ス  
組合員其ノ總數ノ五分ノ一以上ノ同意ヲ得會議ノ目的タル事項及招集ノ  
事由ヲ記載シタル書面ヲ提出シテ總會ノ招集ヲ請求シタルトキハ組合長  
ハ十四日以内ニ總會ヲ招集スヘシ  
組合長正當ノ事由ナクシテ前項ノ期間内ニ總會ヲ招集セサルトキハ請求  
者ハ地方長官ノ認可ヲ受ケ之ヲ招集スルコトヲ得  
第二十條 總會ヲ招集スルニハ少クトモ七日前ニ會議ノ日時、場所及目的  
タル事項ヲ記載シテ各組合員ニ其ノ通知ヲ發スヘシ  
總會ニ於テハ前項ノ規定ニ依リ豫メ通知シタル事項ニ付テノミ議決ヲ爲  
スコトヲ得但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ限ニ在ラス  
第二十一條 組合員ハ總會ニ於テ各一箇ノ議決權ヲ有ス但シ定款ノ定ムル  
所ニ依リ一人ニ付議決權總數ノ十分ノ一ヲ超エサル範圍内ニ於テ二箇以  
上ノ議決權ヲ有セシムルコトヲ得  
第二十二條 總會ノ議事ハ別ニ規定アルモノヲ除クノ外出席者ノ議決權ノ  
過半數ヲ以テ之ヲ決ス  
第二十三條 組合員ハ總會ニ於テ書面又ハ代理人ヲ以テ議決ヲ爲スコトヲ  
得

前項ノ規定ニ依リ議決權ヲ行フ者ハ之ヲ出席者ト看做ス  
第二十四條 組合ハ命令及定款ノ定ムル所ニ依リ組合員ノ選舉シタル議員  
ヲ以テ組織スル總代會ヲ以テ總會ニ代フルコトヲ得但シ組合ノ解散、合  
併又ハ分割ノ議決ニ付テハ此ノ限ニ在ラス  
總會ニ關スル規定ハ命令ニ別段ノ規定アル場合ヲ除クノ外總代會ニ之ヲ  
準用ス  
第二十五條 組合ニ左ノ役員ヲ置ク  
組合長 一人  
組合副長 一人又ハ數人  
評議員 數人  
役員ハ組合員中ヨリ之ヲ選舉ス但シ組合長又ハ組合副長ハ特別ノ事情ア  
ル場合ニ限り組合員ニ非サル者ヨリ之ヲ選舉スルコトヲ得  
役員ノ任期ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ  
役員ハ任期中ト雖之ヲ解任スルコトヲ得  
役員ノ選任又ハ解任ハ總會ニ於テ組合員半數以上出席シ出席者ノ議決權  
ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決ス但シ定款ニ別段ノ規定アルトキハ此ノ  
限ニ在ラス  
組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ  
組合副長ハ組合長ヲ補佐シ組合長事故アルトキ其ノ職務ヲ代理ス組合副  
長數人アル場合ニ於テ其ノ代理ノ順序ハ定款ノ定ムル所ニ依ル  
評議員ハ組合長ノ諮詢ニ應シ又ハ業務ノ執行及財產ノ狀況ヲ監査ス  
第二十七條 組合長ノ權限ニ加ヘタル制限ハ之ヲ以テ善意ノ第三者ニ對抗  
スルコトヲ得ス  
第二十八條 組合ハ畜產上ノ検査ニ從事セシムル爲検査員ヲ置クコトヲ得  
第二十九條 組合長ハ定款、組合員名簿、會議ノ議事錄其ノ他組合ニ關スル  
書類及帳簿ヲ事務所ニ備へ置クヘシ  
組合員又ハ組合ノ債權者ハ前項ノ書類又ハ帳簿ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得  
此ノ場合ニ於テ組合長ハ正當ノ事由アルニ非サレハ之ヲ拒ムコトヲ得ス  
第三十條 組合ハ左ノ事由ニ因リ解散ス  
一 定款ニ定メタル事由ノ發生

## 二 總會ノ議決

## 三 組合ノ合併

## 四 組合ノ分割

## 五 組合員五人以下ト爲リタルトキ

## 六 監督官廳ノ處分

第三十一條 組合ニシテ解散、合併又ハ分割ヲ爲サムトスルトキハ第二項ノ場合ヲ除クノ外之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ總會ニ於テ組合員半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

ノ場合ヲ除クノ外之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ總會ニ於テ組合員半數以上出席シ出席者ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ以テ之ヲ議決スヘシ

家畜ノ種類ニ依リ組合ノ分割ヲ爲サムトスルトキハ其ノ種類ノ組合員ノ議決權ノ三分ノ二以上ヲ有スル者ノ同意ヲ以テ之ニ關スル必要ノ事項ヲ定メ組合ニ對シ之ヲ請求スルコトヲ得

前項ノ請求アリタルトキハ組合ハ其ノ權利義務ノ分割ニ付總會ニ關スル規定ニ準シ他ノ種類ノ組合員ノ議決ヲ經テ請求者ト協議スヘシ協議調ハ

サルトキハ地方長官之ヲ決定ス

第三十二條 組合ノ解散、合併又ハ分割ハ地方長官ノ認可ヲ受クヘシ

第三十三條 組合合併シタルトキハ合併ニ因リテ解散シタル組合ノ權利義務ハ合併後存續スル組合又ハ合併ニ因リテ設置シタル組合之ヲ承繼ス

第三十四條 組合分割シタルトキハ其ノ定ムル所ニ從ヒ分割ニ因リテ設置シタル組合其ノ權利義務ノ一部ヲ承繼ス

第三十五條 組合解散シタルトキハ合併又ハ分割ノ場合ヲ除クノ外清算ヲ爲スヘシ

民法第七十二條、第七十三條及第七十八條ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

民法第七十九條及第八十條ノ規定ハ第三十條第一號、第五號又ハ第六號ノ場合ニ之ヲ準用ス

第三十六條 組合ハ債権者ノ同意ヲ得又ハ異議アル債権者ニ對シ辨済ヲ爲シ若ハ相當ノ擔保ヲ供スルニ非サレハ組合ノ解散、合併、分割若ハ區域ノ除斥又ハ家畜若ハ組合員ノ種類ノ減少ニ關スル定款ノ變更ヲ爲スコトヲ得ス

第三十七條 組合ノ會議ノ議決又ハ役員ノ行爲カ法令若ハ定款ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ害スルノ虞アリト認ムルトキハ主務大臣又ハ地方長官

ハ其ノ議決ヲ取消シ、議員若ハ評議員ノ改選ヲ命シ、組合長若ハ組合副長ヲ解任シ又ハ組合ノ業務停止若ハ解散ヲ命スルコトヲ得シメ、書類帳簿業務ノ執行又ハ財產ノ狀況ヲ検査シ、定款又ハ豫算ノ變更ヲ命シ其ノ他監督上必要ナル命令ヲ發シ又ハ處分ヲ爲スコトヲ得主務大臣ハ公益上必要アリト認ムルトキハ組合ノ合併又ハ分割ヲ命スルコトヲ得

第三十九條 地方長官左ニ掲タル事項ニ付認可ヲ爲シ又ハ前二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ之ヲ告示スヘシ

二 組合ノ區域ノ擴張又ハ家畜若ハ組合員タルヘキ者ノ種類ノ增加ニ關スル定款ノ變更

三 組合長又ハ組合副長ノ選任又ハ解任

四 組合ノ解散、合併又ハ分割

主務大臣前項ノ事項ニ付前二條ノ處分ヲ爲シタルトキハ關係地方長官ヲシテ之ヲ告示セシムヘシ

第四十條 組合ハ共同シテ其ノ目的ヲ達スル爲畜產組合聯合會ヲ設置スルコトヲ得

畜產組合聯合會ハ法人トス

第四十一條 聯合會ヲ設置セムトスルトキハ定款ヲ作リ其ノ區域一府縣以内ノモノニ在リテハ地方長官、二以上ノ府縣ニ瓦ルモノニ在リテハ主務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第四十二條 聯合會ニ左ノ役員ヲ置ク

　　會長 一人  
　　副會長 一人又ハ數人

　　評議員 數人

第四十三條 畜產組合ニ關スル規定ハ第二條、第三條、第六條、第八條、

第十條第三項、第十三條、第二十三條、第二十四條及第二十五條第一項ノ規定ヲ除クノ外之ヲ聯合會ニ準用ス但シ地方長官トアルハ二以上ノ府

縣ニ瓦ル聯合會ニ在リテハ主務大臣トシ第十一條及第二十五條第二項中組合員トアルハ聯合會ヲ組織スル組合ノ組合員トシ第三十條第五號中五

人以下トアルハース

一府縣以内ノ區域ニ依リタル聯合會ニシテ合併又ハ區域ノ擴張ニ依リニ  
以上ノ府縣ニ瓦ルヘキ場合ニ於テハ其ノ認可ハ主務大臣之ヲ行フ  
第四十四條 組合又ハ聯合會ノ役員ニシテ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命  
令ニ違反シタルトキハ三百圓以下ノ過料ニ處ス

非訟事件手續法第二百六條乃至第二百八條ノ規定ハ前項ノ過料ニ之ヲ準  
用ス

第四十五條 組合又ハ聯合會ノ役員又ハ検査員其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受  
シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ二年以下ノ懲役ニ處ス因テ不正ノ  
行為ヲ爲シ又ハ相當ノ行為ヲ爲サナルトキハ五年以下ノ懲役ニ處ス

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ  
沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第四十六條 前條第一項ニ掲クル者ニ對シ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタ  
ル者ハ二年以下ノ懲役又ハ三百圓以下ノ罰金ニ處ス

前項ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコト  
ヲ得

第四十七條 本法中府縣、郡、市町村トアルハ府縣制、郡制、市制町村制  
ヲ施行セサル地ニ在リテハ之ニ準スヘキモノニ該當ス

#### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

產牛馬組合法ハ之ヲ廢止ス

本法施行前產牛馬組合法ニ依リ設置シタル組合又ハ聯合會ハ本法ニ依リ之  
ヲ設置シタルモノト看做ス但シ其ノ定款中本法又ハ本法ニ基キテ發スル命  
令ニ違反スルモノアルトキハ命令ノ定ムル期間内ニ之カ變更ヲ爲シ地方長  
官ノ認可ヲ受クヘシ

〔國務大臣山本達雄君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(山本達雄君) 唯今議題ニ上リマシタ畜產組合法案ノ大體ノ説明

ヲ致シマス、現行ノ產牛馬組合法ハ明治三十三年ヨリ施行ニナリマシテ、今  
日ハ此法律ニ依リマシテ組織サレタ所ノ組合ハ約四百有餘ニ上ツテ居ルノデ  
ゴザイマス、併ナガラマダ其モノハ至ツテ幼稚デゴザリマシテ、畜產ノ目的ヲ  
達シマスル上ニ付テ段々不備ナル點ガアルノデゴザイマス、殊ニ近來ニ於キ

マシテハ牛羊豚ノ如キ、肉若クハ乳ノ需要、若クハ之ヲ利用スル上ニ付テ甚

バカリノ組合デゴザイマシテ、之ヲ飼育スル其飼養者ハ組合員トナルコトノ  
出來ナイヤウナル不便ナル點ガアルノデゴザイマス、又現行法ハ馬牛デゴザ

イマシテ、羊豚ニ付テハ其中ニ這入ラテ居ラナイヤウナコトデゴザイマス、

又全體ガ重要物產同業組合法ニ準據イタシマシテ施行スルノデゴザイマスカ

ラシテ、絕對ニ是ハ營利的ノ仕事ハ禁ジテアルノデゴザイマスガ、是モ今日

ニ於キマシテハ或程度ニ於テ矢張リ營業モ許シタイト云フノデゴザイマス、  
又其經費ノ徵收法ニ至リマシテハ、格段ナル規定ガアリマセヌ爲ニ、不納者

ナドガアリマスト云フト、一々之ヲ民事ノ訴訟ニ持出サナケレバナラヌト云

フコトニナツテ居リマス、併ナガラ御承知ノ通リニ此組合法ノ如キモノハ、非

常二人數ガ多クナツテ居リマシテ、而シテ一人前ノ徵收費用ト云フモノガ約一

圓二十錢餘ニ當ル位ナル少額デゴザイマシテ、之ヲモ不納者ニ向ツテ民事訴訟

ニ依ルト云フコトハ事實ニ於テ不可能ノ點ガアルノデゴザイマス、故ニ是ハ

矢張リ強制的徵收ニ依リタイト云フノデアリマス、其他事務上ニ於キマシテ、  
段々改メタイ點ガアルノデゴザイマスガ、是ハ委員會ニ於テ申述ベルコトニ

致シマシテ、唯、今日ハ此法案ヲ新ニ提出シマスル大體ナル説明ヲ申上ゲマ  
ス、何卒……

○江木千之君

チヨツト農商務大臣ニ承リタイコトガゴザイマスガ、畜產ニ付  
テノ政策、方針ハドウ云フコトニナツテ居ルカト云フコトヲ承リタイノデアリ

マス、即チ牛馬ノ事ニ付テ申シテ見マスレバ、例へバ牛ニシマシテモ彼ノ「ホ  
ルスター」トカ、「シンメンタール」トカ云フヤウナル外國種ヲ……少數ナ  
ガラ外國種ヲ入レテ永遠ヲ期シテソレヲ殖ヤスト云フコトノ御考デ居ラレマ  
スカ、又ハ固有ノ牛ニ付テ之ヲ段々改良シテ、サウシテ多數ノ改良ヲ圖ルト云  
フ方針ヲ採ッテ居ラレルノデアリマスカ、馬ニ付テモ同様デアル、其邊ノ方針  
ハドウシテ居ラレルカト云フコトヲ承リタイト考ヘル

〔國務大臣山本達雄君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(山本達雄君) 江木君ニ御答ヲ致シマスガ、是マデ政府ノ執リマ

シタモノハ重ニ外國種ヲ輸入イタシマシテ、而シテ此乳、牛酪ノ如キモノニ  
多ク用キルヤウニナツテ居リマシタノデゴザイマシテ、今日牛ノ數ガ約百五十  
萬程モアリマスガ、其内二十萬近クハ外國ヨリ乳牛トシテ取フテ、其方ノ段々

蕃殖シタル姿ニナッテ居リマスガ、今日ハ此外國ヨリ輸入イタシマシテ、サウシテ今申シマスル方ノ改良ヲ施スヨリモ、寧ロ固有ノ牛ノ方ニ力ヲ多ク用キマシテ、而シテ食牛若クハ役牛ノ方ニ力ヲ用キタ方ガ、今日ノ状態ニ照シテヨリ多クノ效力ガアルト云フ考デゴザリマス、ソレデゴザイマスカラシテ、シマス上ニ付テハ専ラ其方ニ力ヲ費シタイ考デアリマス  
○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第八並第九ノ法案ノ特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

## 〔東久世書記官朗讀〕

## 賣藥法案特別委員

伯爵萬里小路通房君	伯爵林 博太郎君	子爵藤谷 爲寛君
子爵吉田 清風君	男爵石 黒忠惠君	男爵關 義臣君
大澤謙二君	三宅 秀君	宇野清左衛門君

## 畜產組合法案特別委員

伯爵松平 直之君	子爵鳥居 忠文君	子爵永井 尚敏君
男爵沖原 光孚君	男爵原口 兼濟君	和田 彥次郎君
男爵楠本 正敏君	加藤 恒忠君	鈴木 周三郎君

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十、輸出入植物取締法案、政府提出、衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告  
〔左ノ報告書ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ載錄ス以下之ニ倣フ〕  
輸出入植物取締法案  
右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正三年三月十一日

右特別委員長

侯爵松平 康莊

〔子爵岡部長職君演壇ニ登ル〕

貴族院議長公爵徳川家達殿

○子爵岡部長職君 本案ノ委員長松平侯爵ニハ本日病氣ノ爲ニ闕席セラレマシタニ付キマシテ、本員ガ代ツテ御報告ニ及ビマス、本案ノ委員會ハ二度開キ

マシタノデアリマス、段々委員カラノ質問モアリ、政府委員ノ説明モ得マシテ、結局本案ハ少シモ修正ヲ加ヘズ、全會一致ヲ以テ可決ト認メマシタルノマス、質問ノ重ナル部分ハ第四條ノ「勅令ヲ以テ指定スル海港ニ於テ之ヲ行フ」検査ノ方法ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム」ト云フ即チ勅令ト命令ニ委託シマシタル所ノ、此條ニ付テノ質問並ニ説明ガ主デゴザイマシタノデゴザイマス、此案ノ大體ノ精神ニ付キマシテハ、過日本會議ニ於テ政府ノ説明モアリマシタ通リノコトデ、又此條文ニ付テ諸君モ御了解ニ相成リマス通り、是ハ外國ヨリ輸入シマスル所ノ植物或ハ果物等ニ病菌又ハ害蟲等ガ附著シテ居リマシテ、其爲ニ内地ニ於テ種々ノ害毒ヲ認メテ居リマスコトハ廣ク知ラレテ居ルコトデアリマシテ、之ニ對シテ豫防法ヲ制定スルト云フコトノ、誠ニ必要ナルコトハ是ハ申スマデモナイコトデ、又一方ニハ輸出シマスル所ノ植物果物等ニ付キマシテモ、十分ニ検査ヲ行ヒマスルト云フ必要ヲ感ゼラレマシテ此案ガ出マシタ趣デアリマス、其輸出ト云フコトノ重ナル點ハ亞米利加トノ貿易等ノ關係デゴザイマス、亞米利加ニ於キマシテハ、昨年外國カラシテ輸入スル所ノ植物果物等ハ、其外國ノ中央官憲ノ證明ガナケレバ輸入ヲ許サヌト云フコトノ法律ガ設置サレマシタノデアリマス、日米間ノ植物果物等ノ貿易ハ段々ニ發達モ致シマス、此際速ニ取締法ヲ設ケテ輸出ノ途ニ差支ノナイヤウニ致スト云フコトノ最モ必要ヲ感セラレルト云フ、此ニツノ理由ガ此案ヲ今度提出サレマシタ所ノ重ナル理由ト云フコトデアリマス、先キニ申シマシタル即チ四條ノ「検査ハ勅令ヲ以テ指定スル海港ニ於テ之ヲ行フ」ト云フノ質問ガアリマシタ、第一ニ申シテ見マスレバ、ドノ海港ヲ以テ検査所ヲ置ク所トナスカト云フ質問ナドガアリマシタ、政府ハ先づ横濱、神戸、門司、長崎、敦賀、此五港ニ検査所ヲ置キ大阪、下ノ關ニハ出張所ヲ置クト云フ方針デアルト云フコトデアリマス、ソレカラシテ其他ノ多クノ海港ニ於キマシテハ簡易ナル方法ヲ以テ検査ヲ行フコトニナリマス、是ハ經費ノ關係モアリ、又必要上カラ見テモ態々検査所或ハ出張所ヲ置ク程ノ程度ニナッテ居ラヌカラシテ、多クノ海港ニ於テハ簡便ナル方法ヲ執ル、検査ノ方法ト申セバ、検査所ニ於キマシテハ矢張リ相當ノ技師又ハ技手ナドヲ置キマシテ、設備ヲ成ルベク完全ニ致シテ、大ナル果物ノ検査ヲ行ヒマスコトニ致シマス、又簡便

ナル方法ニ依リマシテ多クハ其場所ノ税關ノ官吏ニ兼務ヲセシムルコトニ致スト云フヤウナ方法ヲ執ルト云フコトデアリマス、此検査ノ結果、植物果物等ノ消毒ノ燻蒸ヲ行フコトニ付キマシテハ、色々質問モ出マシタデアリマスガ、此燻蒸ニ用キル所ノ薬品ハ毒藥劇劑デアルノデ、此用キ方ヲ誤レバ、即チ検査ヲ受クル所ノ植物果物等ヲ、即チ害蟲ヲ殺ス以上、尙元ノ植物ヲ傷ケ、又ハ果物ヲ傷メルヤウナコトガアリハシナイカ、サウ云フコトガアッテハ當事者ハ爲ニ非常ノ迷惑ナコトデアルカラ、ソコノ所ハドウデアルカト云フコトニ付キマシテ色々質問ガ出マシタ、殊ニ簡便法ヲ行フト云フヤウナ所ニハ専門ノ技師ガ居ルノデハナイ、多クハ税關ノ役人ヲシテ兼務ヲセシムルコトデアッタナラバ、マルデ素人ニ此危險ナルコトヲ取扱ハシムルヤウナコトガアリハシナイカ、ソコノ所ハ如何デアルト云フコトニ付テ餘程數重々テ質問モ出マシタガ、政府委員ノ答辯モ段々アリマシテ、ソレ等ニ對シマシテハ先づ懸念ナク取扱ノ出來ルト云フ説明モアリマシテ、委員ニ於キマシテモ先づ是ナラバ宜シカラウト云フコトマデニ了解イタシマシタデアリマス、是ハ即チ此法検査所ハ唯今申述ベマシタ通リ五港デアリマスガ、委員ト政府トノ間ニ段々應答ノ結果、尙唯今申シマシタ所ノ上ニ四日市モ加ヘルト云フコトニ相成リマシテ、即チ検査所ヲ置ク所ガ六港ニナリマスノデアリマス、是ハ即チ此法律ガ制定ニナリマシテ、此勅令ニ定ムル所ノ見込ハ左様デアルト云フコトデアリマス、此他罰則等ニ付キマシテモ多少質問等モアリマスガ、別ニ茲ニ特ニ申上ゲマス程ノ事モナイト考ヘマス、大體、委員會ニ於キマシテハ質問ソレニ對スル政府ノ答辯ト云フコトデアリマス、大體斯ノ如クデアリマス、御報告イタシマス

○男爵石黒忠惠君 私ハ本案ニハ頗ル賛成ヲ致シマス者デゴザイマスガ、一質問ヲ致シテ贊成ヲ致シタウゴザイマス、先日初二出マシタトキニ質問ヲ致シマシタガ、植物ノ中ニ果實ト云フコトガ含マレマスカト云フコトガ甚ダ疑ハシイノデゴザイマス、付テハ此案タルヤ、翻譯イタシテ外國人ニモ關係ト云フモノニ應用ガ出來マスルモノデゴザイマスカ、如何デゴザイマセウカ、之ヲチャント政府デ出來マスト云フ明言デゴザイマスレバ敢テ喙ヲ容レマヌ、ソレカラ第一條ノ中ニ在ル此當リ前ノ植物、此植物若クハ果實ガ這入りマスモノト致シマスト、果實ニ病菌又ハ害蟲ノ附イタモノヲ調ベマシテ、是ガ判明イタシマスト云フコトノ外ニ、此制度ガ立チマシタナラバ、外ノ國力ラ參リマス植物デ、我國ノ植物ヲ惡化イタス、惡ルク化ス所ノ植物又ハ溢ニ蕃殖イタシマシテ、日本ニマダゴザイマセヌケレドモガ、其種子ガ參リマスト云フト、我國ニ參リマシテ初メテ我國ノ土地ヲ荒シマスル有害無益ナル植物ト云フモノハ、ドウ致シマスカ、チヨット伺ッテ置キマス、ソレカラ其検査官吏ト云フモノハドウ云フ資格ノ者ヲ此検査官吏ニ致シマスカ、ソレダケヲ伺ヒマシテ贊否ヲ決シタウゴザイマス

〔政府委員道家齊君演壇ニ登ル〕

○政府委員(道家齊君) 唯今ノ石黒男爵ノ御尋ニ對シマシテ御答イタシマス、植物ト申シマスレバ此中ニ種子其他ノ果實ト云フモノハ這入ルカドウカト云フ御懸念デアリマスガ、是ハ植物ト申シマスレバ、御承知ノ通リ廣イ文字デゴザイマスカラ、無論種子果實等ハ這入ルノデアリマシテ、其解釋ニ付キマシテ、獨リ我邦ニ於テ斯ノ如ク解釋シテ居ルバカリデゴザイマセズ、現ニ亞米利加ニ於キマシテ各國カラ輸入イタシテ居リマス植物ニ對シテ検査ヲ行ヒマス際ニ用キテ居リマスノハ、即チ植物ト云フ文字ヲ用キテ居リマス、ソレガ我邦ニ用キマス所ノ植物ト同ジ字デアリマスカラ、ソレニ對シテ植物ト云フコトデ廣イ意味ニ解シテ差支ナイト考ヘテ居リマス、ソレカラ第二ノ御尋ハ若シ此植物其他ノモノデナクシテ、或ハ此植物ヲ害スルヤウナモノガ這入ッタラ、ドウスルト云フ御尋デゴザイマスガ……

〔男爵石黒忠惠君發言ノ許可ヲ求ム〕

○議長(公爵德川家達君) 石黒君ハ……

○男爵石黒忠惠君 唯今ノ説明ガチョット私ノ聞キマシタノト方角ガ違テ居リマスカラ、徒勞ヲ執ラセマスノハ如何ト思ヒマスノデ、チヨット辯ジタウゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 宜シウゴザイマス

○男爵石黒忠惠君 植物ノ他ノモノトハ申シマセヌ、此植物ヲ害シマス病菌ガアリマスノデゴザイマスガ、植物ト申シマシテモ、ソレデ果實若クハ種子ト云フモノニ應用ガ出來マスルモノデゴザイマスカ、如何デゴザイマセウカ、之ヲチャント政府デ出來マスト云フ明言デゴザイマスレバ敢テ喙ヲ容レマヌ、ソレカラ第一條ノ中ニ在ル此當リ前ノ植物、此植物若クハ果實ガ這入り

リマスカ、ナサイマセヌカト云フコトヲ伺ヒタイ、植物ノ外ノモノデゴザイ  
マセヌ、植物デゴザイマス

○政府委員(道家齊君) 御答イタシマス、ソレハ第十條ニゴザイマシテ、凡  
ソ菌類又ハ蟲類ト云フヤウナモノデナクテモ、主務大臣ガ植物ヲ害スル、又  
ハ害スルノ虞アリト認ムモノハ本法ノ適用ニ付テハ、之ヲ病菌又ハ害蟲ト

看做スト云フコトガアリマスカラシテ、此規定ノ運用ニ依テハ、ソレハ出來  
ル積リデゴザイマス、ソレカラ検査員ノ資格等ノ御尋デゴザイマス、是ハ大  
體ニ於キマシテ此植物ノ、即チ農學士デゴザイマストカ、若タハ菌類ノ研究

ヲシタ即チ其方ノ技術者ト云フモノヲ採用スル積リデゴザイマス、併ナガラ  
此簡單ナ、詰リ支署ノ方ニ於キマシテ、簡單ナ検査ヲ致シマスルモノニ對シ  
マシテハ、多少ノ講習ヲ致シマス、サウシテ其者ヲ採用スル積リデゴザイマ  
ス、極ク精密ナル検査ヲ致シマスルモノハ即チ技師技手ヲ置キマスシ、又簡易

ナ所ニ於キマシテハ或ハ技手ヲ命ジマシテ、其技手ニハ唯今申上ゲルヤウニ  
相當ナル講習ヲ致シマシテ、サウシテ此検査ヲ行フニ付テ支障ノナイヤウニ  
努メル積リデゴザイマス

○議長(公爵德川家達君) 他ニ御發言モナイト認メマスカラ採決ヲ致シマ

ス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス

○子爵岡部長職君 直チニ第二讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○男爵中川興長君 賛成

〔其他「贊成」ト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第二讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ  
〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 全部ヲ問題ニ供シマス、委員長ノ報告ニ同意ノ諸  
君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○議長(公爵德川家達君) 過半數ト認メマス

○子爵岡部長職君 直チニ第三讀會ヲ開カレムコトヲ希望イタシマス

○伯爵正親町實正君 賛成

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開イテ御異存ゴザイマセヌカ  
〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 直チニ第三讀會ヲ開キマス、第二讀會ノ決議通り  
デ御異存ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 「異議ナシ」と呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十一、船舶積量測度法案、政府提出、  
衆議院送付、第一讀會ノ續、委員長報告

船舶積量測度法案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正三年三月十一日

右特別委員長

伯爵松 浦 厚

貴族院議長公爵德川家達殿

〔伯爵松浦厚君演壇ニ登ル〕

○伯爵松浦厚君 唯今ヨリ船舶積量測度法案ノ委員會ノ結果ヲ御報告イタシ  
マス、去ヌル十一日ノ日ニ委員會ヲ開キマシテ、政府委員ノ詳細ナル説明ヲ  
承リマシタ、委員一同異議ナク原案通り確定イタシマシタ、付キマシテハ此  
要點ニ付テ一二申上ゲマス、御承知デモアラセラレマス通リニ、此法案ハ唯  
今マデハ謂ハユル船舶積量測度規則デアリマシテ、此規則ハ明治十七年ノ四  
月ニ發布ニナラレマシタモノデアリマス、其折ハマダ航海術モ今日ノヤウニ  
隆盛デゴザイマセヌ時デアリマシタノデ、其以來此規則ニ依リマシテ三十年  
間繼續シテ實施サレテ居リマシタ次第デアリマス、此規則ト申スモノハ御承  
知ノ通リニ、英吉利ノ法ニ依テ立テラレタ規則デアリマス、然ルニ段々其後  
ニナリマシテ海運ノ發達ヲ來シマスシ、又船舶ノ構造モ自然ニ發展イタスヤ  
ウナコトニナリマシテ、又船舶ノ構造ニ付キマシテモ段々改ツテ參リマシテ、  
此儘ニ致シテ置カレナイヤウナ時勢ニ際會イタシタ次第デゴザイマス、ソレ

ニ付キマシテハ此航海ノ安全ト云フモノモ從ツテ圖ラナケレバナラズ、又船舶ノ保護ト云フモノモ從ツテ考ヘネバナラヌ、又課稅ニ付キマシテモ公平ヲ圖ラネバナラヌト云フコトガ自然ニ起ツテ參ッタノデ、英吉利ニ於キマシテハ、此規則ト云フモノハ其後屢々改正ニナラレタコトデアリマス、殊ニ明治二十七年即チ一千八百九十四年ノ改正法ト云フモノハ、歐羅巴列國ニ於キマシテモ、前後イタシテ此改正法ヲ今用キラレルヤウニナツテ參ッタノデス、然ルニ我國ハマダ其所マデ進マヌ事情デアリマスカ、彼此レデ此列國ト共ニ改正法ヲ日本モ襲用スルト云フコトニ至ラズニ居ツタ次第テアリマス、ソコデ今日マデ其昔ノ法律ヲ墨守シテ居ルト云フ國ハ唯日本タケデアリマス、此舊法ヲ墨守シタ結果ト云フモノハ、ドウナリマスカト申セバ、比較的噸數ノ呼聲ノ高イモノヲ以テ用キラレテアリマス結果、海外ノ港ニ船舶ガ這入リマスニ付キマシテハ、噸數上ノ課稅トカ、若クバ燈臺稅トカ水先料トカ云フヤウナモノガ噸數ニ課セラレマシテ、手數料モ從ツテ過大ヲ來スト云フコトニナツテ、比較的列國ノ占取シテ居ル所ノ權利以上ニ我國タケハ多クノ稅ヲ拂ツテ居ツタト云フ所ノ次第ニナツタ譯デアリマス、今日ハ此際此儘ニ致シテ置キマシテハ、航海上竝ニ國家ノ發展上、貿易ノ隆盛ヲ來ス上ニ付キマシテモ、ドウシテモ是ハ改正ヲ致サナケレバナラヌト云フ所カラ致シマシテ、政府ハ其必要ヲ感ジラレマシタモノト見エマシテ、此規則ヲ新ニ法案ニ改メラレルコトニナツタ譯デアリマス、其重ナル點ニ於キマシテハ、即チ第一條ノ船舶ノ積量ヲ「フート」ニ改メルト云フコトガ最モ要點デアリマシテ、今日マデハ測度ノ單位ハ曲尺アリマシタケレドモ、是カラ先キハ列國共同ノ上ニ付キマシテ、ドウ致シマシテモ「フート」ヲ用キルガ利益デアルト云フ所デ、此以前ノ曲尺ヲ「フート」ニ改メルト云フコトニナツタノデアリマス、其曲尺ヲ「フート」ニ改ムルト云フ所ノ結果、如何ナル利益ヲ來スカト云フコトヲ申上ゲマスレバ、船舶ノ噸數ニ於キマシテ、千噸ニ付テ凡ソ十七噸餘ノ利益ヲ來ス譯デアリマス、ソレカラ其次ノ此法案ニ付テノ要點ハ第四條デアリマシテ、其第四條ノ今日ハ總噸數ト云フモノト登録ノ噸數ト云フ所ノモノニ付テ、列國ノ均等ニ權利ヲ得テ居ル所カラ、日本ガ不利益デアルト申スハ此點デアルト考ヘマス、此度ハ更ニ此總噸數カラ致シマシテ登簿噸數ト云フモノヲ引ク場所ガ船舶ノ上ニ在ル、其箇所ヲ此所ニ制定サレタ譯デアリマス、即チ登簿噸數ト云

フハ謂ハユル「ネット」ト同ジ所デ、ソレニ改メルト云フ所ガ此要點デアリマス、此第四條ニ付キマシテハ委員諸君ノ中ニ於テ色ニ御専門ノ御方ガ御出デニナリマシタカラ、御質問モアリマスシ、色々又是カラ先キ此列國ニ於テモ長ク法律ヲ維持シテ置ク譯デモナカラウカラ、進ンデ改メテ行クガ宜カラウ探ツテ居ル所ノ法ニシタ方ガ宜カラウト云フ意見ニ歸著イタシマシテ、此通りニ第四條ノ中デ省クベキモノ、若クハ加フベキモノモ、其儘ニシテ原案ニ從ムルト云フコトニナツテ、ソレカラ致シテ、此新法案ヲ實際ニ用キラレル上ニ付キマシテハ如何ナル利益ガアルカト云フコトノ一二點ヲ申上ゲマスレバ、遠洋航海ニ於キマシテハ、今日カラ致シマスト大凡六万圓ノ減額ヲ來スコトニナリマス、又自由貿易航路ニ付キマシテ計リマスト大凡二十一万圓以進ムニ付キマシテハ、航海ニ用キル所ノ船舶モ日ニ一ノ大キナル噸數ノ船ヲ用キルヤウニナリマス、其際ニ於テ我國モ列國ト競ウテ此國家ノ發展、利益ノ上ニ達スルト云フコトニナリマス、隨ツテ今日ノヤウニ日ニ世界ノ文運ガシテ此法案ガ改マラヌ限ハ、少カラヌ所ノ不利益ヲ來スト云フ點モ自然アリマス、一二統計的數字ニ於テモ御分リニナラウト思ヒマス、付キマシテハ委員一致イタシマシテ此法案ヲ可決イタスコトニナリマシタ譯デアリマス、併ナガラ此法案ハ隨分「テクニカルターム」ガ多クゴザイマシテ、小生ノ如キ……本員ノ如キ此向ニ不巧者ナル者ガ一々精シク此事ヲ申上ゲル力ハナイシテ可決イタシマシタ所ノ要點ヲ申上ゲテ置キマス

○男爵中川興長君 本案ハ條數ハゴザイマスガ、別段修正モゴザイマセズ、且御議論モナイヤウニ存ジマスルカラ讀會省略ニ動議ヲ提出イタシマス

○男爵伊東義五郎君 讀會省略ニ賛成

○男爵村上敬次郎君 賛成

○男爵肝付兼行君 賛成

- 男爵内田正敏君 賛成
- 伯爵林博太郎君 賛成
- 伯爵奥平昌恭君 賛成
- 男爵尾崎麟太郎君 賛成
- 男爵眞鍋斌君 賛成
- 議長(公爵德川家達君) 中川男爵ノ讀會省略ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス
- 起立者 多數
- 議長(公爵德川家達君) 三分ノ二以上ト認メマス
- 議長(公爵德川家達君) 委員長ノ報告ニ御異存ゴザイマセヌカ  
「異議ナシ」ト呼フ者アリ
- 議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス
- 議長(公爵德川家達君) 議事日程第十二、郡制廢止法律案、衆議院提出、第一讀會
- 郡制廢止法律案
- 右本院提出案及送付候也
- 大正三年三月十日

## 貴族院議長公爵德川家達殿

## 衆議院議長谷場純孝

郡制ハ之ヲ廢止ス

附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム  
法律ノ規定中郡參事會ノ權限ニ屬スル事項ニシテ特ニ規定ヲ要スルモノ其

ノ他郡制ノ廢止ニ伴ヒ必要ナル事項ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

從來郡及郡組合ニ屬スル財產、營造物、事業及權利義務ノ處分ハ關係アル  
府縣參事會ノ意見ヲ徵シ内務大臣之ヲ定ム

○伯爵柳原義光君 本案ニ對シテ内務大臣ニ質問ヲ致シタイノデアリマスル  
ド此案ト内容ハ同ジモノデアリマシタト記憶イタシマスガ、衆議院ヲ通過シ

質屋取締法中改正法律案  
右本院提出案及送付候也

大正三年三月十二日

テ當院ニ參リマシテ否決ニナツタ案ダト記憶シテ居リマス、然ルニ本年ハ是ガ衆議院提出ノ案ニナツテ當院ニ參ツテ居リマスルガ、政府ノ御所見ハ如何デアリマスカ、又内務大臣御自身トシテハ政府案ニセラレズシテ、衆議院ノ提出案ト云フ形式デ之ヲ御出シニナツタノデアリマスカ、其邊ヲ伺ヒタイモノト考ヘマス

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 唯今ノ御質問ニ御答イタシマス、本案ハ御承知ノ如ク先年政府ヨリ提出イタシマシテ、第一回ノ折ニハ議了ニ至ラズシテ終リマシタ、其次ニ提出イタシマシタ時ニハ當院ニ於テ否決ニ相成ツテ居リマス、故ニ政府ハ之ヲ提出スルヤ否ヤニ關シマシテハ爾來考慮ヲ費シマシタ、未ダ今日提出イタサウトハ考ヘテ居ラナカッタノデアリマス、然ルニ此案ハ衆議院ノ或議員ヨリ提出セラレマシタ、此議員ハ無論我ノ同志デハゴザイマセヌ、併ナガラ是ハ既ニ政府ガ廢止ヲ必要ナリトシテ、兩度マデ提出イタシタノデアリマスルカラ、此主義ニ於テハ一向異論ハゴザイマセヌ、其廢止ヲ希望イタスノデアリマス、故ニ衆議院ノ提案ニハ同意イタシマス、同意イタシマスガ、然ラバ何故ニ政府ハ提出イタサナカッタカト云フト、唯今申上ゲマシタ如ク爾來ノ狀況ニ鑑ミマシテ考慮ヲ致シテ居ルガ故ニ提出イタシマセヌ、提出イシマセヌガ、政府ガ提出セザルガ爲ニ、他ノ同志ノ手ヲ惜リテ衆議院案トシテ提出イタシタト云フ事情ハ毫末モゴザイマセヌ

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス  
〔東久世書記官朗讀〕

## 郡制廢止法律案特別委員

伯爵柳原 義光君	子爵今城 定政君	小松原英太郎君
一木 喜徳郎君	谷森 真男君	關 清英君
山田 春三君	阪本 鈴之助君	森田 庄兵衛君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十三、質屋取締法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

質屋取締法中改正法律案  
右本院提出案及送付候也

大正三年三月十二日

衆議院議長長谷場純孝

社寺上地下戻ニ關スル法律案  
右本院提出案及送付候也

大正三年三月十二日

貴族院議長公爵徳川家達殿

質屋取締法中左ノ通改正ス  
第五條第二項ニ左ノ但書ヲ加フ

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス  
但シ命令ノ定ムル所ニ依リ之ヲ交付セサルコトヲ得

〔東久世書記官朗讀〕

質屋取締法中改正法律案特別委員

侯爵大炊御門幾麿君 子爵土御門晴榮君 子爵本莊宗義君  
小野田元熙君 男爵北大路實信君 男爵清水資治君  
安立綱之君 有松英義君 中村治兵衛君

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十四、日本勸業銀行法中改正法律案、  
衆議院提出、第一讀會

日本勸業銀行法中改正法律案

右本院提出案及送付候也

大正三年三月十二日  
貴族院議長公爵徳川家達殿  
日本勸業銀行法中左ノ通改正ス  
第十四條第三項ノ次ニ左ノ一項ヲ加フ  
○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

日本勸業銀行法中改正法律案特別委員

右本院提出案及送付候也

貴族院議長公爵徳川家達殿

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

○議長(公爵徳川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス  
輕便鐵道財團ハ本法ノ適用ニ付キテハ之ヲ不動産ト看做ス

〔東久世書記官朗讀〕

日本勸業銀行法中改正法律案特別委員

右本院提出案及送付候也

貴族院議長公爵徳川家達殿

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十五、社寺上地下戻ニ關スル法律案、  
衆議院提出、第一讀會

伯爵徳川達孝君 子爵井伊直安君 子爵京極高徳君  
男爵田健治郎君 男爵坪井九八郎君 男爵黒田長和君  
男爵二條正麿君 堀内半三郎君 堀正一君

〔東久世書記官朗讀〕

日本勸業銀行法中改正法律案特別委員

右本院提出案及送付候也

貴族院議長公爵徳川家達殿

日本勸業銀行法中左ノ通改正ス

○議長(公爵徳川家達君) 議事日程第十五、社寺上地下戻ニ關スル法律案、  
衆議院提出、第一讀會

第二條 地方長官ハ土地ノ狀況ニ依リ特ニ盲人以外ノ者ト雖試験ノ上按摩業ヲ免許スルコトヲ得

第三條 本法施行ニ關スル細則ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔東久世書記官朗讀〕

盲人保護法案特別委員

伯爵松浦 厚君	子爵野宮 定穀君	子爵實吉 安純君
男爵小澤 武雄君	男爵高木 兼寛君	高崎 親章君
男爵神田 乃武君	有松 英義君	本間 金之助君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十七、公共團體ノ管理スル公用土地物件ノ使用ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會  
公共團體ノ管理スル公用土地物件ノ使用ニ關スル法律案  
右本院提出案及送付候也

大正三年三月十三日

衆議院議長谷場純孝

貴族院議長公爵德川家達殿

第一條 公共團體ニ於テ管理スル道路、公園、堤塘、溝渠其ノ他公共ノ用ニ供スル土地物件ヲ濫ニ使用シ又ハ許可ノ條件ニ反シテ使用スル者ニ對シ管理者タル行政廳ハ地上物件ノ撤去其ノ他原狀回復ノ爲必要ナル措置ヲ命スルコトヲ得

第二條 前條ノ場合ニ於テハ行政執行法第五條及第六條ノ規定ヲ準用ス

附 則

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

○議長(公爵德川家達君) 此法案ハ土地收用法中改正法律案ノ特別委員ニ付託シテ御異存ゴザイマセヌカ

〔異議ナシト呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十八、醫師法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

醫師法中改正法律案  
右本院提出案及送付候也  
大正三年三月十三日

貴族院議長公爵德川家達殿

衆議院議長谷場純孝

醫師法中左ノ通改正ス

第十四條第一項ノ次ニ左ノ二項ヲ加フ

前項ニ依リ醫術開業前期試験ニ合格シタル者ハ大正三年十月三十一日迄ニ届出テ特ニ定メタル醫術開業後期受驗資格名簿ニ登録スルヲ要ス  
受驗資格名簿ニ登録シタル者ニ限リ大正五年九月迄醫術開業試験ヲ舉行ス

同條第二項中「前項」ヲ「前三項」ニ改ム

○男爵石黒忠惠君 本案ニ付キマシテ文部大臣若クハ文部次官ヨリ意見ヲ聞キタウゴザイマス

〔政府委員福原鐸二郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(福原鐸二郎君) 御答ヲ申シマスガ、此法律案ノ提出ニナリマシタ理由ハ、本年ノ九月三十日ニ於キマシテ、從來施行イタシテ居リマシタ醫術開業試験ノ規則ニ依ル所ノ試験ガ廢メニナルノデアリマス、是ハ醫師法ノ規定ノ結果デアリマシテ、ソレガ爲ニ此九月以後ニ於テ受驗人ガ遂ニ醫術開業試験ニ漏レマシテ、落伍ヲ致ス者ガ非常ニ多數デアリマス、ソレデ是等ノ者ハ既ニ多年醫學ノ研究ヲシタ者デアリテ、今更方向ヲ轉換スルト云フコトモ餘程困難デアリマス、是等ノ者ガ數千人モアルデアラウ、是等ノ者ニ對シテ頗ル同情ニ堪ヘヌノミナラズ、又職業ヲ得ナイ者ガ多數ニ社會ニ出ルト云フコトモ憂慮スベキコトデアルカラ、ソコデ此法律ヲ改正シテ、更ニ二箇年間、前期試験ニ合格ヲシタ者ニ限テ醫術開業試験ヲ行フト云フ案デアリマス、デ政府ハ此法律案ノ改正ニナリマシタ理由ニ付キマシテハ、是ハ諒トスルノデアリマスケレドモ、實ハ此醫師法ガ出マシタノハ明治四十年デアッタカト思ヒマス、此醫術開業試験ヲ施行スル醫術開業試験ノ存續ノ期間ト云フモノハ醫師法ニ依リマシテ八箇年間ト規定ヲサレテアッタノデアリマス、八箇年間ハ從來ノ規則ニ依テ試験ヲ受ケルト云フ途ガ開カレテアリマシタノデ、猶豫期限ト致シマシテハ隨分長イ期間デアリマス、既ニ八箇年ヲ此九月三十日デ經

過ヲ致スコトデアリマスルカラ、此上更ニ二箇年モ延バスト云フコトニナリマスルト、如何ニモ存續ノ期限ガ長過ギハシナイカト云フコトヲ政府ハ豫テ考ヘテ居リマス、ソレカラ尙又此八箇年間ニ醫術開業試験ヲ受ケマシテ、合格シタ者ハ醫者ノ免狀ヲ貰ヒマシテ、本年ノ九月三十日以後ニナリマシテ殘存ヲ致シテ居ル者ト申スモノハ、詰リ申サバ八箇年ニ於キマシテ淘汰ヲ經タ残リ者デアリマスルカラ、是等ノ者ガ醫師ニナリマシタ所デ、實ハ多クノ公衆衛生ノ上ニ於キマスル貢獻ヲ望ムト云フコトモ出來マイ、又二箇年存續ノ爲ニハソレノ相應ノ經費モ要ルコトデアリマスルカラ、政府ニ於キマシテハ、隨分此後期受験者ナドハ試験ノ延長ヲ希望シテ居リマシタケレドモ、斯ノ如キ改正案ヲ提出スルコトハ、ドウデアラウカト思ツテ、政府ハ遂ニ提出ヲ致サナカッタ、然ルニ衆議院ノ方ヨリシテ斯ノ如キ案ガ出マシタノデアリマス、右申ス如キ譯デアリマスルノデ、此案ニ對シマシテハ直チニ賛成スルト云フコトハ實ハ致兼ネタノデアリマス、併ナガラ此提案ノ理由ト云フコトニ付テハ、是ハ大ニ諒トスベキコトデアリマスルシ、又二箇年間法律ガ改正ニナリマシテ、此醫術開業試験ガ存續ヲ致スト云フコトニナリマスレバ、ソレガ爲ニ著シク不都合モ生ズルカト申シマスレバ、ソレ程ノコトデモアリスマイ、ソレ故ニ此案ニ對シマシテハ政府ハ直チニ賛成トハ得ウ申シマセヌガ、併ナガラ兩院ニ於テ是認ニナルト云フコトデアリマスレバ、施行上ニ付テハヒドク不都合モナイコトデアリマスカラ、強ヒテ異存ヲ申サナイ、斯様ニ衆議院デハ申シマシタノデアリマス、先ヅ斯ウ云フ意見デゴザイマスカラ、宜シク御審議ヲ希望イタスノデアリマス。

○男爵石黒忠惠君 繢イテ伺ツテ見タイノハ、醫術開業試験ニハ前期ト後期ガアツテ、即チ醫者ニナルベキ學術ノ數科ノ中、殆ド半ヲ前期ノ試験デ受ケ、アトノ残リヲ後期デ受ケマスルノデゴザイマスルガ、其前期ノ試験ヲ文部省ニ於テハ特ニ廢メラレテ、サウシテ後期ノ試験バカリニシナケレバナラヌヤウニ存ジマスノニ、當年ノ四月ニ……當年ノ八月ニ試験ヲバ廢メルニモ拘ラズ、當年四月、唯今已ニ此前期ノ試験ヲ受ケルモノガ受ケツツアリマスト云フノハ甚ダ本員ナドハ解セマセヌノデ、此半ノ……數科ゴザイマスル半ヲ試験ヲ受ケマシテ、四月ニ及第イタシマシテモ、アト五、六、七、八、九、五箇月ノ間ニアト半分ノコトヲ修得サセマセウト云フコトハ、餘程困難ナ話デゴザイマスルニモ拘ラズ、文部省デハ前期ノ試験ヲ四月、唯今受ケツツアルト云フヤウナモノデゴザイマスカラ、一年半或ハ二年半前期試験ヲ停止イ

リマシテ、即チ此四月ニ試験ヲ致シマスノデゴザイマス、サウ致シマスルト云フト、此前期試験ヲ受ケテ、後期試験ニ剩ツタ數千人ト云フモノハ、當然不勉強ナ者若クハ才能ノ不足ナ者デ、後期試験ヲ受ケテ醫者ニナレヌ者モゴザイマセウケレドモ、文部省ガ當年四月ニ受験料ヲ取ツテ試験ヲスルト云フコトデゴザイマスルト、文部省ニ此制度ガアツタ爲ニ残リ者ガ出來ルト云フヤウナ感ジガ致シマスルガ、其邊ハドウ御考ヘニナリマスカラ、ソレデ本員ノ考ヘルニハ、年ヲ延ベルコトハ文部省デハ寧ロ御望ミナサルカト思フ、本員ノ考デハ今マデノ始末カラ考ヘルト、此案ハ文部省カラ御提出ニナラナケレバナラヌモノト考ヘマスガ、文部省ノ御考ハ如何デゴザイマス

〔政府委員福原録二郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(福原録二郎君) 本年ノ第一回ノ試験ニ於キマシテ醫術開業試験ノ前期試験ヲ致シテ居ルノデゴザイマス、是ハ本年ノ九月三十日限デ醫術開業試験ハ止ムノデ、ソレガ醫師法ノ規定デゴザイマスカラ、本年ノ今頃マデスマスルガ、醫術開業試験規則ニ依ルト、試験ト云フモノガ前期後期ノ二ツニ分レテ居ル、前期ノ試験ニハ一箇年半ト思ヒマシタ、ソレダケ修業ヲシナケレバナリマセヌ、ソレカラ後期ノ試験ヲ受ケル爲ニハ更ニ一箇年半修業ヲスルナケレバナラヌノガ、醫術開業試験ノ規定デアリマス、然ルニ其後期試験ノト云フ意味デハアリマセヌ、一箇年半ノ後期試験ノ試験科目ニ相當スル準備ヲシテ居レバ、ソレデ受験ノ資格ガアルト云フコトニナラヌノデアリマス、ソレ故ニ本年ノ三月ニ前期試験ニ及第イタシマシテ、サウシテ既ニ既往ニ於キマシテ後期試験ヲ受ケルダケノ準備ヲ致シテ居ル者デアリマスナラバ、更ニ其次ノ八月ナリ九月ナリノ試験ニ於キマシテ後期ノ試験ヲ受ケルコトガ出來ルノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、實ハ今頃マデ前期ノ試験ヲ繼續スルノハ可笑シイヤウデアリマスガ、醫術開業試験法ノ規定ニ依テアルノデゴザイマス、ソレ故ニ此受験者ニ對シマシテ、苟モ試験ヲ受ケテ試験ニ合格スレバ、最後ノ試験ヲ受ケル機會ヲ與ヘルノガ當然ノコトデアルソレデ本年ノ九月三十日マデハ醫術開業試験法ニ依リ試験ヲ存續スルト書イテアルノデゴザイマス、ソレ故ニ此受験者ニ對シマシテ、苟モ試験ヲ受ケテ試験ニ合格スレバ、本年ノ九月三十日マデハ醫術開業試験法ニ依リ試験ヲ受ケルコトガ出來ルノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラ、實ハ今頃マデ前期ノ試験ヲ繼續スルノハ可笑シイヤウデアリマスガ、醫術開業試験法ノ規定ニ依テアルノデゴザイマス、ソレ故ニ此受験者ニ對シマシテ、苟モ試験ヲ受ケテ試験ニ合格スレバ、最後ノ試験ヲ受ケル機會ヲ與ヘルノガ當然ノコトデアルソレデ本年ノ九月三十日マデハ醫術開業試験法ニ依リ試験ヲ受ケル權利ガア

タシマスレバ、謂ハユル殘リ者ハ少クナル譯デアリマスガ、ドウモ醫術開業試験法ノ規定ノ上ニ於テサウ云フコトハ出來ナリ、政府ハ斯ノ如ク考ヘマシテ、サウシテ大正三年ノ第一回ノ試験ヲ以テ前期ノ試験ハ是デ廢スルト云フコトニ致ス積リデアリマス、ソレカラ尙序ニ申上ゲテ置キマスガ、數千人九月三十日後ニ落伍者ガ殘ルト云フコトデ、是ハ衆議院ノ方ノ提出者ハサウ云フ説明デアリマシタガ、政府ノ計算デハ、ソレ程多クハ残ラヌ積リデアリマス、此既往數年間試験ノ回数ヲ殖ヤシテ、受験人ノ便利ヲ圖リマシタ其結果致シマシテ、無論是ハ豫測デハアリマスクレドモ、本年ノ九月末ニナツテ残リマス者ハ、計算ノ上カラハ千三十三人パカリデアリマス、是ハ無論當テクトデゴザイマスカラ、實際ニナツタラモウ少シ是ヨリ多イカモ知レマセヌガ、尙又大正三年度ニ於キマシテハ、試験ノ度數ヲ殖ヤシマス積リデ、臨時費ヲ要求イタシテ置キマシタ、サウ云フモノノ成立如何ニ依テ試験ノ度數ニモ多少違ヒヲ生ジテ參リマスガ、免ニ角未ダハッキリハ分リマセヌクレドモ、數千人ノ殘餘ガ生ズルコトハナイト居リマス、先ヅ其殘餘ハ千人内外、内外デハアリマセヌ、千人少シ越ス位ト勘定ノ上カラ計算シテ居リマス、此段御答イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 此法案ハ議事日程第十六ノ法案即チ盲人保護法案ノ特別委員ニ付託シテ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔「異議ナシ」と呼フ者アリ〕

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第十九、輕便鐵道補助法中改正法律案、衆議院提出、第一讀會

輕便鐵道補助法中改正法律案及送付候也

右本院提出案及送付候也

大正三年三月十三日

貴族院議長公爵德川家達殿

輕便鐵道補助法中左ノ通改正ス

第一條 輕便鐵道ニ於テ毎營業年度ニ於ケル益金カ建設費ニ對シ一年五分ノ割合ニ達セサルトキハ政府ハ該鐵道營業開始ノ日ヨリ十年ヲ限リ其ノ

試験法ノ規定ノ上ニ於テサウ云フコトハ出來ナリ、政府ハ斯ノ如ク考ヘマシテ、サウシテ大正三年ノ第一回ノ試験ハ是デ廢スルト云フコトニ致ス積リデアリマス、ソレカラ尙序ニ申上ゲテ置キマスガ、數千人九月三十日後ニ落伍者ガ殘ルト云フコトデ、是ハ衆議院ノ方ノ提出者ハサウ云フ説明デアリマシタガ、政府ノ計算デハ、ソレ程多クハ残ラヌ積リデアリマス、此既往數年間試験ノ回数ヲ殖ヤシテ、受験人ノ便利ヲ圖リマシタ其結果致シマシテ、無論是ハ豫測デハアリマスクレドモ、本年ノ九月末ニナツテ残リマス者ハ、計算ノ上カラハ千三十三人パカリデアリマス、是ハ無論當テクトデゴザイマスカラ、實際ニナツタラモウ少シ是ヨリ多イカモ知レマセヌガ、尙又大正三年度ニ於キマシテハ、試験ノ度數ヲ殖ヤシマス積リデ、臨時費ヲ要求イタシテ置キマシタ、サウ云フモノノ成立如何ニ依テ試験ノ度數ニモ多少違ヒヲ生ジテ參リマスガ、免ニ角未ダハッキリハ分リマセヌクレドモ、數千人ノ殘餘ガ生ズルコトハナイト居リマス、先ヅ其殘餘ハ千人内外、内外デハアリマセヌ、千人少シ越ス位ト勘定ノ上カラ計算シテ居リマス、此段御答イタシマス

○議長(公爵德川家達君) 此法案ハ議事日程第十六ノ法案即チ盲人保護法案ノ特別委員ニ付託シテ御異議ゴザイマセヌカ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

〔「東久世書記官朗讀」〕

#### 第五條 削除

#### 附 則

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

本法施行ノ日ヨリ十年ヲ經過シタルトキハ新ニ補助ヲ爲スコトヲ得ス

○議長(公爵德川家達君) 特別委員ノ氏名ヲ御報告ニ及ビマス

〔「東久世書記官朗讀」〕

#### 輕便鐵道補助法中改正法律案特別委員

子爵松平直平君	宮本小一君	小松謙次郎君
男爵眞田幸世君	男爵津田弘道君	古市公威君
福永吉之助君	江原芳平君	八田徳三郎君

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十、未成年者飲酒取締ニ關スル法律案、衆議院提出、第一讀會ノ續、委員長報告

未成年者飲酒取締ニ關スル法律案

右可決スヘキモノナリト議決セリ依テ及報告候也

大正三年三月十四日

右特別委員長

侯爵細川護成

〔「伯爵清棲家教君演壇ニ登ル」〕

○伯爵清棲家教君 此特別委員會ハ即チ細川侯爵ガ委員長デゴザイマシタガ、委員長ガ本日ハ御闕席デゴザイマスカラ、私カラ委員會ノ經過並ニ結果ヲ申上ゲマス、此法案ノ委員會ハ二回開キマシテゴザイマス、政府委員ノ出席ヲ求メマシテ種々質問モゴザイマシタ、併ナガラ如何ニモ委員ノ中デ、尤モナ政府委員ノ辯明デアルト云フコトハ認メマセヌデゴザイマシタ、ソレカラ遂ニ討論ニ移リマシテ、即チ賛成反対ノ御議論ガゴザイマシタガ、先づ

賛成者ノ御論ノ方ヲ申上グマス、付キマシテハ賛成ノ御方ニ於キマシテハ、色々外國ノ例ヲ御引キニナツテ段々御話モゴザイマシタ、ノミナラズ數字ニ於テノ御辯明モアリ、又統計上ノ御辯明モゴザイマシタ、又ハ圓面ト申シマセウカ何ト申シマセウカ、免ニ角青ク塗ッタ圓面ヲ以チマシテ、日曜日ニハ是ダケノ患者ガアルトカ、或ハ水曜日ニハ是ダケノ患者ガ出來ルト云フヤウナ委シイ御説明ガゴザイマシタガ、是等ハ私カラ申上ゲルノハ甚ダ困難デゴザイマス、又間違ヲ生ジマシテモイカナイト思ヒマスカラ、是ニハ速記録モゴザイマス、且又賛成者諸君ヨリ其點ニ付キマシテハ委シイ御辯明ガアルコトト思ヒマスカラ、私ハ控ヘテ置キマス、唯其要旨ダケヲ申上ゲマスレバ、未成年者ガ酒ヲ飲ムト云フコトハ甚ダ良クナイコトデアル、故ニ宗教家、教育家、法律家等ニ於テモ種々未成年者ノ酒ヲ飲ムコトヲ禁ジタイト云フコトデ努力故ニ賛成ヲスルト云フ趣旨デアッタヤウニ思ヒマス

〔副議長侯爵黒田長成君議長席ニ著ク〕

反対者ノ御議論ハ、此未成年者ノ禁酒ト云フコトニ付テハ、年々歲々衆議院案トナツテ提出ニナツテ居ル、併ナガラ以前ハ未成年者ガ酒ヲ飲ムト云フコトノミナラズ、親權ヲ行フ者マデモ罰スルト云フコトニナツテ居ッタガ、此度ノ法案デアレバ、即チ其法律ノ精神ノ在ル所ハ未成年者ニ酒ヲ飲マス飲マサナイト云フコトヨリハ、寧ロ主タル所ノ未成年者ト云フモノヨリモ、從タル所ノ營業者ヲ罰スルト云フコトニナツテ居ルカラシテ即チドウモ不十分ダト思フ、又固ヨリ此酒ノ害ノアルト云フコトハ成年者、未成年者ヲ問ハズ、總て衛生上及體育上ニ於テモ害アルモノデアルカラシテ、若シモ禁ズルト云フコトガ出來ルナラバ絶對ニ禁ジタイト思フ、併ナガラ我國ノ習慣ノ久シキ、今ニナル、此法ハ實行不可能デアルカラ、斯ノ如キ法案ヲ施行スルト云フコトハ學生共ニ於テモ酒ヲ飲マサヌト云フ事ノミハシタイト考ヘルケレドモ、此法案デアルト、却テ未成年者其他幼少者ヲシテ法ヲ輕ンゼシムルヤウナコトニナル、此法ハ實行不可能デアルカラ、斯ノ如キ法案ヲ施行スルト云フコトハ法律其モノヲ輕ンゼシメルト云フコトニナツテ、却テ將來惡結果ヲ來スコトニナルカラシテ此案ニ反対スル、併ナガラ將來ニ於キマシテ、完全ナル取締ノ出來ルト云フ、即チ酒ヲ飲ムベカラズト云フ所ノ完全ナル法案ノ出來タ場合ニ

ハ悅ンデ賛成スル、併ナガラ此法案ニ於テハ却テ惡結果ヲ來スト思フカラシテ反対ヲスル、斯ウ云フ論旨デアッタカト思ヒマス、付キマシテ探決ヲ致シマシタ所ガ、四ニ對スル三ニゴザイマシテ、即チ一ノ多數ヲ以チマシテ、即チウカ何ト申シマセウカ、免ニ角青ク塗ッタ圓面ヲ以チマシテ、日曜日ニハ是ダケノ患者ガアルトカ、或ハ水曜日ニハ是ダケノ患者ガ出來ルト云フヤウナ委シイ御説明ガゴザイマシタガ、是等ハ私カラ申上ゲルノハ甚ダ困難デゴザイマス、又間違ヲ生ジマシテモイカナイト思ヒマスカラ、是ニハ速記録モゴザイマス、且又賛成者諸君ヨリ其點ニ付キマシテハ委シイ御辯明ガアルコトト思ヒマスカラ、私ハ控ヘテ置キマス、唯其要旨ダケヲ申上ゲマスレバ、未成年者ガ酒ヲ飲ムト云フコトハ甚ダ良クナイコトデアル、故ニ宗教家、教育家、法律家等ニ於テモ種々未成年者ノ酒ヲ飲ムコトヲ禁ジタイト云フコトデ努力故ニ賛成ヲスルト云フ趣旨デアッタヤウニ思ヒマス

〔男爵石黒忠惠君發言ノ許可ヲ求ム〕  
○副議長(侯爵黒田長成君) 石黒男爵ハ何デゴザイマスカ  
○男爵石黒忠惠君 本員ハ委員會デ反対ヲ致シマシタ一人デゴザイマス、唯今反対ノ意見ヲ委員長カラ大要述ベラレマシタガ冀ハクハ一言反対ノ意見ヲ述ベタウゴザイマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 石黒男爵ニチヨット申シマスガ、之ニ付テハ通告者ガゴザイマス、反対ノ意見ヲ述ベタイト云フ通告者ガゴザイマス、伯爵林博太郎君

○伯爵奥平昌恭君 チヨット内務大臣ニ質問ヲ致シタインデアリマスガ……デ願ヒマス

〔伯爵林博太郎君演壇ニ登ル〕

○伯爵林博太郎君 此未成年者禁酒法律案ハ、過去十年來、年々根本君カラ衆議院ニ熱心ニ御出シニナル案デアル、デ初ノ中ハ酒ヲ飲ムコトソレ自身ヲ禁ジタ法律案デアリマシタノガ、一二年前カラハ間接ノ法律案トナツテ、唯今委員長カラ御報告ニナリマシタ通り、營業者ニ間接ニ禁止スル法案ガ出タノデアル、併ナガラ此十年來ノ提案ヲナサレタ根本君ノ意思ヲ見マスト云フト、元來未成年者ニ酒ヲ飲マサナイト云フコトガ動機ニナツテ出テ居ルノデアルカラ、先づ私モ其意思ヲ以テ此法律案ヲ研究シテ斷案ヲ下シテ見ヤウト思フノデアリマス、私ハ本來此案ニ付テ不賛成ノ者デハ決シテナイノデアル、併ナガラ法律ト云フ武斷的ノ權能ヲ振ッテ、此教育上ノ問題ヲ解決セムト欲スル其意思並ニ動機ガ不賛成デゴザイマス、唯今モウ十二時ニ近クナリマシテ我ノデアリマス、私ハ本來此案ニ付テ不賛成ノ者デハ決シテナイノデアル、併ナガラ法律ト云フ武斷的ノ權能ヲ振ッテ、此教育上ノ問題ヲ解決セムト欲スルノコトガ、絶對ニ法律ニ於テ禁止シ得ルコトデアルカラ、之ヲ先づ第一ニ生理上カラ申シマスルナラバ、勿論生理上ノ、醫學上ノ問題ハ色々醫學ノ

専門家ガ此中ニ御居デニナリマスルカラシテ必要ハナイノデアルガ、先ヅ其

進ミマシテ

〔議長公爵德川家達君議長席ニ復ス〕

ト、酒ガ人體ニ刺戟ヲ與ヘテ醉ハセルト云フ現象ハ、酒精其モノガ果シテ其影響ヲ與ヘルノデアルカト云フ研究ヲシテ居ル、極メテ少量ノ場合ニハ酒精ソレ自身ガ脳神經系統ニ刺戟ヲ與ヘルト云フコトヨリモ、此酒ト云フモノニ含有シテ居ル所ノ香料、匂ヒデス、此香料ト云フモノガ化學上カラシテ此鼻神經ヲ刺戟シテ、サウシテ脳神經系統ニ刺戟ヲ與ヘルト云フ方ガ醉フ原因デアルト云フコトガ分<sup>ツ</sup>テ居ル、果シテ然ラバ此禁酒ト云フモノガ酒ヲ禁ズル酒精ヲ禁ズル意味デアリマスト茲ニ妙ナ抵觸ガ起<sup>ツ</sup>テ來ル、第一ソレハ御承知ノ如ク酒ト云<sup>ツ</sup>テモ醣酵シタモノ以上ヲ酒ト云フノデアルカ、醣酵シテ醉フト云フコトダケカラ云フト色ミナ種類ガアル、酒精以外ノモノデ醉ハセルモノガ澤山アリマス、例ヘテ見レバ船量ト云<sup>ツ</sup>テ船ニ乗<sup>ツ</sup>テ醉フノモ、船ソレ自身ガ決シテ惡ルイノデハナイ、匂ヒト云フモノガ餘程之ヲ助ケテ居ルノデアル、サウシテ見ルト、禁酒ト云フモノハ第一其點ニ餘程抵觸シテ居ル、例ヘバ香竄葡萄酒ノ御話ガ昨年三宅君カラゴザイマシタガ、酒ト云<sup>ツ</sup>テ酒精ヲ含有シテ居ラヌモノガ澤山アル、サウシテ見ルト禁酒ト云フモノハ學理ノ上カラ考フベウシコトニナル、次ニハ百分ノ五以下ノ酒精ヲ含ンデ居ル飲料ハ人體ニ害ガナキコトニナル、アルカラ嘘デハアルマイト思ヒマス、サウシテ見ルト百分ノ五以下ノ「アルコホール」ヲ含ンデ居ルモノハ、ソレ程人體ニ害ガナイノニ、禁酒法案ヲ出スト云フコトハ、餘程不思議ナ抵觸ト云フコトニナル、是モ御考ヘニナラナケレバナラヌト思ヒマス、第三ニハ是モ亦チヨ<sup>ツ</sup>ト考ヘナケレバナラヌ、我ムノ此肉體が始終新陳代謝ヲシテ、筋肉ノ中ノ纖維組織ガ始終變<sup>ツ</sup>テ居リマス、ウシテ見ルト、禁酒法案ト云フモノハ人間ソレ自身ガ辭職シナケレバナラヌ、其場合ニ酒精ナルモノガ新陳代謝ノ矢張リ醣酵作用ノ產物トシテ始終出テ居ルト云フコトデアル、然ラバ人體ニハ「アルコホール」ハ始終含ンデ居ル、サソレ不徹底デハナイカト思フノデアル、併シ是ハ前提デアリマスガ尙是カラ

元來教育上ノ問題デアルベキモノガ、教育ノ範圍デハ到底抑ヘルコトハ出來ナイカラ法律ニ依テ之ヲ制裁シヤウト云フヤウナコトニナル、文部省ノ政府委員ニ於カレマシテモ之ヲ贊成シテ居ラレルヤウデアルガ、此問題ハ法律ノ威信ヲ害スルト云フ反對論者ノ意見ガアツタ先キ程委員長ハ言ハレマシタガ、私ハ教育家ノ上カラ見テモ、教育デハ斷案ガ付カヌ、解決ガ出來ヌト云フノデハ、教育家ソレ自身ノ威信ニ關スルコトデハナイカト思フ、特ニ此問題ニ付キマシテ、尙少シク考ヘテ見タナラバ、未成年即チ二十歳以下ノ者デアル、二十歳以下ノ者ニ酒ヲ飲マセナイト云フ精神デゴザイマスガ、此未成年者ニ對シテ生理上ノ問題ハ別トシテ、學生即チ生徒、中學校ノ生徒ガ重デゴザイマセウ、其生徒ニ……十八九歳ノ生徒ニ酒ヲ飲マセナイト云フ法令ヲ出ス必要アリヤ否ヤ、之ヲ今度ハ心理ノ上カラ見レバ、極ク簡單ニ言ヒマストニツ弊害ガアルデス、此問題ニ付キマシテハ、十年間モ經マシタカラ、種々ナル諸大家ノ御話ハ省キマシテ申上げマセヌ、自分ダケノ意見ヲ述ベヤウト思ヒマス、一番重ナ惡ルイ弊害ハ早熟ト云フコトデアル、日本人殊ニ東洋人ハ歐羅巴人ヨリモ早熟早老デアル、早熟ト云フコトヲ酒ガ助ケルト云フコトハ、獨逸、塊太利ノ學者ノ統計ノ結果デアリマス、其結果トシテ貧血ト云フコトト、モウ一ツハ意識ガ狹隘ニナルト云フコトデ、意識ガ狹隘ニナルト云フコトハ最モ重ヲ置カナケレバナラヌコトデアリマス、酒ヲ飲ンデ來マスト、段々一ツノコトバカリ深ク考ヘテ、前後ノコトモ左右ノ區別モナクナッテ、聯想記憶ガ薄弱ニナッテ、其代リ頭ノ中ニ在ル一ツノコトヲ益深ク考ヘルヤクニナル、即チ腹ヲ立ツテ來ルト人ヲ撲ルヤウニナル、是ハ意識ガ狹隘ニナッテ、前後ノ考ハ別ニナッテ孤立スルカラサウ云フコトガ起ツテ來ルノデ、是ハ心理上サウ云フコトガ起ツテ來ルノハ明カナ道理デアル、意識ノ狹隘ナルコトト、唯今申シマシタ早熟ト云フコトガ一番心理的ニハ重ナ弊害デアルダラウト思フ、大人即チ成熟者ノ飲酒ノ弊害ニ付テハ色ム此會ニ於テ述ベラレテアリマスカラ之ヲ申ス必要ハナイ、所デ此未成年者ト云フコトニ付テ、酒ヲ飲ムコトヲ禁ズルト云フ必要ガ日本デアリマスカドウデスカ、之ニ付テ委員會デハ文部省カラノ御話ガアツタカ知レマセヌガ、私ガ二三取調ベタ所ヲ以テ見レバ、金澤地方ノ如キ最モ淫靡ナル風習ヲ有ツテ居ル所ノ中學校ノ生徒、其中學校ノ

校ノ生徒ニ於キマシテモ酒ヲ飲ム者ハ非常ニ少イ、東京附近ナドニ於テハ七百人位ノ學校デ以テ四年級ノ生徒ニ五人、五年級ニハ十人位ノモノデアル、風俗ノ最モ惡イ所デサウデス、ソレデ日本全國ノ平均ヲ取タナラバ餘程統計上少イト思ヒマス、皆サンモ御承知ノ通り、酒ノ害即チ酒ガ原因トナッテ子供ガ放蕩ヲ始メルト云フコトハ、未成年者ノ時ニ多イカ成年以上ニ多イカト言ヘバ、是カラ専門學校ニデモ這入ラウト云フ、二十歳二十一歳以上ニ於テ飲始メルノガ一番危險デアル、二十一歳以下ノ場合ニ於テハ何等ノ危險モ統計上認メラレナイ、サウシテ見レバ、先ヅ此年齢モ餘程妙デス、英吉利デ十七歳以下ノ兒童ノ飲酒ヲ禁止シテ居ルノハ、十七歳ハ腦ノ生理的ニ完全ニナル時期デアッテ、酒精ヲ飲ムノハ危險デアルカラト云フノデアッテ立派ニ生理上ノ理由ガアルガ、此度出サレタノハ亞米利加アタリニ行ハレテ居ルノニ止ル、即チ殖民地政策ニ止ル所ノ二十歳二十一歳以下ト云フコトニサレタノハ、是ハ日本ノ教育上ノ統計デモ調べラレタカドウカ、私ハ疑ヲ有ツテ居ルノデアル、次ニ今度ハ大問題ガ茲ニ起ツテ來ル、其問題ハ果シテ委員會ニ於テ御相談ニナツタ如ク、日本ノ現狀ニ於キマシテ、教育ノ上デ禁酒ト云フコトハ出來ナス、獨逸ナドニ於キマシテハ、酒ト云フコトニ付テハ、教育ノ上ノミヲ以テ禁酒シ得ルト云フコトノ斷案ヲ下シテ居ツテ、事實此瑞西獨逸アタリニ於キマシテハ酒精教授ト云フモノガアッテ、酒ト云フコトダケニ付テ色々講話ヲ學校デ致サセテ居ルノデス、佛蘭西ナドニ於キマシテハ、日本ナドト違ヒマシテ、劃一主義ト違ツテ居リマシテ、日本デハ修身ノ教科書ハ國定ノモノ一つシカゴザイマセヌ、九州トカ東北トカ、三百里モ四百里モ離レテ、其國情人情ヲ異ニシテ居ル所ヲ一ツノ教科書ヲ以テ教ヘテ居リマスガ、佛蘭西デハ「コムベーレー」ト云フ人ノ書イタ一ツノ教科書デモ、三百版四百版モ出タ位デ、其他ニモ教科書ノ數ガ多イ、其中ニ於テ酒ノ害ハ説イテアル所ガアリマス、併ナガラ特殊ノ教授ヲナシテ居ルト云フヤウナ場合モアルノデアル、サウシテヤツテ居ル結果ハドウデアルカト云フト、ナカ〜見ルベキモノガアルノデアル、デ私ガ考ヘマスニ、先づ法律ニ依テ武斷的ニ酒ヲ飲マセナイト云フコトハ、今日ノ教育ノ新思潮ニ反對ノコトデアルト云フ所カラ之ヲ論ジテ見ヤウト思フ、此貴族院ニ於テ本案ヲ否決スル所以ノモノハ、單純ニ東洋ノ中ニ

於テ孤立シテ居ル日本ダケノ知識ヲ以テヤツテ居ルノデナク、四圍ノ狀況ヲ顧ミテ世界的ノ知識ヲ以テ之ニ付テ斷案ヲ下サナケレバナラヌ、今日ハ教育上ニモ新シイ主義ト云フモノガ起ツテ來テ、四五年前マデハ社會教育ト云フモノガ大流行テ居ツタガ、今日ハ段々變ツテ來テ、人格的教育、個人教育ト云フモノガソロ〜起ツテ來テ居ル、即チ人格ト云フコトニ力ヲ入レテヤツテ居ル、言葉ヲ換ヘテ言ヘバ發動主義トモ云フベキモノデ、兒童ノ天性ヲ重ンジ、男ハ男性的ノ道徳ヲドコマデモ發揮シ得ル如ク、明カニ個性ト云フモノヲ認メテヤツテ行クノガ教育ノ目的デアル、是ハ教育ノミナラズ政治ニ於テモサウデス、是ハ多數ノ新聞記者諸君ニハ御氣ノ毒デアルカ知ラヌガ、英吉利アタリデ、政治政黨ノ争ト云フコトニ付テ官僚化シテ來タト云フコトハ明カナコトデアッテ、長イ間ノ政黨ノ争ニ倦シ、專門的ノ知識ニアラズンバ十分ニ行ハレヌト云フノデ、各省共ニ專門的ノ政治機關ヲ置キ、陸軍ハ陸軍デ其學校系統ヲ逐ウテ行カナケレバナラヌ、文部ハ文部デ、ドレデモ專門的ノ知識アルデアル、長イ間ノ政黨ノ争ニ倦シ、專門的ノ知識ニアラズンバ十分ニ行ハレヌト云フノデ、各省共ニ專門的ノ政治機關ヲ置キ、陸軍ハ陸軍デ其學校系統ヲ逐ウテ行カナケレバナラヌ、文部ハ文部デ、ドレデモサウガヤルト云フヤウニ風潮ガ變ツテ來タ、即チ大ニ主觀化シテ居ル、亞米利加アタリデモ、日露戰爭後、東鄉大將ガ斯ウ言ハレタ、アア言ハレタト云フ風ニ、非常ニ大キナ亞米利加モ、小サク日本的ニナツテ來マシタ、ドコデモサウガ其人ノ顔ヲ見テ自分ノ心ニ現ハレタ印象ヲ書キサヘスレバソレデ宜シイ、アナタニ似ルト似ナイトハ別問題デアルト云フヤウニ非常ニ主觀化シテ來テ美術ガサウデス、今日ノ畫ノ如キ、肖像ヲ書カセテモ似ル必要ハナイ、畫工ガ其人ノ顔ヲ見テ自分ノ心ニ現ハレタ印象ヲ書キサヘスレバソレデ宜シイ、アナタニ似ルト似ナイトハ別問題デアルト云フヤウニ非常ニ主觀化シテ來テ居ル、謂ハユル後期印象派ナルモノガ是デアリマス、斯ウ云フ風ニ如何ナル種類ノモノモ近頃ハ主觀化シテ居ル、教育モサウデアリマス、即チ發動主義ト云ツテ個人ノ性格ヲ發達サセル、地方ニ於テハ其地方ノ人情風俗ヲ重ンジテ居ル、謂ハユル後期印象派ナルモノガ最モ禁酒ト云フコトニ付テモ必要デアル、アリマスカラ是等ニ付テモ能ク兒童ノ天性ヲ重ンジテ、兒童ソレ自身ガ自天性ニ依テ自ラ發動シ得ルヤウニ良心ヲ發達サセテヤルト云フコトガ流行テ居ル、即チ意象教育ト云フモノガ最モ禁酒ト云フコトニ付テモ必要デアル、デアリマスカラ是等ニ付テモ能ク兒童ノ天性ヲ重ンジテ、兒童ソレ自身ガ自ラ酒ノ害ヲ知リ得ルト云フコトニ付テモ必要デアル、果セルカナ亞米利加ニ於キマシテハ根本君ノ言ハレテ居ル如ク、二十歳以下ノ青年ニ酒ヲ賣ツテハナラヌト云フ、亞米利加ニ於テドウ云フ傾向ニ

ナツテ居ルカト云フト、「シカゴ」ニ小學校ガアル、是ハ模範學校デアリマスガ、其學校ノ教育法ハドウカト云フト、自分ノ坐ツテ居ル座席ノ如キハ自由自在ニ動クコトガ出來ル、何トナレバ子供ト云フモノハ天性一ツ所ニジットシテ居ルノハ退屈スルモノデアルカラ動イテモ宜イ、又話ヲシテモ構ハナイトシ云フヤウニ、大ニ發動主義ヲ發揮シテ教育ヲシテ居ル、發動主義ノ教育カラ云フト、酒ヲ飲マセル飲マセナイト云フコトデナク、兒童ノ本心カラシテ酒ヲ飲ンデハナラヌト云フ自覺心ヲ起サシテ行クト云フコトニナラナケレバイカヌ、若シモ他動的ノ制裁デ無理ニ法律ヲ以テ……規律ヲ以テ制裁シテヤツテ行クト云フ武斷主義ハ、今日ニ於テハ少シク時代後レデハナイカト思フノデアリマス、サウ云フ譯デアリマスカラシテ、此酒ニ付テノ知識ト云フモノハソレ程ムヅカシイモノデアルカドウカ、之ヲ考ヘテ見ルト酒ニ付テノ知識ハサウムヅカシイモノデハナイ、簡單明瞭デアツテ、十四歳以上二十歳以下ノ兒童ニナレバ分ルノデアル、教員ガ能ク知ラセテヤツテ、父兄ト教員トノ間ニ肝膽相照シテ意思ノ疏通ガアリサヘスレバ是ハ譯ナク出來ルモノデアル、特ニ今日ヤツテ居ル所ノ禁酒ノ會ガゴザイマスガ、根本君モ言ハレテ居ルコトデアリマスカラ、其方ハ成ルベク除イテシマッテ、サウシテ色ミノ方法デヤツテ居ル所ヲ考ヘテ見マスト、根本君ノ趣意書ノ中ニハ二通リノ事が混同サレテ書イテアル、即チ禁酒同盟會ト云フ私立ノ會ト、ソレカラ法律ヲ以テ禁酒シテアル案ト、二通り混同サレテ居ルヤウデアリマスガ、此二ツハ非常ニ混同シテハイケナイモノデアリマス、此瑞西アタリデヤツテ居ル禁酒會ト云フモノハ非常ニ是ハ盛大ナモノデ、「レスボアル」ナドト云フ會ガアリマス、白耳義アタリデヤツテ居ル兒童同盟會ト云フヤウナモノハ、千八百八十七年以來、大變ニ是ハ實行サレテ居ルノデアリマスガ、是ハ學生同士ガ會ヲ設ケテ、サウシテ校風會ト云フヤウナモノノ中デヤツテ居ル、禁酒同盟會ト云フヤウナモノハ生徒同士デヤツテ居ル、其發動主義デ思付キマシタガ、今日歐羅巴ニ於テハ教員ガ直接ニ兒童ヲ監督シナイ、兒童同士デ御互ニ訓育ヲヤツテ居ル、發動主義デアルカラ、總テ御互ニヤツテ居ルト云フコトガ即チ禁酒ノ方ニモ影響ヲ及ボシテ、一種ノ自治團體ガ生徒ノ間ニ出來テ居ル、ソレカラ外ノ國ニ行クト、和蘭アタリデハ生徒ダケニハ許シテナイガ、父兄間ニ禁酒同盟會ヲ組織シテアリマス、此方法カラ行ケバ餘程面白イ結果ヲ見ルデアラウト思フ、是ハ餘程面白イ、私ハ贊成スルノデアリマス、併ナガラ法律ヲ設ケテ、之ニ武斷的

ニ制裁ヲ加ヘルト云フコトハ是ハ至極面白クナイコトデアル、是ハ武斷主義ノ結果デアリマス、茲ニ一ツ又チヨット面白イコトト思ヒマスカラ附加ヘテ置キマスガ、此酒ヲ飲メバ意識ノ範圍ガ狹隘ニナルト云フコトデアリマスガ、此事ガドノ位東洋ノ道徳ヲ助ケテ居ルカ知レヌト思フ、昔ヨリ英雄色ヲ好ムト申シマスガ、近ク故伊藤公ノ如キハ酒精中毒ヲヤツテ居ル、隨分東洋ニ於テ古來英雄ト言ハレ、豪傑ト崇拜セラレテ居ル者ハ餘程酒ニ助ケラレテ居ル、カモ知ラヌ、歐羅巴ニ於テハ基督教ニ依テ愛ヲ中心ニシタ女性的道徳ガズ、勞働者ノ如キモ家ニ歸ツテ酒ヲ飲シテ一日ノ苦勞ヲ忘レルト云フ必要ガアルト長ク發達シテ來テ居ルガ、東洋ニ於テハ謂ハユル東洋流ノ豪傑……此頃ハ餘リナクナリマシタガ、酒ヲ中心トシ、女ヲ中心トシタ道徳ガ發達シテ居ル是ハ東洋ト西洋トハ風土人情ヲ異ニスルノミナラズ、一種ノ歴史的關係ガアツテ然ルノデアラウト思フ、然ラバ酒ヲ止メルト云フコトハ、或ハ東洋人ノ元氣ヲ消耗スルト云フコトニ、極論スレバナルカモ知ラヌト思ヒマス、又此未成年者ト雖モ學生以外ノ者ハ明ル日又仕事ヲスルノニ、酒ヲ飲マヌ者ヨリ飲ンダ方ガ宜イト云フコトニナルカモ知ラヌ、是ハ餘程注意スペキコトデ、サウ云フコトハ餘程考フベキコトデアラウト思フ、併ナガラ濫ニ酒ヲ飲ムト云フコトハ成熟者ト雖モ贊成ハ出來ナイノデ、無論獎勵スル必要ハアリマセヌケレドモ、隨分酒ト云フモノハ男性美ヲ發揮スル上ニ於テ助ガアルト云フコトハ事實デアル、ソレカラ又刑法ノ問題、即チ法律上カラ言フテモサウデアリマス、法律上ノ問題モ此頃大變主觀化シテ來テ、刑ノ執行猶豫トカ、情狀酌量トカ云フコトガ行ハレルヤウニナリマシテ、未成年者ニハ殊ニ情狀酌量ト云フコトガ多ク行ハレテ、自由思想ヲ以テ道徳上ノ良心ヲ喚起シテ、未成年者ソレ自身カラ良心ノ發動ニ依テ覺醒セシメテ、法律ノ制裁ヲ用キズシテ善良ナラシムルコトニ努ムル傾向ガアリマスガ、況ヤ道徳教育上ノ問題カラ論じトデアラウト思フ、ソレデアリマスカラ、茲ニ一ノ材料ガアルノデアリマス、ソレヲ一見シマスルト云フト、大變此酒ヲ禁止スル人ノ方ニ都合ノ良イ材料デアリマス、年々徵兵検査ヲヤリマス結果ト致シマシテ、東京市ナドデハ、トデアラウト思フ、ソレデアリマスカラ、茲ニ一ノ材料ガアルノデアリマス、謂ハユル二十歳ノ人間デアリマスガ、其徵兵検査ノ際ニ一番多イ病氣ハ何デアルカト云フト、學生ノ中ニ於テハ此徵毒デアル、是ガ年々殖エル、二十歳以下ノ男子ニ徵毒ガ多イト云フコトハ何カ惡ルイコトヲシナケレバ出來コ

ハナイノデアル、ソレニハ必ズ酒ガ伴フ、徽毒ガアルト言ヘバ十中八九ハ酒ヲ飲ムト言ツテ宜イ、サウスルト私ノサキ言ヒマシタノガ間違ツテ居ルカ知ラヌガ、是ハ教育ノ不備デアツテ、此統計ソレ自身ニ必ズ惡ルイ原因ガアルノデハナイノデアリマス、何トナレバ今日中學校ヲ卒業シテ、十八歳カラ二十歳グラキノ間、ブランシテ居タ者デ、一年志願ニモ行カナイデ、高等ナル専門學校ニモ行キ得ナイ懶惰ノ學生ガ惡ルイ事ヲ覺エテヤルノダカラ、是ハ問題ニナラナイ、是ハ教育上カラ外ノ途ヲ以テ刷新スルコトガ出來ルノデアル、サウ云フ場合デアリマスカラシテ、私ハ即チ今日和蘭ヤ、ソレカラ白耳義アタリデヤツテ居リマスヤウナ一種ノ兒童ダケデ、御互ニ制裁スル自治ノ團體ヲ作ツテ、御互ニ矯正スルコトガ最モ良イ方法デアルダラウト思フ、法律ヲ以テ之ヲ制裁スルコトハ絶對ニイカヌコトデアル、サキ委員長カラ御報告ガアリマシタガ、此法律ヲ以テ去年モ煙草ニ付テ二萬人カラ東京アタリデハ罰シテ居ル、又二十人以内十四五人グラキノ所モアル、今年ハ山口縣ノ如キハ十人ガ一番多クテ、チットモナイ縣ガ十四五アルト云フコトデアツテ見レバ、殆ド此法律ハ不徹底ニ終ルモノデアル、有名無實デアル、サウ云フ所カラ考ヘテ見マシテモ必要ハナイモノト私ハ思ヒマス、根本君ノ案ハ精神ニ於テハ賛成デアリマスカラ、サウ云フ自治ノ團體ニ於テ救濟スルト云フ方法ヲ講ジテ、法律ト云フヤウナ外界カラ這入ツテ來ル脅迫的手段ニ依テナスト云フコトハ、全然遺憾ナガラ不贊成デゴザイマス

○議長(公爵徳川家達君) 休憩ヲ致シマス

午後零時十一分休憩

○副議長(侯爵黒田長成君) 是ヨリ報告ヲ致シマス

[河井書記官朗讀]

本日兩院協議委員ニ於テ議長副議長ヲ互選セリ其ノ結果左ノ如シ

大正三年度歲入歲出總豫算案兩院協議委員

議長

公爵一條 基弘君 副議長 伯爵柳澤 保惠君

○副議長(侯爵黒田長成君) 是ヨリ午前ニ引續イテ會議ヲ開キマス、石黒男爵……

○男爵石黒忠惠君 本員ハ委員會ニ於テ反對ヲシタ一人デゴザイマスガ、決シテ此未成年者ニ酒ヲ飲マセルコトヲ禁ジマスルコトガ惡ルイト云フ者デハゴザイマセヌ、未成年者ニ酒ヲ飲マセルコトヲ禁ジマスルノハ、決シテ提出者ニ一步モ譲リマセヌ、勿論デゴザイマス、併ナガラ此法案ニハ反對ヲ致シマス、其理由ハ唯今幸ニ林伯爵ノ御演説デ私共ガ言ヒ能ハヌコト迄モ詳細述ベラレマシテゴザイマスルデ、是ハ茲ニ贅言イタシマシタコトニ付キマシテ一應述ベテ置キタイト存ジマス、政府委員ニ篤ト質問イタシマシテ、此法律ガ發布ニナリマシテゴザイマスルバ、實際能ク行ハレマセウカ如何デアラウ、彼ノ未成年者禁煙法ノ如ク之ヲ同ジ景況ノ地方ニ例スルニ、同ジク開港場デ似寄テ居リマスル神奈川縣ト兵庫縣ニ於テ、神奈川縣ノ大正二年ニ於テ一年間ニ其處分ヲ受ケマシタ者ガ四百四十四人、同ジク大正二年度一箇年デ兵庫縣ニ於テハ三千七百七十一人、斯ノ如キ差ガゴザイマス、又縣ニ於キマシテハ相鄰々タ縣デゴザイマスルガ、島根縣ニ於テハ大正二年ニ四十六人、岡山縣デハ四百四十九人、又九州ノ福岡縣ハ一箇年ニ千七百八十六人、鄰縣ノ佐賀縣ハタツタ九十一人デアリマス、是ハドウ云フモノカト申シマスルト法ヲ執リマス者ノ手加減ダト云フコトデゴザリマスルガ、手加減トシテモ斯ノ如キ差ガアルト云フコトハ甚ダ本員ナド不思議ニ思ヒマス、ソレデ是ガ完全ニ行ハレマセヌ日ニハドンナアラウカト云フコトヲ問ヒ糺シマシタラバ、先づ行ハレヤウガ完全トハ行クマイト云フ御意見デアリマス、ソレデ是ガ完全ニ行ハレマセヌ日ニハドンナモノデゴザイマセウ、又茲デ一ツノ例ヲ擧ゲテ述ベマスレバ、是ハ全ク未成年者ニ酒ヲ供給スル者ヲ罰スル法デアリマス、飲ム所ノ未成年者ニハ何モ制裁ガナイ、サウスルト茲ニ例ヘテ申シマスルト一軒ノ料理屋ガアル、其料理屋ノ内デ、未成年者ガ德利ヲ前ニ控ヘテ酒ヲ飲ンデ居リマスノヲ巡查ガ見付ケマシテ、サウンラ其料理店ノ主人ニ、何故未成年者ニ酒ヲ飲マスルカト言ウテ之ヲ拘引シテ行クニ當リマシテ、現ニ飲ンデ居ル未成年者ハ酒ヲ止メズ平氣ノ平左デソレヲ飲ンデ居テモ、ドウスルコトモ出來ヌト云フ場合ガアラウト信ズルガ、ドウデアラウカト間ヒ糺シマシタ所ガ、ソレハ其通リデ此未成年者ニハ仕方ガナイト云フコトデアリマス、ソコデ本員ハ頗ル舊思想ノ者デゴザイマス、唯今ノ林伯爵ノ最モ新シイ思想トハ大分違ツテ居リマスルカラ、未成年者ニ酒ヲ禁ジタイ方ナシデゴザイマスガ、未成年者ニ酒ヲ禁ジマ

スルニ付テ、未成年者ガ一般ノ未成年者トハ參リマセズトモ、セメテハ學事ニ從事スル未成年者ト云フ者ニ對シテ、酒ノ種類ヲ定メ、又酒ヲ飲ミマスル場合ヲ定メマシテ、飲マセルコトハ禁ズルト云フコトガ出來得ルヤウナ良法案ガ出マシタナラバ、本員ハ誠ニ是ハ喜ンデ賛成ヲ致シマスルノデアリマスルガ、此法案ニ對シマシテハ、前述ノ譯デ反対ヲ致シマス

## 〔男爵阪井重季君發言ノ許可ヲ求ム〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 阪井男爵ハ何デスカ

○男爵阪井重季君 報告ニ反対ノ意見ヲ述べマス

○副議長(侯爵黒田長成君) ドウゾ御登壇ヲ願ヒマス

○男爵阪井重季君 私ハ長イコトデゴザイマセヌ、チヨットデゴザイマス

○副議長(侯爵黒田長成君) ドウゾ御登壇ヲ願ヒマス

## 〔男爵阪井重季君演壇ニ登ル〕

○男爵阪井重季君 私ハ唯今委員長ノ御報告ニ反対ノ意見デアリマス、私ハ請願委員ノ一人デアリマシテカラ、既ニ此件ニ付キマシテハ請願ガ出マシタ、

出マシタガ是ハ請願委員會ニ於キマシテカラ否決ニナリマシタ、不採擇デゴザイマス、是ハ私ハ委員長デゴザイマセヌカラシテ、請願委員ノ一體ノ意見ヲ代表シテ申スト云フ譯デハゴザイマセヌ、又私ハ第一分科ノ主査デアリマス、是ハ私ハ第一分科ノ受持デモゴザイマセヌカラシテ、第一分科ノ又代表ヲシテカラ、第一分科ノ受持デモゴザイマセヌカラシテ、請願委員ノ一人デアッテ、請願委員ノ總會ニシテ申スデハアリマセヌ、然ルニ請願委員ノ一人デアッテ、請願委員ノ總會ニシテカラ、ソコデ議題ニ上ツタトスウ申スコトニナリマシタ、左様デゴザイマシテ誰モ反対ノ說ガゴザイマセズシテカラ、是ハ不採擇トスウ申ストニ決リマシタ、此決ツタモノガ特別委員會ニ於キマシテ、是ハ可決ニナリマシテカラ、ソコデ議題ニ上ツタトスウ申スコトニナリマシタ、左様デゴザイマスレバ私ハ一言ノ反対說ヲ述ベマセズシテ、此報告ノ通リニ若シ通過シテ可決ニナルト申スコトニナリマシタラ、請願委員ノ一人トシテ居ツテ請願委員ノ

スルニ付テ、未成年者ガ一般ノ未成年者トハ參リマセズトモ、セメテハ學事ニ從事スル未成年者ト云フ者ニ對シテ、酒ノ種類ヲ定メ、又酒ヲ飲ミマスル場合ヲ定メマシタナラバ、飲マセルコトハ禁ズルト云フコトガ出來得ルヤウナ良法案ガ出マシタナラバ、本員ハ誠ニ是ハ喜ンデ賛成ヲ致シマスルノデアリマスルガ、此法案ニ對シマシテハ、前述ノ譯デ反対ヲ致シマス

モノガ、特別委員會デカラ採用ニナツテカラ可決ニナツタニ付テカラ、是ダケ

ノ自分ノ責任上ニ付テカラ一言ヲ申スコトデアリマスルカラシテ、ドウカ此問題ハ否決ニナリマスヤウニ願ヒマスル

○大澤謙二君 本員ハ賛成ノ意見ヲ述べタウゴザイマスガ、宜シウゴザイマスカ

## 〔大澤謙二君演壇ニ登ル〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 宜シウゴザイマス

○大澤謙二君 種々反対ノ御意見モアルヤウデアリマス、之ニ一々反駁ヲ加ヘル譯デハゴザイマセヌ、是ハ委員會デ大抵申盡シタト思ヒマスカラ、其速記ニ讓リマス、唯本員ガ賛成ヲ致シマスル趣意ダケヲ極ク簡単ニ申シタイト思ヒマス、唯一ツダケ辯解イタシテ置キタイコトガアリマスガ、ソレハ昨年デアリマシタ、三宅博士ガ此取締法案ハ骨抜ニナツタトスウ云フ御説デアリマシタ、モトハ未成年者飲酒禁止法ト云フ譯デアツタケレドモ、今ハ唯取締法ト云フコトニナツテ未成年者ニ酒ヲ飲ムコトヲ禁ズルノデハナク、未成年者ニ酒ヲ供給スル者、或ハ販賣スル者、ソレハ罰スルト云フコトニナツタノデアツテ、ソレ故ニ未成年者ハ自ラ酒ヲ購フ、或ハ自ラ酒ヲ貰フテ、サウシテ飲ムコトハ出來ナイノデアル、ケレドモ併シ大人ト共デアレバ飲ムコトモ出來ルシ、又親ガ飲マセルナドト云フコトガアツテモ、一向是ヲ罰スル譯ニハ行カナイノデアル、左様ナ譯デアツテ、骨抜ニナツタカラ一向値打ガナイ、斯ウ云フ御論デアツタノデアリマス、又サウ云フ御意見ノ方モ多數ニアラセラレルヤウニ思フシテカラ、ソコデ議題ニ上ツタトスウ申スコトニナリマシタ、左様デゴザイマスレバ私ハ一言ノ反対說ヲ述ベマセズシテ、此報告ノ通リニ若シ通過シテ可決ニナルト申スコトニナリマシタラ、請願委員ノ一人トシテ居ツテ請願委員ノ會デハ是ガ不採擇ニナツタモノガ、若シ是ガ通過スルト申スコトニナツテ、私ガ一言モ申サズシテカラ是ガ通過ニナツタト云フコトハ折角、委員會ノ一人トナツテカラ、之ヲ不採擇ニ決シタ證ガゴザイマセヌカラシテ、私ハ是ニ反対ノ說ヲ簡單ニ述ベルノデアリマス、皆サンガドウカ此事ニ付キマシテハ報告ニ反対イタシ否決ニナリマスルヤウニ願ヒマス、此理由ト云フモノハ先キニ御

トハ賛成ノ意見ヲ申上ゲルノデアリマス、今申シマシタル通りニ、未成年者

ハ飲マウト思ヘバ罰ヲ被ラズシテ飲ムコトガ出來ルノデアリマスカラシテ、ソレデ餘リ斯ウ云フ法ヲ設ケテモ役ニ立タヌデアラウ、斯ウ云フ御意見ノ方モ大分御有リニナルヤウデアリマスルガ、併シ此法ガ行ハレタ時ニハ又效能モ決シテ尠カラヌデアラウト云フコトヲ御参考ニ供シタイノデアル、別デモアリマセヌガ、一昨々年「リバブル」ニ「ストライキ」ガアリマシタ時、八月ノ十八日カラシテ八月ノ二十八日マデ、イツモハ午後ノ十一時ニ酒店ヲ閉デマスルコトニナツテ居ルノヲバ、「ストライキ」ノアリマシタ時分ニ、ドウモ酒ヲ飲ンデ暴レラレテハ堪マラヌト云フノヲ以テ、ソレデ午後ノ二時ニ酒店ヲ閉デマシタ、サウ致シマスルト、犯罪者ノ數ガ大キニ少クナリマシテ、前年ノ同月日ニハ、即チ十日ノ間ニハ三百五人ノ酒ノ爲ニ罪ヲ犯シタモノガアッタ、然ルニ午後二時ニ閉デマスルコトニ致シマシタ十日間ニハ、丁度百人デアリマシタ、三分ノ一程罪人ガ減ツタノデアリマス、ソレカラ二十八日カラシテ九月二日マデ、又元ノ通リニ十一時ニ閉店ヲ許シマシタ、其六日間ノ罪人如何ト言ヒマスルト、三百二十七名出マシタ、サウ致シマスルト、僅カ六日間デアリマシタケレドモ、前ノ十日間ヨリモ二十二名罪人ガ多カッタノデアリマス、ソレデ僅ニ酒店ヲ閉ス時間ヲ少シ早メマシタダケニ、斯ク罪人ノ數ガ少クナツタノデアリマス、ソレカラ尙茲ニ御覽ヲ願ヒタイ表ヲ持參ヲ致シタ、是ハ諾威ノ首府「クリスチアナ」、ソレカラ獨逸ノ小サイ町デアリマスルガ「ハイデルベルヒ」ト云フ、此二箇所ニ於キマシテ、千九百七年ニ酒ノ爲ニ傷ヲ受ケタ者、或ハ自ラ負傷シ、或ハ毆打ノ爲ニ傷ヲ受ケマシタル者、其統計デゴザイマス、ソレデ此赤ク書キマシタノガ日曜デアリマシテ、其筋ヨリ月火水木金土、斯ウ云フヤウナ工合ニナツテ居ル、此赤ク書キマシタノガ日曜、月火水木金土トナリマス、ソレデ「クリスチアナ」ニ於キマシテハ大祭日ノ前日、午後一時ヨリ其翌日午前八時マデ強イ酒ヲ禁ジマス、麥酒デアルトカ葡萄酒トカ云フヤウナモノハ差支ナイノデアリマス、百分中二十一分以上ノ酒精ヲ含ンデ居ル飲料ヲ禁ズルノデアリマス、所ガ獨逸デハ一向左様ナノガ「クリスチアナ」デアリマス、ソレデ御覽ニナリマスル通リ、獨逸ハ日曜ガ一番文ガ高イ、是ハ數ヲ申上ゲマスト時ガ掛リマスカラシテ、斯様ニ書イテ參ッタノデアリマスガ、マルデ他ノ週日ニハ非常ニ違ッテ、大變負傷者ガ

多イ、ソレニ反シテ「クリスチアナ」ハ日曜ガ一番丈ガ低イノデアリマス、即チ負傷イタシマスル者ガ少イ、是ハ全ク禁ジタ譯デハゴザイマセヌ、唯今申シマスル通リ強キ酒ヲ飲ムコトヲ禁ジタダケゴザイマスケレドモ、ソレデモ斯様ノ效能ガアルノデゴザイマス、ソレデ私ガ此案ニ賛成ヲ致シマスルノハ、若シ斷然ト未成年者ニ禁ズルコトガ出來タナラバ、ソレハ洵ニ越シタコトハナイノデアル、如何セム我國ニ於テハ古來未成年者ニ酒ヲ用キル習慣ガアル、藥用ニ致スト云フコトハ我國ニ限ツタ譯デハナイケレドモ、御神酒ヲ戴クトカ、三々九度ノ盃ヲスルト云フヤウナコトガアリマス、是ハ私ハ酒店ヲ飲ムト云フコトニハ一體這入ラナイト考ヘテ居ル、藥トシテモ用キル、御神酒ヲ戴ク、或ハ夫婦ノ誓ヲスルト云フノデ、是ハ飲ム酒デハナイ、飲ムト云フノハ味フ爲醉フ爲ニ用キルノガ飲ム酒デアリマス、今申シマシタ三ツト云フモノハ、是ハ其酒ヲ飲ムノデハナイカラシテ、取締ノ中ニ入レヌデモ宜イルト云フコトニナリマスルト云フト、之ヲ用キテモ矢張リ罰セナケレバナラヌコトニナルノデアリマス、ソレデ今日ノ如ク其酒ヲ供給スルト云フ者ダケ罰スルト云フコトハ已ムヲ得ナイ、又是ガ或點ニ於テハ先キニ申シマスル通り至極宜シイ所ガアルト存ジマス、是ガ私ガ贊成ヲ致シマスル重ナル趣意デゴザイマスルガ、御参考ノ爲ニ瑞典ノ様子ヲチヨット申上ゲマスル、瑞典、諾威ハ衛生ノコトガ洵ニ行届イテ居リマスル國デゴザイマスル、癩病ヲ一番初ニ長壽デアリマス、而シテ死亡數モ尠ニ少イ、歐羅巴ノ中デ一番少イ、我國ナドデハ御承知ノ通リ千人ニ付テ一箇年二十人以上二十二人位アルノデアリマス、多分肺結核、總テノ結核モ歐洲ノ中デ一番初メニ跡ヲ絶ツデアラウト推察イタサレマス、而シテ死亡數モ専ニ少イ、歐羅巴ノ中デ一番少イ、我國ナドデハ御承知ノ通リ千人ニ付テ一箇年二十人以上二十二人位アルノデアリマス、瑞瑞典ナドニ於キマシテハ十四人位シカゴザイマセヌ、從ツテ人民モ非常ニ長壽デアリマス、酒ノ取締ニ付キマシテハ、前年此處デ申述ベマシタル通りニ「ゴーデンベルヒ」ノ系統ト申シマシテ酒ヲ販賣イタシマシテモ一定ノ決ツタ利益ヨリ收メルコトハ出來ナイ、其上ノ利益ト云フモノハ政府ニ納メテ居リマス、此右ニゴザイマスノガ獨逸ノ「ハイデルベルヒ」、左ニゴザイマス、瑞瑞典ナドニ於キマシテハ十四人位シカゴザイマセヌ、從ツテ人民モ非常ニ長壽デアリマス、酒ノ取締ニ付キマシテハ、前年此處デ申述ベマシタル通りニ「ゴーデンベルヒ」ノ系統ト申シマシテ酒ヲ販賣イタシマシテモ一定ノ決ツタ利益ヨリ收メルコトハ出來ナイ、其上ノ利益ト云フモノハ政府ニ納メテ居リマス、此瑞瑞典ノ上院ニハ議員ガ百五十名ゴザイマス、其中禁酒ノ人ガ三十四人シカゴザイマセヌ、下院ハ二百三

十人デ百二十八人ト云フモノガ禁酒家デゴザイマス、アスコデハ禁酒黨或ハ非禁酒黨ト云フヤウナ譯デ、ソレデ其黨ノ宣言ノ中ニモ禁酒カ否ヤト云フコトガ這入リマスル位デ、ツイ一昨年カラシテ先達テマデ政府ニ居リマシタノ

ガ禁酒黨ノ政府デアリマス、餘程此「ゴーデンベルヒ」ノ系統ナドニ改正ヲ加ヘ禁酒ヲ厲行シヤウト云フコトデ、餘程案ガ出來マシタケレドモ、ソレヲ

バ行フ段ニ至ラズシテ遂ニ先達テ瓦解ヲ致シマシテゴザイマスガ、同國ハ全人口ノ九分ノ一ダケハ禁酒ヲ致シテ居リマス、餘程酒ヲ飲ム人ガ少イノデアリマス、私ハ同國ガ健全ナルノハ、唯酒ノ用キ方ガ少イノミデアルト申ス譯

デハゴザイマセヌケレドモ、ソレモ一ノ原因デアル、ドウカ我國モサウ云フコトニ立至リタイ、所ガ其飲慣レタ人ニ禁酒ヲ説キマシテモ仕方ガナイノデゴ

ザイマスカラ、ソレデ若イマダ酒ノ味ヲ知ラナイ人ニ、成ルタケ酒ヲ飲ム機會ヲ與ヘタクナイト云フ考カラシテ、此案ニ贊成ヲ致シマスノデゴザイマス、

モドノ法デモサウ云フコトハ免レマイト存ジマスルノデゴザイマス、成ルタドウカ是ハ政治問題トモ違ヒマスノデゴザイマスルシ、段々今ノ實行上ニ不

平均ガアルトカ、色ニ反對ノ御意見モアリマスルヤウデゴザイマスガ、ドウモドノ法デモサウ云フコトハ免レマイト存ジマスルノデゴザイマス、成ルタ

ケハ諸君ノ御贊成ヲ得マシテ本案ヲ通過イタスコトニ願ヒタイト存ジマス、

段々承リマスレバ研究會諸君ハ既ニ否決ニ御決定ニナツタト云フヤウナ按排ドモ、併シ先づ御贊成ヲ請フダケノコトハ致シテ置キマスル

○伯爵奥平昌恭君 モウ御討論ハアリマセヌデゴザリマスカ、若シゴザイマスレバ討論ヲ續ケラレムコトヲ希望シマスガ、若シナケレバチヨット内務大臣

及文部當局ノ御方ニ簡單ニ質問ヲ致シテ見タイト思ヒマス  
○副議長(侯爵黒田長成君) モウ通告ハ別ニゴザイマセヌ、御質問ニナツテ聊差支ハゴザイマセヌ

○伯爵奥平昌恭君 ソレデハ内務大臣ニチヨット御伺ヲ致シマス、此未成年者ノ飲酒取締ニ關スル法律案ハ法律トシテ發布ヲシナケレバ未成年者ノ飲酒ヲスルコトニ付テ内務省ノ側ニ於テ、又文部省ノ方ニ於カレマシテモ、監督セ

ラレル所ノ學校ノ、例ヘバ中學ナラ中學ノ校長等ノ如キ、監督ノ責任アル者ガ取締ヲスルコトガ出來ナイ故ニ、此法律ニ付キマシテ政府當局ノ御方ハ御同意ニナツテ居ラレルノデアリマスカ、如何デアリマスカ、其點ヲチヨット御伺ヲ致シマス

### 〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 唯今ノ御質問デアリマスガ、此法案ニ政府ガ同意ヲ致シテ居リマスト云フ譯ハ校長其他ノ教訓ニ依リマシテ取締ガ付カヌカラ此法案ニ同意ヲ致シタト云フ次第デハゴザイマセヌ、斯ノ如キ事ハ成ルベクナラバ教育ノ力、社會ノ制裁ノ力、又ハ宗教ナドノ力ニ依リマシテ、

### 〔議長公爵德川家達君議長席ニ復ス〕

法律ヲ設ケズシテ禁酒ガ出來マスレバソレニ越シタコトハナイノデアリマス、併ナガラ今日ハソレデハ效果ヲ奏スルニ十分デナイト云フ譯ヲ以テ此法案ガ出テ居ルコトト解釋イタシマス、サウ云フ趣意デアリマスレバ、此法案ガ成立イタシマシタト云フ譯ヲ以テ、未成年者ガ悉ク酒ヲ飲マヌヤウニナルト云フコトハ、法律ノ力ノミデハ出來マスマイケレドモ、未成年者ニ酒ヲ賣リマセヌ、彼等ガ飲ムト云フコトガ分レバ賣ラナイト云フコトハ多少ノ取締ニナルニ相違ナノデアリマス、故ニ之ニ同意ヲ致シテ居ルト云フダケデアリマス、教育宗教社會等ノ制裁ハ是ハ別ノ話デ、成ルベク此方デ拘束スルコトハ萬々希望スルノデアリマスガ、法律ニ同意イタシタ譯ト云フモノハ唯今申シマシタ如ク、幾分カ法律上ヨリ取締ヲ致シテ多少ノ效果ガアルデアラウカト云フ譯ヲ以テ同意ヲ致シタニ過ギナイノデアリマス

○伯爵奥平昌恭君 唯今内務大臣ノ御答辯デゴザイマシタガ、内務省デハ此法案ガ法律トシテ成立チマシタ時ニ於キマシテノ取締ニ對シマシテハ、嚴重ニ取締ガ出來ル御考デゴザイマスカ如何デゴザイマス、又多少ノ效果ガアルカラシテ此法案ニ贊成ヲスルト云フコトデゴザイマスレバ、甚ダ其意ヲ得テ居ラヌコトデアラウト本員ハ信ジマスガ、多少ノ效果ガアルダケデハ、此法案ニ對シテ本員等ハ贊成スルコトガ出來ナイト思フノデアリマス、十分效果ダ此法案ガ法律トナリマシタ後ニ付キマシテ氣遣ハシイ次第デゴザイマスガ、如何デゴザイマス

○國務大臣(原敬君) 重ネテ御答ヲ致シマスルガ、斯様ナル國民ノ習慣風習等ニ關シマスルコトハ刑罰ノ力ノミヲ以テ矯正イタスコトハ出來ナイコトデアラウト私ハ考ヘテ居リマス、故ニ取締ガ出來ル出來ヌト申シマシテ、之ヲ

非常ナル力ヲ以テ厲行イタシマシテ、謂ハユル苛察ニ涉ルヤウナ手段ヲ執リ

マシタナラバ、多少ソレハ程度ノ高マツタ效果ヲ見ルデゴザイマセウケレドモ、斯ノ如キ酒ヲ飲ムトカ飲マストカ云フヤウナル問題ハ、刑罰ノ力ノミヲ以テ矯正スルコトハ出來ナイデアラウト私ハ思ヒマス、併ナガラ此法案ヲ提出セラレマシタ趣意ヲ考ヘテ見マスルニ、他ノ教育宗教其他社會ノ制裁ト相俟ツテ幾分カ效ヲ奏スルト云フ意味ガ含蓄シテ居ルダラウト考ヘマスカラシテ、先刻申シマシタ如ク此法案ガ成立チマシタナラバ多少矯正スルコトガ出来ルデアラウ、斯様ニ申シタノデアリマス、トテモ法律ノ力ヲ以テノミ……是ニ限リマセズ、國民ノ習慣其他ニ關スルコトハ刑罰ノ力ノミデハ出來得マイト考ヘマスルガ故ニ、幾分カ效果ガアラウト申シタ次第デアリマス

○議長(公爵德川家達君) 採決ヲ致シマス、本案ノ第二讀會ヲ開クベシトスル諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○議長(公爵德川家達君) 少數ト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十一、四國鐵道速成ノ請願、會議

意見書案

四國鐵道速成ノ件

「左ノ意見書案ハ朗讀ヲ經サルモ參照ノ爲茲ニ載錄ス以下之ニ徵フ」

右ノ請願ハ四國鐵道ノ内德島線ヲ延長シ高知ヲ經テ須崎ニ至ラシメ及小島驛ヨリ分岐シテ高松ニ至ルモノヲ敷設セラルハ沿線地方ノ利源ヲ開發シ國利民福ヲ增進スルコト大ナルモノアルヲ以テ速ニ施工セラレタントノ旨

越ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

○議長(公爵德川家達君) 委員長ノ報告ニ御異存ゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ

○議長(公爵德川家達君) 御異議ナイト認メマス

○議長(公爵德川家達君) 議事日程第二十二、横濱市自治制ニ關スル請願、會議

横濱市自治制ニ關スル件  
神奈川縣横濱市南仲通三丁目平民貿易商大濱忠三郎外四十九名呈出

右ノ請願ハ大正二年十月横濱市會カ市理事者ノ提出シタル選舉區條例廢止案並選舉區分會設置案ヲ適法ニ可決シタルニ對シ大島神奈川知事ハ何等ノ理由ヲモ示スコトナク不許可ノ命令ヲ下シタルハ自治權ノ蹂躪ニシテ議員ハ此ノ不當ノ處置ニ憤慨シ過半ハ其ノ職ヲ辭シ市會ハ爲ニ存立ヲ失フニ至レリ而シテ此ノ事タル横濱市民ノ爲非常ノ患害ニシテ又帝國地方自治體ノ消長ニ關スル問題ナリ依テ之カ救濟ヲ與ヘラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

○小野田元熙君 唯今御宣告ニナリマシタ横濱市自治制ニ關スル請願ニ付キ

マシテハ、委員長ニ少シ御尋ネ申シタイト思ヒマスガ、宜シウゴザイマスカ

○議長(公爵德川家達君) 委員長ハ唯今此席ニ居ラレマセヌガ、副委員長ハ……

○小野田元熙君 主査ノ御方ニ……

○議長(公爵德川家達君) 副委員長ガ出席シテ居ラレマス

○小野田元熙君 主査ノ御方デモ宜シウゴザイマス、……宜シウゴザイマスカ……會期切迫ノ今日デゴザイマスカラ、極メテ簡單ニ御尋イタシマスガ、

此請願ハ市制ニ至大ノ關係ヲ有スルモノト考ヘマス、何トナレバ市長ノ提出シタル所ノ議案ニ對シテ、約五十万人ヲ代表スル所ノ横濱市會議員ガ、適當ナル決議ヲナシタルニ拘ラズ、一ノ理由ヲ示サズシテ不認可ト云フコトニ付キマシテハ、自分ドモハ頗ル奇異ノ感ニ打タレテ居リマス、ソレデ請願委員諸君ニ於カレマシテモ、此事ニ付キマシテハ十分ニ審査ヲ盡サレ、且政府委

員ニ御尋ニナツタコトト存ジマスルガ故ニ、審議ヲ盡サレタ所ノ事柄、政府委員ニ御尋ニナリマシテ、政府委員カラ答辯ニナリマシタコトヲ併セテ御答辯ヲ請ヒマス、請願委員長ナリ主査ナリ、ドナタデモ宜シウゴザイマス  
○侯爵徳川頼倫君 唯今御尋ニナリマシタノハ請願ノ事ト存ジマスルガ、唯今途中カラ伺ヒマシタノデ、御質問ノ御趣意ヲ拜聽イタシ兼ネテ居リマス、モウ一度簡単ニ願ヒタウゴザイマス

○小野田元熙君 此横濱市ノ請願ハ市制ニ至大ノ關係ヲ有スルモノト存ジマスルガ故ニ、請願委員ニ於テモ十分ニ審議ヲ盡シタモノト信ジマス、且政府委員ニ十分御尋ニナリマシタコトト存ジマスカラ、審議ヲ盡サレタコト並ニ政府委員ニ御尋ニナリマシテ、政府委員カラ答辯ニナリマシタコトヲ、併セテ委員長ナリ主査ノ御方ヨリ御答辯ヲ請ヒマスト云フコトデアリマス

○侯爵徳川頼倫君 唯今小野田君ノ御質問ニ對シテ御答ヲ致シマス、御察シノ通リ此請願ハ第二分科ニ屬シマスル請願デゴザイマス、第二分科ニ於キマシテハ第二分科ニ屬シテ居リマス請願中重イ案ト云フコトデ度々會數ヲ重上ダラレマスケンドモ、詳細ナルコトヲ御承知ニナリマシタ方ガ能ク御分リニナラウト思ヒマスカラ、此點ハ此請願ヲ擔當サレマシタ真鍋男爵ヨリ御説明ヲ願ヒタイト存ジテ居リマス

○男爵眞鍋斌君 唯今ノ小野田君ノ御問ニ對シマシテハ、今委員長カラ私ヨリ御答ヲスルヤウニト云フコトデアリマスカラ、私カラ御答ヲ致シマス、此請願ニ付キマシテハ、即チ請願委員會第二分科會ニ於テ審議ヲ致シマシタ、第二分科ニ於キマシテ政府委員ニ質問ヲ致シマシタノハ即チ私ガ質問ヲ致シマシテ、尙其他ニモ質問ガアリマシタ、其質問ヲ致シマシタル概略ヲ御答イタシマス、今委員長カラモ述ベラレマシタル通り、此請願ノ要旨ハ此横濱市ト神奈川縣知事トノ間ニ見解ヲ異ニシテ、横濱市民ハ神奈川縣知事ノナシタルコトヲ以テ、即チ自治制跡躅ト看做シテ居リマス、デ此自治制跡躅ト云フコトニ看做シテ居リマスコトニ付キマシテハ、即チ自分等モ是ハ果シテ自治制跡躅デアルカ否ヤト云フコトニ付キマシテハ深ク之ヲ研究イタシマシタ、所ガ其事柄ハ簡単ニ申シマスレバ、即チ市會ニ於テ……此請願人等ノ申ス方カラ言ヒマスト、市會ニ於テハ市制ノ命ズル權能ヲ以テ適法ニ之ヲ議決シタノ

デアル、然ルヲ監督官タル知事ハ固ヨリ監督官タル職權ハアルガ、斯ノ如ク適法ニ市會ガ議決シタモノヲ如何ニ監督官ト雖モ理由ナクシテ不認可ニスルト云フコトハ甚ダ分ラナイ、即チ是ハ自治制ヲ跡躅シタモノデアルト云フノガアルカラ、唯今横濱市民ハ實ニ此爲ニ大ナル患害ヲ被ッテ居リマス、デ此患害ヲ被ッテ居ルカラシテ、之ヲ救助シテ貰ヒタイト云フノガ請願ノ趣旨デアリマス、ソレデアリマスカラ、即チ此請願人ノ之ヲ救助スルト云フコトニ向テ大ニ審議ヲ致シタノデアリマス、ソレデアリテ此請願者ノ言フ所、請願者ハ趣旨カラ申シマスト云フト、如何ニモドウモ一通り請願者ノ云フ所ニハ理窟ガアルヤウニ思ハレマス、故ニ政府委員即チ内務省ノ地方局長ガ此第二分科會ニ出席ニナリマシテ、ソレニ向ツテ私ガ質問ヲ致シマシタ、其應答ノ概略ヲチヨット申上ゲマス、ソレデ全體斯ウ云フ問題ハ理論上ヨリ研究ヲ致シマスト云フト、或ハ即チ監督權ヲ有ツテ居ル所ノ知事、是ハ其知事ノ考ニ依テ之ヲ認可スル、不認可ニスルト云フコトニ付テハ決シテ差支ノナイヤウナ譯ニナルノデアル、併ナガラ斯ノ如キ問題ハ實際ドウデアルカト云フト、今横濱市ニ於ケル有様ハ、全ク知事ト横濱市民トハ相反目シテ、横濱市ハ平和ノ位置ニアリマセヌ、ソレデアリマスカラ斯ノ如キコトハ事實問題ヲ以テ解決セニヤナラヌモノト私ハ考ヘテ居ル、ソコテ政府委員ニ第一ニ尋ねマシタノハ、此問題ニ付テ一體政府當局者ノ意見ハドウデアルト云フコトヲ尋ねマシタ、サウシタラ政府委員ハ政府當局ニ於テハ知事ノ行爲ヲ至當ト認メタカラ、別ニドウモ之ニ付テ外ニ何ハナイ、斯ウ云フコトデアリマス、即チ私ヘノ政府委員ノ答ハ今申請願ニ付キマシテハ、即チ請願委員會第二分科會ニ於テ審議ヲ致シマシタ、第二分科ニ於キマシテ政府委員ニ質問ヲ致シマシタノハ即チ私ガ質問ヲ致シマシテ、尙其他ニモ質問ガアリマシタ、其質問ヲ致シマシタル概略ヲ御答イタシマス、今委員長カラモ述ベラレマシタル通り、此請願ノ要旨ハ此横濱市ト神奈川縣知事トノ間ニ見解ヲ異ニシテ、横濱市民ハ神奈川縣知事ノナシタルコトヲ以テ、即チ自治制跡躅ト看做シテ居リマス、ソレニ付テ、チヨット御話ヲセヌケレバハレマス、ソレカラ第二ノ問ハ、然ラバ政府當局者ハ如何ナル法ニ依テ此問題ヲ解決スル積リカト云フコトヲ問ヒマシタ、サウシタ所ガ此答ニ、之ニ付テハス法理上ノ答デアツテ、實際上ノコトハ少シモ考ヘテ居ラナイモノノヤウニ思ハレマス、ソレカラ第二ノ問ハ、然ラバ政府當局者ハ如何ナル法ニ依テ此問題ヲ解決スル積リカト云フコトヲ問ヒマシタ、サウシタ所ガ此答ニ、之ニ付テハス法理上ノ答デアツテ、實際上ノコトハ少シモ考ヘテ居ラナイモノノヤウニ思ノハ請願者ノ言フ所ニ依テ見マスト、此大選舉區ト小選舉區ト云フコトニスルセヌト云フコトノ問題デアリマス、ソレニ付テ、チヨット御話ヲセヌケレバノハ請願者ノ言フ所ニ依テ見マスト、此大選舉區ト小選舉區ト云フコトニスルセヌト云フコトノ問題デアリマス、ソレカラ幾ツカノ區ニ分ツテ選舉區毎ニ選舉スルカト云フスウ云フ問題デアリマス、所ガ是ハ選舉區ハ請願人ノ方カラ言ヒマスレバ、元來大選舉區ハ市全體ニ付テ選舉スルノガ、此選舉法ノ先づ原則トハ言ハレマスマイカ知レ

マセヌガ、定則クラキノモノニナッテ居リマス、其定則ニ依テ是マデ選舉シテ居ル方法ハ小選舉區、即チ横濱市ヲ幾ツカニ分ッテ其區毎ニ選舉シテ居ルノデアリマス、ソレハドウモ宜クナイ、即チ大選舉區ノ方ノ定則ト云フベキ方ニ依テ之ヲヤルヤウニシヤウト云フコトカラシテ、即チ大選舉區法ヲ議會ニ掛け、大選舉區ノ方ニスルコトニ議決ヲ致シタノデ、所ガ此事ヲナスニ付テハ、ソンナラ市會ハ始カラツイソレダケノ考デヤッタカト云ヒマスト、サウデハナイ、豫メ此議事ノ順序ヲ定メル豫備トシテ、知事ニ向ッテ監督官タル其人ノ意見ヲ質シテ居ル、ソレデ其時分知事ニ今此大選舉區ト云フコトヲ決議シタ、ソコデ大選舉區ト云フコトヲ決議シタニ付テハ、即チ大キナ市デアツハ、一ツノ選舉場デ其選舉ヲスルト云フコトニナルト云フト、ナカ／＼此選舉ハ手數ガ掛ル、ソレガ爲ニ此一ツノ法令ヲ定メラレマシテ、即チサウ云フ大キナ市ニ於テハ其分會ト云フモノヲ設ケテ選舉デハナイ、即チ全體ヲ大選舉區デヤルノデアルガ、選舉スル場所ヲ數ヲ殖ヤス爲ニ分會ト云フモノヲ設ケテ之ヲヤルト云フコトノ法則ガ出マシタ、ソコデ横濱市ノ選舉法ハ大選舉區ノ法ニ依テサウシテ今ノ分會ヲ設置シヤウト云フ法案ヲ出シタノデアリマス、ベキ大選舉區ニスルコトヲ議決シタニ付テハ、即チ分會ヲ設置スルト云フコトヲ直グヤラナケレバナラヌガ、併シ今ノ大選舉區ニ改正シテ、即チ選舉法ノ定則トモ言フベキ大選舉區ニスルコトヲ議決シタニ付テハ、即チ分會ヲ設置スルト云フ選舉區ト云フモノハ今マデノ小選舉區ヲ改正シテ、即チ選舉法ノ定則トモ言フコトヲ直グヤラナケレバナラヌガ、併シ今ノ大選舉區ニ改正スルト云フコトヲ設置スルニ付テ、即チ小選舉區ノ方ヲ廢止セナケレバナラヌ、小選舉區ノ方ヲ廢止スルト云フ方法ヲ大選舉區ニスルコトヲヤル前ニヤッテハ、萬一之ガ爲ニ何カ工合ガ惡ルイコトガアルマイカ、ソコラハドウ云フモノニアルカ、或ハ同時ニヤッテ大選舉區ニスルコトト、小選舉區ヲ廢止スルコトヲ同自分ニ於テハ差支ナイモノト考ヘル、併ナガラ是ハ内務省ニモ一應相談シテ、時ニヤッテモ差支ナイモノデアラウカ、ドウデアラウカ、監督官タル知事ノ意見ハドウデアルカ、斯ウ云フコトデ別レテ、其後ニ於テ知事ハ市長ヲ呼ンデ、此中ノ事ハ内務省ノ方ニモ打合シテ見タガ、内務當局者ニ於テモ是ハ差支ナイモノデアラウカ、斯ウ云フモノデ、監督官タル知事ノ内務省ノ意見ヲ聞イタ上デ尙返答シヤウト云フコトデ別レテ、其後ニ於テ知事ハ市長ヲ呼ンデ、此中ノ事ハ内務省ノ方ニモ打合シテ見タガ、内務當局者ニ於テモ是ハ差支ナイモノデアラウカ、サウ承知シロト云フコトヲ申渡シタ、ソコデ市長ハ市會ニ向ッテ其事ヲ言ウタ、斯ウ云フ理窟アルカラ、ソレデ市會ハサウ云フモノデ、監督官タル知事ノアルカラ、ソレデ宜シイ、ソレデ市會ハサウ云フモノデ、監督官タル知事ノ

意向モサ云フ風デアルカラ、是ハ當リ前、是デ宜シイコトデヤト思フカラ、大選舉ノ方ニスルコトニシテ、小選舉區ハ廢止スル方ノ案ヲ議決シタ、ソレヲ議決シテ殆ド一箇月程經過シタ時分ニ知事ガ之ニ不認可ヲ與ヘタ、即チ市会ノ議決ニ不認可ヲ與ヘタ、ソコデ此市會ノ方デハ、知事ハ最初此事ニ付テハ大ニ同意ノ態度ヲ執ッテ居ッタ、然ルニ今ニシテ之ヲ不認可スルノハドウモ分ラナイト云フコトガ起ッタ、ソレデサウ云フコトガ起ッタ際ニ、横濱市ニ於テ一ノ説ガ起ッタ、是ハ其片方ノ小選舉區論者ノ方ガ今ノ通り負ケタ、市會ノ議決デ負ケタ、負ケタニ付テ、ドウモ仕様ガナイ、此自治制ノコトヲ解決スルニ黨派問題ニ持込ンデ、即チ之ヲ政友會ニ賴ンダ、是非是ハ元通り小選舉區ニシテ貰ハナケレバナラヌト云フコトヲ賴ンダ、サウシタ所ガ政友會ノ者ハソレヲ引受ケテ、サウシテ連名簿ヲ以テ此事ヲ知事ガ認可シテ吳レスデアッタナラ、自分等ハ政友會ヲ脱スルト云フコトヲ申出タ、所デソレハドウモ大變ダト云フ所カラ、ソレヲ政友會ノ方ヘ持込ンダ、所ガ即チソレハ原内務大臣ノ資格デ言ハレタカ、或ハ政友會ノ領袖株ノ資格デ言ハレタカ分リマセヌガ、兔モ角モ原君ガ特ニ知事ノ所ヘ手紙ヲ遣ラレタカ人ヲ遣ラレタカシテ、云フコトヲ自分ハ耳ニスルガ其事ハドウデアルカト云フコトヲ政府委員ニ尋ねマシタ、所ガソレハ初メ別ニ知事カラ内務省ヘ伺出テ、内務省ノ省議トシテ答ヘタコトハナイ、答ヘタコトハナイガ事務官トヤラガ來テ、誰カト話ヲ起ス本ニナッテ居ル、謂ハユル火ノナイ所ニ煙ハ立タヌデ、即チサウ云フコトガアルカラ、横濱市民ハ今申シタ通リノヤウナコトヲ想像ヲ付ケタカ何カ、サシタコトハアルヤウデアル、斯ウ云フ話デアル、即チ是等ガ横濱市民ガ疑フカ、斯ウ云フ風説ヲ起シテ、サウ云フコトガアル爲ニ、知事ガ謂ハユル自治制ヲ躊躇シタト云フコトノ考ヲ深カラシメタ原因デアルト思フ、ソレニ付キマシテカ、斯ウ云フ風説ト云フノハ、今ノ政友會ノナサレタト申シタ事柄デアリマス、ソレニ對シテハソレハドウモ私モ能ク知ラヌガ決シテナイト思フ、斯ウ云フ答デアッタ、ソレカラ第二ニ斯ウ云フ風説ガアルガ、ソレハドウ云フコトデアル今述ベタ所ノ内務當局者ノ答ガ、第一段ノコトニ付テハ今ノヤウナ答デアリマシタ、ソレカラ第二ニ斯ウ云フ風説ガアルガ、ソレハドウ云フコトデアルカ、斯ウ云フ風説ト云フノハ、今ノ政友會ノナサレタト申シタ事柄デアリマス、ソレニ對シテハソレハドウモ私モ能ク知ラヌガ決シテナイト思フ、斯ウ云フ答デアッタ、ソレカラ免ニ角今ノ有様ハ理論上カラ言ヘバ、監督官タル人ガ自分ノ職權ヲ以テ、此事ハ市ニ不利ナリト思フ場合ニハ、假令市會ガ市制

ノ權能ニ依テ之ヲ議決シタ所ノ事柄デアッテモ、之ヲ認可シ不認可スル權能ヲ有ツテ居ルコトデアルカラ、之ニ付テハ理論上カラ云々タラ、知事ガ之ヲ取消シタト云フノハ或ハ別ニソレハ惡ルイコトニハナラヌカモ知レマセヌ、惡ルイコトニハナラヌカモ知レマセヌガ、今日ノ横濱市ノ有様ハドウデアリマスカ、シテモ此點ニ向ツテハ何レノ方法カラ以テ之ヲ救濟スルコトヲシナクテハナラヌコトデアラウト考ヘマス、ソレデ之ニ付テハ内務當局者ハ事實上斯ウ云フ有様デアルガ、サウ認メテ居ル以上ハ、之ニ付テハ如何ナル方法ヲ以テ救濟スベキカ、又請願者ノ云フ所ニ依リ、又承ル所ニ依ルト、此事ニ付テハ内務大臣ニモ陳情ヲ致シタ、精シク此狀況ヲ述ベテ陳情ヲ致シテ居ルト云フコトデアリマシテ、其陳情ニ對シテモ如何ナル處置ヲ執ラルカドウカト云フゴトヲ聞キマシタ、サウスルト云フト内務當局者ハソレハドウモ外ニ別ニ方法ト云フコトハナイガ、免ニ角此行違ノアル事情ヲ機會ノアル毎ニ諸種ノ人ニ能ク話シテ、サウシテ知事ガ斯ウ云フコトヲシタノハ決シテ自治制ヲ躊躇シタノデナイ、詰リ知事ハ最初ヨリ圓滿ニ此事ヲ解決シタイト思ツテ、ソレニ努メタガ、ソレハ遂ニ出來ナカッタ故ニ、斯ウ云フ職權ヲ以テソレヲナサレタノデアル、ソレデアルカラ機會ノアル毎二人、ニ言ツテ其譯ヲ話シテ行違ヲ解イテ行クヨリ外仕方ガナイ、既ニ今日此席ニ於テアナタ方ニ此事ヲ御話スルノモ其一ツデアル、斯ウ云フ答デアリマシタ、所ガ又請願人ノ言フ所ニ依ル、知事ガ初ヨリ圓滿ナル考ヲ以テヤル積リデアッタガ、遂ニ其圓滿ヲ期セラレス爲ニ、斯ウ云フ風ニナツタト云フコトヲ、今ノヤウニ請願人ハ自治制ヲ躊躇シタト認メテ居ル、ソレデ請願人ノ言フニハ、ナゼソンナラ初メカラ知事ハサウ云フ考ガアッタラバ、初カラ自分ハ此點ニ付テハ、ドウモ横濱市ノ不利益ニナルト思フカラ、オ前等ノ言フ所ノ事柄ハ自分ハ同意ガ出來ナイト云フコトヲ、ナゼ前カラ言ツテ置カヌカ、ソレヲ初サウハ言ハズニ置イテ、後ニナッテ理由モ示サズニ不認可スルト云フコトハドウデアルカ、斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、之ニ對シテ矢張リ政府當局者ノ意見ヲ聞キマシタ所ガ、ドウモ斯ウ云フコトト云フモノハ、サウ初カラアレハ斯ウ云フ譯ダト云フコトハ示サレナイ、示サレナイト云フモノハ、元來此事ヲ知事ハ圓滿ニ解決シヤウト云フコトガ知事ノ本意デアルカラ、成ルベク自分ノ意見ハ終ヒマデ取ツテ置イテ、サウシテ圓滿ニ行クヤウニト思フカラ、初カラ自分ハ之ニ不同意ト云フコトヲ

言フコトハ出來得ナイノデアラウト思フ、ソレデアルカラ言ハナカッタノデアラウ、斯ウ云フコトデアリマス、ソレト是ト綜合シテ見マスト云フト、知事ハ初カラ第一横濱市ノ利害ニ關係スルコトヲ研究シテ、サウシテ自分ノ態度ヲテ是ガ利デアルカ、害デアルカト云フコトヲ研究シテ、サウシテ自分ノ態度ヲシテコトデバナラヌ、意見モ決メナケレバナラヌダラウト思ヒマス、ソレニ拘ラズ、今御話シマシタ如ク、此市會ノ建議ニ同意シテ置イテ後ニ斯ウ云フコトヲシタト云フコトデアルト、前ノガ嘘デアルカ後ノガ本當デアルカ、其處ノ境界ハ甚ダ分ラナイ、サウ云フコトガアル爲ニ横濱市民ハ矢張リ知事ガ自治制シテモ、内務大臣ハ自分ハ此事ニ干渉シタコトハナイ、言島田君カラノ質問ニ對シテ、内務大臣カラ答辯ガ出テ居リマス、ソレヲ見マシテモ、内務大臣ハ自分ハ此事ニ付テハ何等知事ニ干渉シタコトハナイ、言ウタコトハナイト言ハレテ居リマスカラ、ソレヲ以テ見マスルト、原内務大臣ニ於テ果シテ左様ナコトハナイコトデアラウト私ハ信ジマスガ、併ナガラシテモ、内務大臣ハ自分ハ此事ニ付テハドウデアリマセウカ、前ニ申スヤウナ疑惑ヲ横濱市民ニ起サセタト云フコトハドウデアリマセウカ、前今ノヤウナ疑惑ヲ横濱市民ニ起サセタト云フコトガアッタデハナイカ、又自分ノ方デハサウハ思ハレナイ、何カ之ニ類似シタ事柄ガアッタデハナイカ、又自分ノ方デハサウハ思ハレナイデモ、此形式ガ或ハサウ云フ風ニ見エタコトガアッタデハアルマイカト私ハ疑ツテ居ル、ソレ故ニ免モ角斯ノ如キ始末デアリマシテ、今日横濱ノ有様ハ全儘ニシテ置クト云フコトハイケナイカラ、其救濟ノ方法ハ是ハ固ヨリ色ニアリマセウガ、免モ角之ヲ救濟スルト云フコトハ今日必要ナ事デアラウト云フコトカラシテ、即チ委員會ニ於テハ此請願ヲ、即チ救濟ヲスルト云フコトヲ採擇ニナツタ譯デアリマス、以上述ベマシタノハ大略ノ事デアリマスガ、尙マクマダ紛糾シテ解ケテ居ラナイ、詰リ知事ト市民トガ此點ニ付テハ相反目シテ居ルノデアルカラ、横濱市ハ今マダ平和ノ中ニハ居ラナイノデ、此有様ヲ其ハサウ云フ考ガアッタラバ、初カラ自分ハ此點ニ付テハ、ドウモ横濱市ノ不利益ニナルト思フカラ、オ前等ノ言フ所ノ事柄ハ自分ハ同意ガ出來ナイト云フコトヲ、ナゼ前カラ言ツテ置カヌカ、ソレヲ初サウハ言ハズニ置イテ、後ニナッテ理由モ示サズニ不認可スルト云フコトハドウデアルカ、斯ウ云フコトヲ言ウテ居ル、之ニ對シテ矢張リ政府當局者ノ意見ヲ聞キマシタ所ガ、ドウモ斯ウ云フコトト云フモノハ、サウ初カラアレハ斯ウ云フ譯ダト云フコトハ示サレナイ、示サレナイト云フモノハ、元來此事ヲ知事ハ圓滿ニ解決シヤウト云フコトガ知事ノ本意デアルカラ、成ルベク自分ノ意見ハ終ヒマデ取ツテ置イテ、サウシテ圓滿ニ行クヤウニト思フカラ、初カラ自分ハ之ニ不同意ト云フコトヲガ横濱市ニ適當ナリト認メタルモノヲ、何ガ故ニ知事ガ從前ノ選舉區ノ方ガ

宜イト云フコトノ解釋ヲ採ツタカト云フコトニ付テハ、今眞鍋男爵ノ御答ノ通  
リト了解イタシマス、其邊ニ付テハ委任サレタル所デ、神奈川縣知事ハ詳細ニ  
内務大臣ニ理由ヲ述べ、内務大臣ハ其事ヲ委任シテアルコトヲ御聽取ニナッタ  
コトニ想像イタシマスカラ、其小選舉區ト大選舉區トノ利害ヲ一應承リタイ

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 唯今小野田君ヨリノ御質問デゴザイマスルガ、抑、此横  
濱ノ選舉區ノ争ニ付キマシテハ、衆議院ニ於テモ島田三郎君ヨリ數回質問モ  
アリマシタ、世間又多少ノ疑惑ヲ以テ之ヲ迎ヘテ居ルカノ如キ感ヲ致スノデ  
アリマス、幸ヒ御尋デゴザイマスルカラ、茲ニ真相ヲ一言イタシテ置クコト  
ガ適當ト考ヘマス、横濱ハ御承知ノ通リニ二ツノ黨派ヨリ成立ツテ居リマス、  
商人派、地主派、ウシテ今日ニアツテハ商人派ハ刷新派ト申シテ居リマス  
ガ、同志會ノ方ニ屬シテ居ルラシク見エルノデアリマス、地主派ト云フモノ  
ハ政友會ノ方ニ多ク屬シテ居ルノデアリマス、免ニ角横濱市ナルモノハ餘程  
久シキ以前ヨリ商人派地主派ノ二黨派ニ分レテ居リマス、時ニ依テ是ハ消長  
イタシテ居リマスガ、大體先ヅ左様ナ譯デアリマス、サウ致シマシテ、昨年  
ノ末ニ小選舉區大選舉區ノ問題ガ起リマシタ、ト云フコトハ斯様ナ譯デアリ  
マス、小選舉ナルモノハ新ニ生ジタル問題デハナイノデアリマス、横濱市ハ  
三十一年ニ市條例ニ於テハ市ヲ三區ニ分ケテ居リマス、ソレカラ四十四年ニ  
至リマシテ五區ニ分ケテ居リマス、所ガ接續イタシテ居ル所ノ町村ヲ市ニ編  
入スルト云フコトニ相成リマシテ、此編入シタル町村ハ唯今分ケテ居リマス  
タノハ謂ハユル從來ノ商人派、今日ノ刷新派デアルノデアリマス、是ガ小選  
舉區即チ接續ノ町村ヲ編入シテ五區ノ中、何レカニ屬スル案ヲ提出イタシマ  
シタ時ニ、市參事會ハ正半數デアツ、當時ノ市長ハ從來ノ通り小選舉區ヲ是  
ナリトシテ、小選舉區ノ儘ニシテ接續ノ町村ヲ編入スルノ案ヲ提出シタト云  
市長ガ市會ニ提出イタシタノデアリマス、所ガ其時ニ多數ヲ占メテ居リマシ  
タノハ謂ハユル從來ノ商人派、今日ノ刷新派デアルノデアリマス、是ガ小選  
舉區即チ接續ノ町村ヲ編入シテ五區ノ中、何レカニ屬スル案ヲ提出イタシマ  
シタ時ニ、市參事會ハ正半數デアツ、當時ノ市長ハ從來ノ通り小選舉區ヲ是  
ナリトシテ、小選舉區ノ儘ニシテ接續ノ町村ヲ編入スルノ案ヲ提出シタト云  
フコトデアリマス、然ル所、當時多數ヲ占メテ居リマスガ、色ニナ事情ニ依テ大ナル市ハ  
之ヲ改メテ横濱市全部ヲ一つノ選舉區トスル、即チ謂ハユル大選舉トシタ案  
ノ建議ヲ先づ致シマシタ、其建議ガ通過イタシテ後ニ市長ノ提案ヲ否決イタ  
シタ、故ニ市長ハ此建議並ニ否決ニ依テ如何ナル態度ヲ執ツタカト申スト、一  
方ニ於テハ當年ノ一月市會議員ノ總選舉ガゴザイマシタカラ、此名簿ヲ速ニ

編製シナケレバナラナイ、斯様ナル事情ニモ追ツテ居タ、サウシテ其當時多  
數ヲ占メテ居リマシタ所ノモノノ提案ノ……主張ニ係リマスル所ノ大選舉區  
ト云フ案ヲ提出イタシタノデアリマス、此大選舉區案ヲ提出イタシタト云フ  
コトハ、即チ其時マデ三十一年來存在イタシテ居ル所ノ、小選舉ナリ市條例  
ヲ廢止スルノデアリマス、市條例ノ廢止ノ許否ハ知事ニ委任シテゴザイマス、  
カニ相談ヲ致シタト云フコトモ、後ニ承リマスレバアリマス、ケレドモ素ヨ  
リ省議ヲ盡シタル次第モアリマセズ、又知事ガ委任セラレテ居ルコトデア  
リマスカラ、其權内デ出來得ルコトデアリマス、ガ知事ハ成ルベク多數ノ決  
議デアリマスルカラ、多數ノ意思ヲ容レテ、市條例ノ廢止……大選舉區ニナ  
リマスレバ市條例ノ廢止ヲ認可イタシタイ希望ヲ有ツテ調査ヲ進メ、其希望ヲ  
有シテ居タコトハ事實デアルノデアリマス、然ル所、此市條例ヲ廢シテ小選  
舉區ヲ大選舉區ニ致スト云フコトハ、決シテ市制ノ原則モ何デモゴザリマ  
セヌ、市制ニ於テハ御承知ノ通リニ、大ナル市、例ヘバ東京、大阪、京都、  
リマスカラ、其權内デ出來得ルコトデアリマス、然ル所、此市條例ヲ廢シテ小選  
舉區ヲ大選舉區ニ致スト云フコトハ、決シテ市制ノ原則モ何デモゴザリマ  
セヌ、市制ニ於テハ御承知ノ通リニ、大ナル市、例ヘバ東京、大阪、京都、  
リマス、名古屋市ノ如キ、神戸、廣島、甲府、秋田、熊本、福井、吳、福岡、  
金澤ト云フヤウナモノハ、多ク皆小選舉區ニ區ヲ分ケテ居リマス、隨ツテ横  
濱モ三十一年以來區ヲ分ケテ居ツタノデス、是ハ選舉ニ於テハ公平ヲ保ツニ餘  
程便利ナルモノデアル、市ハ御承知ノ通リ或一部分ニ富豪ガ集ツテ居ルノガ  
市ノ狀態デアリマス、故ニ選舉區ノ狀態ハ大キイ市ニナリマスレバナリマス  
ル程、一ノ地區ニ富豪ノ集ツテ居ルノガ常態デアリマス、故ニ之ヲ一つノ大選  
舉區ニ致シマスレバ一方ニ傾イタ選舉デ、即チ僅ノ地區ニ居ル所ノモノハ、  
一級二級ノ多數ヲ占メル選舉ハソコニ傾ク、是等ノ事情モアリマスカラ、即  
チ沿革ハ外ノ事カラ來テ居ルノモアリマスガ、色ニナ事情ニ依テ大ナル市ハ  
法律ニ依テ設ケテナケレバ市條例ニ依テ設ケテアルノデアリマス、横濱モ  
左様ナル狀態ニ依テ市ガ分割セラレテ五ツノ選舉區ニナツテ居ツタノデアリマ  
ス、三十一年以來三區四區五區ト云フコトニ區ヲ分ケテ居ツタ、之ヲ一朝廢止  
イタシマシテ、大ナル選舉區ニ致スト云フ譯ニナツテハ、或一部ニハ其黨勢ヲ  
擴張イタシ、其同志者ヲ市會ニ舉ゲルニハ必ず便宜デアルト同時ニ、市民ハ

レル、一黨派ニ傾クト云フコトハ免レヌノデ、是ハ決シテ横濱市ノ利益デナカラウト考ヘマス、又從來三十一年以來、他ノ大ナル市同様ニ選舉區ヲ幾ツニモ分ケテ居リマシテ、何等ノ不便モ感ジナイ、何等之ニ依テ弊害ト認ムベキモノハナイノデアリマス、然ルニ選舉ヲ目ノ前ニ控ヘテ、小選舉區ヲ撤廢シテ大ナルモノニスルニ於テハ、知事ハ多數ノ意見ニ從ハムト欲スルモ、十分ナル考慮ヲ要スルモノデアリマス、故ニ致研究ニ致研究ヲ重ネテ遂ニ之ヲ不認可ニ致シタト云フ狀態デアル、サウシテ更ニ……所ガ其時ニ市會ニ多數ヲ占メテ居リマシタ者ノ大部分ガ辭職ヲ致シマシタカラ、市會ハ成立ヲ致サナクナツタ、依テ法律ニ依テ縣參事會ガ代議決ヲ致シタト記憶イタシテ居リマスガ、ソレニ依テ接續ノ町村ヲ編入イタシテ、從來存在シテ居ル所ノ五區ノ接續ノ町村ヲ編入イタシテ、市條例ヲ定メテ認可ヲ請ウテ參ツタノデアリマスルカラ、之ヲ認可スルコトハ知事限デハ出來マセヌ故ニ、内務省ニ出シテ是ガ認可ヲ仰イダノデアリマス、事實ハ斯様ナル次第、ガ沿革ヲ申セバ横濱市ハ大別シテ二ツノ黨派ニ分レテ居リマスカラ、一面ノ黨派カラ御聞ニナレバ、他ノ一面ハ非常ナル不都合ヲ致シテ居ルコトニ相成リマセウ、又同時ニ其方面カラバカリ承リマスレバ、他ノ方面ハ極メテ不都合ナルコトヲ致シテ居ルヤウニ見エルノデアリマス、茲ニ至ッテ行政官ナル者ハ極メテ公平ノ所置ヲ致他ノ一面ハ非常ナル不都合ヲ致シテ居ルコトニ相成リマセウ、又同時ニ其方面カラバカリ承リマス、事實ハ之ヲ知事ヲシテ不認可サセケレバ脱會イタサウガ致スマイガ私ハ頓然シテ居ル、故ニ私ハ縱シ脱會イタスカラト申シマシタ所デ、横濱市ノ不利益、行政上ナスベカラザルモノト見レバ脱會イタサウガ致スマイガ私ハ頓然シテ居ル、故ニ私ハ縱シ脱會イタスカラト申シテノ所ヘ參ツタ者ハ何モアリハシマセヌ、又市民ハ小選舉區ト大選舉區ト大ナノ如ク五區ヲ存在イタシテ、サウシテ之ニ接續イタシタル町村ヲ編入イタスノ案ヲ認可イタシタト云フコトニナツテ居ル、又知事ニ於テ謂ハユル小選舉區ヲ撤廢イタシテ、一朝大選舉區ニスルト云フコトヲ許サナカッタ譯ト云フモノハ、先刻申シタカノ如ク横濱市ノ利益ナラズト考ヘマシタノデアリマス、從來何等之ニ依テ弊害ヲ見ナイモノヲ、一朝小選舉區ヲ撤廢シテ大選舉區ニスルト云フコトハ、横濱市ノ不利益ト見タノデアリマス、若シ之ヲ認可イタシテ、一部ノモノヲ以テ占有イタスヤウナル虞ガアツタノデアリマス、是ハ横濱市ノ利益デナカラウト考ヘタ、故ニ是ハ内務省ニ於テハ知事ノ處置ヲ適當ト見マシテ之ヲ取消シタリ、其他ノ手續ヲ致サヌノデアリマス、又理由ヲ示サヌト云フコトヲ衆議院ノ島田君ナドモ申サレマスガ、是ハ其理由ヲ示シテ認可不認可ヲスルモノト、示サヌモノト自ラアル、斯様ナル問題ニハ理由ヲ示シテ斯様ナル譯ダカラ不認可デアル、斯様ナ譯ダカラ認可スルト云フ問題デハナ

イノデアル、故ニ不認可ト申シタダケデアリマスガ、併シ理由ヲ今日申セバ左様ナル理由カラ成立ツテ居ルノデアリマス、ソレカラ若シ之ヲ不認可ニシテ吳レスケレバ政友會ノ者ハ舉ツテ脱會スル、故ニ内務大臣ハ餘儀ナク知事ヲ強制イタシテ、謂ハユル大選舉區ヲ不認可サセタノデアルト云フコトハ、一部ノ謂ハユル刷新派ナドハ左様ナル事ヲ申シテ居ルガ、是ハ人ノ推測邪推ニ依テ断定ヲスルノナラバ何レデモ宜シイガ、事實ヲ申セバ私ノ所ニ之ヲ不認可ニシテ吳レスケレバ脱會スルト云フヤウナ事ヲ申シテ參ツタ者ハナイノデス、何レノ所ニカ參ツタカ、ソレハ私ノ知ル限ニ非ズ、恐ラク有ルカ無イカ疑惑ノ裡ニ在ル位デアリマス、私ノ所ニハ何モナイ、又若シアリマシタ所デ數年間内務ニ職ヲ奉ジテ居リマスルガ、世間ノ人ガ想像スルガ如ク、地方ニ居ル黨員ノ心情ニ依テ行政ヲ左右シテ居ラヌノデアリマス、是ハ知ツテ居ル者ハ能ク了解シテ居ル、故ニ私ハ縱シ脱會イタスカラト申シマシタ所デ、横濱市ノ不利益、行政上ナスベカラザルモノト見レバ脱會イタサウガ致スマイガ私ハ頓然シテ居ル、故ニ私ハ縱シ脱會イタスカラト申シテ著ハナイガ、事實ハ之ヲ知事ヲシテ不認可サセケレバ脱會ヲスルト申シテ依然タル元ノ通リノ小選舉區ニシテ吳レンネバナラヌト云フ請願ヲ致シタ者モ横濱ニ非常ニ多イ、要スルニ横濱市ハ初ヨリ二ツノ黨派ニ分レテ互ニ相争ル争ニナリマシタ、數人ノ者ガ何千人カ何万人カ存ジマセヌガ調印ヲシテ、大シタ違ヒデハナイカ知リマセヌガ、似タ位ノ程度ノ人ガ當選シテ居ル、其選舉後ハ横濱市ガ大層亂レテ居ルカノ如ク御話シデアリマスケレドモ、今日ハサマデ紛擾ハナイノデゴザイマス、數年間續イタ所ノ争ハ依然トシテアリマスルモノハ、尙繼續スルカ、ソコハ分リマセヌ、恐ラク一朝ニシテ横濱市ハ融和シタル一團體トナルコトハ難イノデアリマセウガ、併ナガラ此争ガ依然トシテアルモノト致シマシタ所デ、是ハ新規ナ争デハナイ、數十年續イテ居ル此争ハゴザリマセウ、ゴザリマセウガ、横濱ガ紛糾、謂ハユル紛擾ヲ重ねタルト云フ狀態デハナイノデアリマス、是ハ議論ヲヤゴザイマセヌ、事實ヲ調べテ最早選舉ヲ終リ、選舉前ハ非常ナ争デアリマシタガ、選舉ヲシマウタ今日ニ於テハ、サマデ紛擾イタシテ居ルコトハ私共ニハ見エナイ、又是ハ

必ズ時ヲ經マシテ……各選舉ヲ目前ニ控ヘマシタ時ニ於テ、大選舉區ト小選舉區ト大ナル爭ヲ致シテ、互ニ相争ヒモ致シマシタラウガ、既ニ選舉ヲ終ッテ今日ニナリマシテハ、其以前ニ於ケル如キ争ヲ繼續イタサウトモ考ヘテ居リマセヌ、斯様ナ次第デアリマスルカラ、横濱市ノ狀態ハ先づ大選舉區小選舉區ノ認可不認可ニ關スル真相、茲ニ私ノ執リマシタ所ノ方針ハ茲ニ大略ヲ言明イタシテ置クデアリマス、固ヨリ請願ノコトデアリマスカラ、是ガ通過イタサナケレバソレ迄ノコト、通過イタシマスレバ篤ト廟議ヲ盡スコトハ當然デアリマスルガ、事實ノ真相ハ斯ノ如キ次第デアリマス、又不幸ニシテ此請願委員會ヨリ出席ヲ求メラレマセヌデ、屬僚ガ之ヲ答辯イタシタ譯デアリマスカラ、ソレハ要ヲ盡サヌコトガアルカモ知レマセヌガ、茲ニ私ノ自分ノ知リ得ル限り、執リマシタ範圍ヲ言明イタスノデアリマス、尙些細ナ……些細デハゴザリマセヌ、比較的詳細ナ御尋ガアレバ、更ニ又申上グマスガ、事實ハ斯様ナ次第デアリマス

○男爵眞鍋斌君 私ハ内務大臣ニ尙御尋シタイコトガアリマス、今ノ御答辯ニ依リマスト云フト、私ノ申述ベタ政友會員ガ追ツテ斯ウ云フコトヲ認可シテ吳レネバ脱會スルト言ウタト云フ風説ヲ申上グマシタガ、ソレニ對シテ内務大臣ハ固ヨリサウ云フコトハナイト仰シャル、私モソレハサウ云フコトハナイデアラウト想像シテ居リマスガ、私ガ之ヲ承ツタノモ、唯道路ノ車夫トカ髮結床ノ評判ヲ承ツタンデハナイ、隨分相當身分アル、殊ニ横濱市ノコトニ能ク通曉シタ紳士トモ云フベキ人カラ承ツタノデ、私ハ疑ヲ懷イテ居ルノデアリマス、固ヨリソレハナイト仰セラレバ茲デ明白ナ譯デアリマスガ、免ニ角私ノ申述ベテ置キタイノハ横濱ノ大部分ト今仰セラレマシタガ、大部分ト云フト固ヨリ市民ノ大部分デアリマセウガ、其横濱ノ市民ノ中ノ有力者間ニサウ云フコトヲ矢張リ、今モマダ思ツテ居ルコトハ疑ヲ容レヌノデアリマス、ソレデ是等ノコトハ今後横濱ニ向ツテモ、能ク其疑ヲ御解ニナツテ置キマセヌト云フト、成ル程表面上デハ横濱市ハ今何モ言ハナイ、選舉ノ當時ハ言ツタガ今ハ何ニモ言ハナイカラ、事實ガ違ツテ居ルト云フ御話デアリマスガ、ソレハ前ニ私ガ申ス法理論、法理ノ上カラ言ヘバ其通リデアリマセウガ、之ヲ實際カラ申シマシタラ、今横濱ノ有様ハドウ云フ譯デアルカト云フコトヲ御考ヘニモナツテ居リマセウガ、尙一つ實際ニ御調査ヲナスツ、サウシテ果シテ今私ガ申ス通リノ事實ガアツタナラバ、如何ナル方法カラ以テ之ヲ御救濟ニナラヌト

云フト、詰リ此獨リ横濱市ノミナラズ、全國ノ市ニ於テ斯ウ云フコトヲ宜ト見テ、全國ニ此惡例ヲ流スヤウナコトガアリハシナイカト云フコトヲ憂慮シテ居ルモノデアリマス、尙一つ御尋イタシテ見タイノハ、若シ此儘横濱市ノ今日ノ問題ノ如キモノガ是マデ他ノ府縣ニアツタコトガアリハシマ一カ、ソレヲ一ツ御尋イタシテ置キタイ

#### 〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 唯今前段ノ御尋デアリマスルガ、政友會ノ者ガ之ヲ聽カズンバ脱會スルカラト申シマシタコトガ有ルカ無イカト云フコトデアリマシテ、私ハナイト申シマシタノデアリマスル、假ニアリマシタ所ガ私ハ採用セヌダケノコトデアリマス、從來斯様ナコトニ依テ行政ヲ二三ニ致シテ居リマセヌ、一向差支ハゴザイマセヌ、事實ナインデアリマスカラシテナイト申上ゲタ、アリマシタ所デ差支ハアリマセヌ、私ハ採ラヌダケデアリマス、ソレカラ横濱市ニ於テ色々紳士トモ云ハレル人ガ彼此レ申シテ居ル、是モ承ツテ居ルノデアリマス、商人派刷新派ノ多數ハ横濱ニ於テハ有力ナ紳士デアリマス、私モ懇意ナ者モアル、此謂ハユル有力ナル紳士ガ多ク刷新派デアリマス地主派ノ方ニモ澤山アリマスカラ、之ニ付テハ不平ヲ申シテ居ルコトヲ私ハ承ツテ居ル、ケレドモ是以テ横濱市ノ紛擾ナリトハ私ハ斷言イタシマセヌ、且又私ノ懇意ノ人ガ左様ナコトヲ申シテ參リマスルカラ、ソレハオ前達モ考ヘテ御覽、横濱市ハ四十万ノ人口ガアル、之ヲ一ツノ選舉區ニスル第一ノ理由ガナイ、其例ヲ見ナイヤウナコトヲ無理ニヤフテ、オ前達ガ遂ニハ議員選舉ノ分配ラシテ一方ニ傾カシメテ、オ前達ガ遂ニ後悔スルコトガアルカモ知レヌト私ハ思フノデアル、幸ニ其事ガ出來ナンダノデ大變宜シイト申シタ位デアリマス、又其刷新派ガ今日尙不平ヲ言ヒツツアル、其人ミノ中ニモ争ノ最中ニ實ハ幾部分反対ノ方ニモ人ヲ出スヤウニ致シテ、是デ圓滿ニ致シタイト云フ希望ヲ述べタ者モアル、ソレ等ノ人ハ決シテ一部云フ陳述マデ致シタガ、是ハ横濱市ノ平和ヲ圖ル爲ニ、一黨一派ダケデ全部ヲ占メマシテハ相成ラヌト云フコトニ氣ノ付キマシタ人達ノ思ヒ付デアリマス、左様ナ狀態デアリマス故ニ、是ハ私ハ決シテ茲ニ事實ヲ曲ゲテ詭辯ヲ弄

スル次第デハアリマセヌガ、横濱市ノ利益ヲ考ヘマシテ、行政上相當ナル處置ヲ致スト云ヘバ、三十一年來存在イタシタ所ノ區ヲ其儘存スルト云フコトヲ以テ横濱市ノ利益ナリ、行政上適當ナリト信ジテ居リマス、ソレカラ他ノ市ニ斯様ナルコトガアツタカナイカト云フ御尋デアリマシタガ、チヨット私ハ記憶イタシマセヌケレドモ、廣島ニ於テ近頃何カ是モ衆議院デ質問モ屢々ゴザイマシタガ、ドチラカノ勝敗ニナリマスト云フト、サウ云フコトノ議論ハ絶エナイノデアリマス、ケレドモ横濱ト丁度類似ノ所ハ承知イタシマセヌガ、争ノ同様ナル所ハ……併シ其區ヲ設ケテ居ル居ラスト云フコトニ付キマシテ

モ大ナル都市ハ大概横濱同様ニ區ヲ分ケテ居リマス、是ハ大選舉區ニ致シテ

居ル所ハ極ク僅少ナ所デアリマスガ、併シ是非他ノ例ヲ御承知ニナリタイトアレバ、尙調べテ他ノコトハ申上グマスルデゴザイマス、今日私ノ記憶デハチヨット同ジ所ハ他ノ所ニ承リマセヌノデゴザイマス

○江木千之君 此問題ニ付テハ私モ一言シタイト考ヘマスガ、唯今内務大臣ノ御答辯ニ依テ見マスルト、一通り辻棲ハ合フヤウデアリマスガ、併ナガラ是ハ理窟ノ付ケヤウデアル、小選舉區ニセザレバ横濱市ノ不利益デアルト云フコトデアリマスガ、果シテ大ナル市ハ皆小選舉區ニスルノガ宜シトイト云フコトデアルナラバ、法律ノ規定モ悉クソコニ向ツテ居ナクテハナラヌノデアリマスルガ、法律ノ規定ニ於テハ更ニ其様ナコトハナインデアル、市會ハ多數ヲ以テ此大選舉區ガ宜シトイト議決シタノデアル、法律ハソレダケノ餘地ヲ皆存シテ居ルノデアル、然ルニソレヲ監督官廳ガ差出テ、是ハ市ノ爲デハナイト云フコトデ、遂ニ市會ノ議決ヲ不認可ニシ、アノ紛擾ヲ釀スニ至ッタノデアリマスルガ、若シ是ガ黨派ノ地ヲ變ヘテ居ツタナラバ、果シテドウ云フ理窟ヲ付ケラレタデアラウカト云フコトヲ一般ノ人ガ疑惑ヲ懷イテ居ル、殊ニ内務大臣ハ多數ノ議決ト云フコトハ常ニ非常ニ重ンゼラレルノデアル、役人ヲ集メテ會議ヲシテモ直グニ頭數ヲ數ヘラレルト云フコトハ、是ハ即チ内務大臣ノヤツテ居ラレル所ノ遺リ方デアル、其内務大臣ガ市會ガ多數ヲ以テ議決シタコトヲ、ソレハ市ノ不利益デアルト云フノデ

〔副議長侯爵黒田長成君議長席ニ著ク〕

監督權ヲ以テ、監督權ヲ振廻ハシテ、遂ニ其議決ヲ取消サレタト云フコトニ至ツテハ一般ガ非常ニ疑惑ヲ懷キ、又多數ノ意思ニ反シテ斯様ナコトヲサレルガ爲ニ此紛擾モ致シタノデアルト考ヘル、理窟ハ付ケレバドチラニデモ付キ

マセウガ、是等ノコトハ法律ガ許シテ居ルノデアル以上ハ、多數ノ議決スル所ニ從フベキデアラウト思フ、不利益ト云フコトハ理窟ヲ付ケレバ付クガ、之ニ從フタラ決シテ横濱市ノ大紛擾ヲ釀スト云フ如キコトハ決シテナカクタラウト私ハ考ガヘルノデアル、此内務大臣ガ自治制ニ對セラレルニハ、ドウカ此議權ヲ十分ニ重ンゼラレルト云フコトニ御注意ニナルヤウニ私ハ希望スルノデアル、此希望ヲ以テ此請願ハ請願委員長ノ提議ノ如ク本院ニ於テ採擇セラレムコトヲ希望イタシマス

#### 〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 既ニ兩度モ陳述イタシマシタカラ、重ネテ述ベル必要ハアリマセヌガ、唯今江木君ノ御話ノ如クデアリマスルト、少シ是ハ事實ニ相違シテ居ルト思フ、又法律上如何カトモ思フ、市制ニ依リマシテ認可ヲ經ペキモノト認可ヲ經ルニ及バヌモノトアルコトハ御承知ノ通リデアル、ソレデ認可ヲ經ズニ參リマスルノハ、是ハ議決ノ儘デ行ハレルノデアル、認可ヲ經ナケレバナラヌモノハ監督官廳ノ見ル所ニ依テ之ヲ許否イタス權能ヲ與ヘタル、又自治ト云フコトハ、茲ニ私ガ申上ゲルマデモナク、或法律上ノ制限ノ下ニ、縣郡市町村ニ與ヘラレテ居ル、故ニ監督官廳ハ認可ヲ致シ又不認可ヲスル、ソレハ自分ノ唯意ノ儘ニ勝手放題ナル不認可認可ヲヤラレテハ困リマセウガ、成ルタケ多數ノ意見ヲ尊重スルヤウニモ致サナケレバナラヌ、同時ニ其縣ナリ市ナリノ公共ノ利益等ノコトモ考ヘナケレバナラヌ、故ニ地方官ナドヲナサツタ方ハ能ク御承知デアリマセウガ、縣會ガ如何ニ多數ヲ以テリマセウガ、成ルタケ多數ノ意見ヲ採用イタサズ原案ヲ執行スルコトガアル、是ハ縣民ノ利益ナリト考ヘレバ左様イタスノデアル、故ニ多數ノ決議ハ尊重イタサンケレバナリマセヌケレドモ、議決ノ儘ニ行フコトガ出來ナイ範圍ノモノニナリマシテハ、監督官廳ハ篤ト攻究イタシテ、其地方ナリ縣郡市町村ノ公共ニ利益アリト考ヘル所ノモノヲ處置シナケレバナリマセヌ、又私ハ會議ノ時ニハ成ルタケ多數ノ意見ヲ採用テ居ルト云フコトハ、是ハ江木君モ御承知ノ通りデアル、地方官ノ會議モ其通リヤツテ居リマスガ、併シ此會議ニ當テ多數少數ハ見ルケレドモ、多數ノ意見ナリト言ツテモ監督者タル者ガ必ズ採用スル譯ニ行カヌ場合ガアル、同時ニ少數ノ意見ナリト雖モ採用スルコトガアルト云フコトヲ以テ、地方官ノ會議ナドニ臨ンデ居リマス、私ハ出來ルダケ多數ノ意見ヲ尊重シテ用キルト云フ精神デアリマスケレドモ、是ハ絶對的ノ場合

デアリマス、故ニ今江木君ノ御注意モアリマスルシ、注意イタスハ申スマデモアリマセヌガ、併シ是ハ一片ノ法律上ノ理窟デ申スノデハアリマセヌ、横濱ニ付テモ多クノ人ガ疑惑ヲ懷イテ居ル、何カ偏頗ナコトヲ致シタ如ク、他質問ニ依リテ其真相ヲ茲ニ述べテ、諸君ノ御判断ヲ請フ爲ニ、敢テ數言ヲ費シタル次第デアリマス

○小野田元熙君 私ハモウ一ツ了解イタシマセヌ所ヲ伺ヒマス、先刻内務大臣カラ詳細ナル御答辯ヲ得マシテ満足イタシマスノデアリマス、其御答辯中ニ大選舉區ニスルト、公平ナル選舉ヲ行フコトガ出來ヌト云フ御言葉ガアッタ

ヤウニ承知イタシマシタガ、或ハ自分ノ解釋ヲ誤ル居ル大矢レセラガ單記法ヲ行フ以上ハサウ云フ憂ハアリマスマイカト存ジマスノデアリマス、果シテ公平ナル選舉ヲスルコトガ出來ヌト云フナラバ、先刻江木君ノ述ベラレタ通り、大選舉區ト云フモノハ將來市ニ行フコトハナラヌ、小選舉區ニ限ルト法律ヲ御改正ニナツタラ然ルベク存ジマス、其點ニ付テハ或ハ自分ノ誤解カモ知レマセヌガ、單記法ナラバ差支ナイト云フ考ヲ有ツテ居リマス、此事ヲ伺ヒタイノデアリマス、合セテ私ハ決シテ黨派ニ付テ彼此レ申シマセヌガ、近來地方長官ニ於キマシテ往々黨派ニ偏スルト云フコトヲ、動モスルト耳ニ致シマスコトガゴザイマスカラ、内務大臣ニ於カレマシテハ自分等モ配下ニ附タコトガゴザイマスガ、決シテサウ云フコトハナイト飽クマデ信ジラ居リマスガ、將來地方長官ノ處置ニ付テハ十分ナル御監督ヲ希望イタシマス

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君)　此大選舉區ニ致シマセバ、各階級ヲ通ジテ議員ノ分配  
ガ能ク行クデアラウト云フコトヲ考ヘテ居リマス、私ハ小選舉區ナラバ……  
大選舉區ニ致セバ兔角市ト云フモノハ一地區ニ多クノ富豪ガ集ツテ居ルヤウ  
ナモノデアリマスカラ、一級二級ナドハ其地ニ集ツテ、ドウモ其議員ガ一方ニ  
偏スル虞ガアルト私ハ見込ンデ居リマスガ、是ハ銘々ノ見込デ、サウデナイ  
ト云フ議論カラ申シマスレバ、又サウモナリマセウケレドモ、ドウモ小選舉  
區ニ別ケテ居リマス方ハ、少クモ横濱ノ如キ市ニ於テハ各階級ニ相當ノ人ガ  
隨分居ルヤウニ思ヒマス、此四十万ノ大人口ヲ有シテ居ル横濱市第一ノ地區  
ト致セバ、ドウモ一方ノモノパカリニ偏ツテ其區々デ連記投票デアリマスカ  
ラ、全部占メルトカ、大部分ヲ占メルトカ云フ偏頗ナル結果ニ陥リハシナイ

カト思フ、併シ是ハ私ノ見込デアリマスカラ、ソレハサウデナイト云ヘバナ  
イカ知レマセヌ、ソレカラ地方官ニ付キマシテハ、是ハ小野田君モ御承知、  
江木君モ御承知、其他現任ノ地方長官ニ御聞下サイマスレバ分リマス、傍カ  
ラハ色ニ見エマスガ、私ハ公平ナル處置ヲ致シテ居ル積リデアリマス、決  
シテ黨派ニ私ヲ致シテ彼此レ致シテ居ル積リデハアリマセヌ、地方官中ニ若  
シ私ノ趣意ヲ誤解スル者ガ萬々一アリマスレバ、相當ナル處置ヲ執リマス外  
ゴザイマセヌガ、今日マデハ私ハ左様ナル者ハナイト信ジテ居リマスカラ、  
其儘置イテアリマス、尙注意ヲ致スコトハ至極御尤ノコトデアリマスカラ注

○男爵眞鍋斌君 本員ハ此採決前ニ當リマシテ、モウ一度原内務大臣ニ伺フテ置キタイノデアリマス、原内務大臣ノ先刻來ノ御答辯ニ依ルト云フト、横濱市ノ有様ハ自分ノ信ズル所デハモウ決シテ本員ノ述ベル如キ紛糾ノ中ニハナイ、又多少アッタシテモ是ハ致方ガナイカラ構ハヌ、斯ウ云フヤウナ御答辯ガアッタヤウニ私ハチヨット記憶シテ居リマスガ、或ハ間違ツテ居ルカモ知レマセヌ、然ラバ實際横濱市ニ於テ假ニ原内務大臣ハサウ思ヲテ御出ニナルカモ知レマセヌガ實際マダ紛糾ノ中ニ假ニアッタストルト、之ニ對シテハ原内務大臣ハドウ云フ救濟法ヲ御採ニナル御考デアリマスカ、ソレヲ一ツ伺フテ置キタイ、ソレカラ又先刻私ハ原内務大臣カラ非常ナ教ヲ受ケマシタ、其段ニ付テハ感謝イタシマス、其事ハ何カト云フト、物事ト云フモノハ一方ダケヲ聞イテハ分ラナイ、雙方聞イテ見ナケレバ分ラナイト云フコトヲ教ヘラレマシタ、成ル程如何ニモ御尤千萬、私ハ感謝イタシマス、此點ニ付キテハドウモ私ハ今日マデ決シテ多數黨ノ話ヲ聞き、片ツ方ノ話ヲ聞カヌナンゾト云フコトク御承知ヲ願ヒタイ、サウシテ私ハ此本職ヲ盡ス上ニ於テハ、人民ノ請願ト云フモノヲ基礎トシテ、其請願ノ事實ガ如何デアルカト云フコトヲ調査イタシマシタガ、決シテ一方ノコトヲ聞定メ、一方ノ上バカリヲ聞イテ是ハ申スノデハアリマセヌ、ドウゾ御記憶置キヲ願ヒマス

○國務大臣原敬君演壇ニ登ル

ラ、ソレデ申シタノデアリマス、又一方ノ判断ヲ聞イテ彼此レ云ハレテ居ルト云フコトヲ申スノデアリマセヌ、茲ニ請願人ノ連名イタシテ居ル者ハ何レノ黨派デアルト云フコトハ是ハ私ハ能ク知リマセヌケレドモ、御覽ニナリマシタラ分リマセウガ、兔ニ角一方ノ申スコトノミヲ聞イテ御出ニナルト申シタ積リデハナイ、ケレドモ能クモノハ兩方聞カナケレバナラスト思ヒマシテ、私ハ兩方ノ状態ヲ見、兩方ノ陳述ヲ聞ク、自分ニ於テハ斯様ニ致シマスト申シタノデアリマス、ソレハ其誤解ガアレバ誤解ノナイヤウニ願ヒタイ、ソレカラ横濱ニ紛擾ガ有ルカ無イカト云フコトニナリマスト、ドウモ選舉ヲ終リマシタ今日ニ於テハ、サウ云フコトハ一向見マセヌ、昨年カラ今年ノ初ニ掛ケテハ、隨分演説會ヲ開キ色ムナ事デ、ナカノ騒ヲ致シテ居リマシタガ、一ト度選舉ガ濟ミマシテ今日ハ最早左様ナコトハ見マセヌ、併ナガラ既ニ申シタ如ク、黨派ガ二ツニ分レテ居リマシテ、互ニ相争ウテ居ルモノハ急ニ止ミサウニモ見エナイト私ハ申シタノデ、之ヲ以テ直チニ紛擾ナリトハ申シニクイコトデアリマス、併シ是ハ争ハ致シテ居ラウト思ヒマス、又争ヲ致セバドウスルカト云フ此御尋ハ甚ダ困ッタコトデアリマス、ソレハ法律規則ノ範圍ヲ出デナケレバ行政官ハ立入ルコトハ出來ナイ、争ヒ次第ニ依テハ立入ッテドウカ致シマセウガ、争モ争ヒ方ニ依テハ唯成ルベク静穩ニ致スヤウナル方針ヲ採ツテ行クヨリ施シャウガナインデアリマス、併シドチラガ希望デアルカト云フト、成ルベク靜ニナル方ヲ希望イタシマス、是ハ争ト申シマシテモソレハ言論ニ終リマスヤウニ致シマシテ、就職以來最近ニ至リマスマデ、其事ヲ努メテ居リマスガ、争ガ起ツタラドウスルカト云フ御質問ニ對シテハ、争ノ性質状態ニ依リマセヌケレバ、茲ニ豫言シテ置クコトハチョット出來ナイト思ヒマス

○男爵眞鍋斌君 原内務大臣ニモウ一度申上グマス、成ル程横濱市ノ紛糾ト云フコトハ、私ノ言語ヲ以テ申シマシタカラ、或ハ是ハ不都合ナ言語デアッタカモ知レマセヌガ、唯今縣知事ト横濱市民トガ相反目シテ居ルト云フ事實ハ此請願ノ文書ニ依テモ明カデアラウト私ハ思ヒマス、サウスルト云フ前力ラ申シマス通リ私ハ此事ニ付テハ、事實問題デ解決シナケレバナラスト云フコトヲ信ジテ居ル故ニ、私ハ此請願ニ出タモノヲ以テ、ソレダケノコトハ今横濱市ノ中ニ在ルト云フコトハ明カデアル、成ル程紛糾ト云フ文字ハ惡ルイカモ知レマセヌ、ソレガ惡ルケレバ取消シマス、ソレデ更ニ御問ヒ申スノ

ハ、今縣知事ト横濱市民ト相反目シテ居ル状況ニ付テハ、監督官廳タル内務大臣ニ於テ、ドウデモ構ハナイト云フテ抛テ置ク譯ニ行カヌトハ出來ヌト云フ刻ノ御答デハ自分ハ法規ニ依テヤルダケデ、ソレ以上ノコトハ出來ヌト云フコトデ見ルト、ソレデモ御構ヒナイカ知リマセヌガ、併シ是等ハドウ云フモノデアリマスカ、其事ハ事實ニ於テ茲ニ明カニナツテ居ル、之ニ對シテ原内務大臣ハ何ニモナサラヌ御積リデアリマスカ、ソレヲ承リタイ

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 神奈川縣知事ト横濱市民ト大分軋轢イタシテ争ヲシテ居ルト云フコトハ私ハ承知イタシマセヌ、併ナガラ謂ハユル刷新派ガ一部ノ此問題ニ付テ敗ヲ取りマシタ、是ハ知事ニ對シテ感情ガ惡ルイ様子ニ承リマシタ、横濱市民ノ爲ニ私ハ嘆息ニ堪ヘマセヌ、故ニ行政官ヲシテ茲ニ立入ルコトハドウ云フ方法デ如何ニシテ出來ルカ、ソレハ別問題ト致シマシテ、私ハ刷新派ノ人ニモ大部、知合ガアル故ニ、サウ云フコトハ何時マデモ繼續シテ争フベキモノデナイト思ヒマス、故ニ知事トノ間ガ融和イタス方ガ横濱市ノ爲ニ利益ト云フコトヲ考ヘテ居ルガ、或ハ色ムナル方法ヲ以テ知事ト刷新派トノ軋轢ノナイヤウニハ止メル積リデアリマスカラ、私ノ精神ハ左様デアルト云フコトヲ御承知ヲ願ヒマス

○江木千之君 先刻内務大臣ガ府縣市町村制ニ規定セラレテ居ル所ノ、府縣カト云フト、成ルベク靜ニナル方ヲ希望イタシマス、是ハ争ト申シマシテモハ固ヨリ法律ニ書イテアル通リデゴザイマシテハ、議決通りニナルコトハ分リ切ツテ居ルガ、私ガ茲ニ最後ニ一言御尋シテ置キタイト思フコトハ、此選舉區ノコトニ付テ、横濱ノ市會ノ決議ヲ取消シテ、之ヲ小選舉區ニセザレバ市會ガ一ノ黨派ニ偏スルノハ困ル、サウ云フコトデアリマスレバ無論監督權ハアルケレドモガ、其市ノ大利害ニ關係スルガ如キ場合ナラバ監督權ヲ行フガ宜カラウ、今日市町村會府縣會ガ一ノ黨派ニ偏シテ居ルト云フコトハ常ニ見ル事實デアル、何レノ所ノ府縣會市町村會ニ參ツテ見テモ、必ズ一ノ黨派ガ多數ヲ占メテ居ルト云フ事實ハアルノデアル、然ルニ横濱市ニ對シテハ、小選舉區制ニ依ラスト一ノ黨派ニ偏シテ大變困ル、依テ此處置ヲ取ッタト言ハレルガ、ナゼ横濱市會ニ限ツテ一ノ黨派ニ偏シテハナラスト云フコトデ、ソレダケニ監督權ヲ行ハレルノデアリマスカ、是ハモウ常ニ見ル所ノ今日ノ狀態デア

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 唯今江木君ノ御尋デアリマスルガ、是ハ或ハ私ノ説明ノ足ラヌ所デ誤解ヲ來シテ居ルカハ知レマセヌガ、決シテ一ノ大黨派ニ屬シタ所ガ、ソレハ差支ガアルコトデアリマセヌガ、唯左様ナル處置ヲ三十一年以來存在イタシタ所ノモノヲ廢シテ、一部ノ者ノ意見通リニ致スコトハ如何カト、是ハ行政官トシテハ考ヘナケレバナラヌコトト私ハ思フノデ、決議ハ多數ニ從フ……多數ノ決議ハ尊重イタサナケレバナラヌ、必スドコノ地方ニ於テモ黨派ガ小分スルヲ以テ利益ト致サナインデ、多數ニナリマシテモ差支ナイノデアリマス、ソレハ地方ノ狀態、所ニ依リマス、横濱ニ於キマシテ選舉ヲ目前ニ控ヘテ、三十一年來存在シタ所ノモノヲ廢シテ、サウシテ一黨派ノ志ヲ達セシムルト云フコトハイカヌカト思ヒマスルガ、黨派モ黨派ナリ、又一部ノ階級ノ者ダケデ之ヲ占有イタスト云フコトモドウデアリマスカ、從來ノ儘ニ置キマスレバ、ソレ等ノ事ハ比較的能ク分配サレテ居ルヤウデアリマスカラ、從來ノ通リニ黨ヲ分ケテ置ク方ガ横濱ノ利益ナリト見タ次第デ、又議決ヲ取消シタト云フコトハ、成ル程間接ニ申シマスレバ議決ノ取消デアリマスケレドモ、市條例ノ廢止ノ認可ヲ請ヒマシタ、之ヲ認可シナンダト云フコトデアリマス、認可シナケレバ從來ノ通リ存續スル、接續ノ町村ニ便利デアル、斯ウ云フ次第デアリマス、私ハ茲ニ原則論ヲ争フノデハアリマセヌ、一黨派ニ傾キマスレバ、ソレハ利益ナリト云フコトヲ申スノデハアリマセヌ、横濱ニ於キマシテハ從來アリマスル通りガ横濱ノ利益デアル、曾テソレガ爲ニ今日マデ甚ダ多ク弊害ヲ見ナンダガ爲ニ、大體ハ從來ノ通リ据置ク方ガ利益ナリト認メテ、市條例ノ廢止ヲ認可イタサナカツタノデアル、斯ウ申シタノデアリマス

○江木千之君 今一言承リタイト思ヒマスガ、常ニ事理明晰ナル御答辯ヲ與ヘラレル内務大臣ガ、今日ノ御答辯ハ如何ニモ了解シ兼ネル御答辯デアル、一部ノ者ノ意見ニ依テ云々ト云フ御説デアリマスルガ、横濱市會ノ多數ノ議決ヲ以テ、一部ノ者ノ意見トハ如何ナルコトデアリマセウカ、成ル程市會ヲ分析シテ見タナラバ或階級ノ者ガ多數ト云フコトガアルカモ知レス、併シソレナラバ常ニ市會ノ議決ハ當テニナラヌコトニナル、免ニ角横濱市會ト云フモノガ多數ヲ以テ議決シタナラバ、即チ市會ノ議決デアル、又是ガ横濱市ト云フ團體ヲ代表シテノ意見デアル、ソレヲ唯一部ノ者ノ意見ト仰セラルノハ甚ダ了解イタシ兼ネル、又自説ヲ辯護ナサル爲デアラウガ、數年來實施シテ居ツタトスウ云フコトニ大層重ヲ置カレルガ、物ハ大概數年實施シテ居ル事ガ多イ、變ヘルト云フコトハ數年實施シテ居ルコトガ多イノデ、其變ヘル職タ所ガ、ソレハ差支ガアルコトデアリマセヌガ、唯左様ナル處置ヲ三十一年以來存在イタシタ所ノモノヲ廢シテ、一部ノ者ノ意見通リニ致スコトハ如何カト、是ハ行政官トシテハ考ヘナケレバナラヌコトト私ハ思フノデ、決議ハ多數ニ從フ……多數ノ決議ハ尊重イタサナケレバナラヌ、必スドコノ地方ニ於テモ黨派ガ小分スルヲ以テ利益ト致サナインデ、多數ニナリマシテモ差支ナイノデアリマス、ソレハ地方ノ狀態、所ニ依リマス、横濱ニ於キマシテ選舉ヲ目前ニ控ヘテ、三十一年來存在シタ所ノモノヲ廢シテ、サウシテ一黨派ノ志ヲ達セシムルト云フコトハイカヌカト思ヒマスルガ、黨派モ黨派ナリ、又一部ノ階級ノ者ダケデ之ヲ占有イタスト云フコトモドウデアリマスカ、從來ノ儘ニ置キマスレバ、ソレ等ノ事ハ比較的能ク分配サレテ居ルヤウデアリマスカラ、從來ノ通リニ黨ヲ分ケテ置ク方ガ横濱ノ利益ナリト見タ次第デ、又議決ヲ取消シタト云フコトハ、成ル程間接ニ申シマスレバ議決ノ取消デアリマスケレドモ、市條例ノ廢止ノ認可ヲ請ヒマシタ、之ヲ認可シナンダト云フコトデアリマス、認可シナケレバ從來ノ通リ存續スル、接續ノ町村ニ便利デアル、斯ウ云フ次第デアリマス、私ハ茲ニ原則論ヲ争フノデハアリマセヌ、一黨派ニ傾キマスレバ、ソレハ利益ナリト云フコトヲ申スノデハアリマセヌ、横濱ニ於キマシテハ從來アリマスル通りガ横濱ノ利益デアル、曾テソレガ爲ニ今日マデ甚ダ多ク弊害ヲ見ナンダガ爲ニ、大體ハ從來ノ通リ据置ク方ガ利益ナリト認メテ、市條例ノ廢止ヲ認可イタサナカツタノデアル、斯ウ申シタノデアリマス

○鎌田榮吉君 此事ハ頗ル重大ナ事デアリマスカラ、本員ハ今回ノ事ニ付テ特ニ内務大臣ヲ責ムル譯デハアリマセヌガ、將來ノ方針ニ付テ伺ツテ置キタイト思フノデアリマス、ト申スノハ全體今日ノ傾向ハ政治ハ益々政黨政治ニ傾キツツアル、ソレハ時勢上避クベカラザルコトカト思フ、併ナガラ是ハ天下ノ大勢ガ政黨ニ依テ動カサルルト云フコトニナルト同時ニ、益々地方自治體ナルモノハ政黨ノ臭味ヲ帶ビテ、又政黨ニ依テ干渉サルルト云フコトハ十分避ケナケレバナラヌトスウ本員ハ常ニ考ヘテ居ル、併ナガラ今日自治體ヲ見マスト云フト、地方自治ノ事ニ付テ段々政黨ノ臭味ヲ持込ミマシテ、一市町村ノ事モ重ニ大勢ハ政黨ノ争トナルヤウデアル、最モ憂慮スペキコトデアル、併ナガラ是ハドウモ理窟ヲ申シタ所ガ、自治體ノコトニ政黨カ這入レバ、矢張リ其地方ノ多數黨ガ勝ヲ制スルト云フコトハ已ムヲ得ナイコトデアル、ソコデ例ヘバ横濱ノコトニ致シタ所ガ、若シ刷新派ガ政友派ニ對シテ多數デアッテ勝ヲ占メタナラバ、或ハ此刷新派ナルモノガ同志會デアル、一方ノ地主派ガ政友會デアルト云フコトハドウモ致シ方ガナイ、致シ方ガナイガ併ナガラ此地方ダケノ政黨ノ多數少數ノ争ニ止レバ未ダ宜シイノデアリマスガ、併ナガラ知事ガ認可不認可ノ權ヲ有ツテ居ツテ、多數デ議決シタモノヲ知事ガ不認可スルト云フコトニナレバ、政府ガ政黨政府デアツタ時ニハ、中央政府ガ一方ノ少數黨ニ味方ヲスル、又其地方デハ少數黨デアツテモ、全國ノ黨派ヲ味方ニ買込ンデ、サウシテ多數黨ヲ壓スルト云フ結果ニナル、ソレガ誠ニ恐ルベキコトデアラウト思ヒマス、若シ其事ガ起レバ政府ノ勢力ヲ利用シテ、地方ノ

公共團體ニ己ノ私見ヲ行フコトハ是ハ人情ノ然ラシムル所デアル、故ニ内務大臣ハ將來ニ於テモ、其地方ノ多數黨ノ決シタ事デモ、之ヲ内務大臣或ハ縣知事ノ意見ニ徵シテ、其地方ノ爲ニ善クナイト考ヘラレタ時ニハ、非常ナ害ノ有ル時ハ、隨分取消スト云フコトモ、是ハ法律ノ附與シタル監督ノ權利デアリマスカラ宜イノデアリマスガ、併ナガラ元ト自治團體ノ監督權ヲ附與シタト云フモノハ、自治ガ未ダ發展セヌ時代ノコトデアツタ、其實ハ一時ノ監督權デアル、永久ニ此監督權ヲ活用スペキモノデハナイト思ヒマス、多少ノ監督ハ必要デアリマセウケレドモ、自治ノ本體ハ多數ニ依ルノデアル、其多數ヲ政府及地方官ガソレヲ否認スルコトニナリマスト、是ハ自治ノ根本ガ崩レルコトニナル、之ヲ言換ヘテ見マスルト、若シ中央政府ガ政黨趣味ヲ帶ンダ時代ニナツタナラバ、中央政府ハ全國ノ政黨ガ即チ全國府縣ノ政黨……其地方ニ於ケル一方ノ自治體ノ政黨ニ味方ヲスルコトニナル、ソレガ自治體ノ制度ニ弊害ヲ持込ムデアラウト思ヒマスガ、其點ニ付テ將來内務大臣ハ如何ナル考ヲ以テ、地方行政ヲナサル積リデアルカ、ソレヲ私ハ伺ッテ置キタイト思ヒマス

## 〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 地方ノ黨派ガ、縣會ニ於キマシテモ、市町村會ニ於キマシテモ、多數ニ依テ決スルコトハ少シモ差支ナイ、何レノ黨派ガ多數ヲ占メテモソレハ少シモ差支ハナイ、併ナガラ市制ニ於テ一級二級三級ト區別シテ、市會議員ヲ選舉スル方法ナルモノハ、是ハ色々理由ガアルデアリマセウ、サウ云フ一面ニ於テハ成ルベク各階級ノ人ヲ出スト云フコトガ趣意デアツタラウト思ヒマス、故ニ市會等ニ於キマシテハ出來ルコトナラバ一方ニ偏セズシテ色々ナル階級ノ人ガ出ラレ得ルヤウニナル方ガ市制ノ本旨デアラウト思フノデアリマス、一級二級三級ノ區別ガアルカラ……決シテ横濱市ニ於テ或地方ニ甚シキ不利益ヲ生ズルカ若クバ穩當ナラザル決議デ、面白カラヌ結果ヲ生ズルヤウナ場合ハ屢々アルノデアリマス、サリナガラ認可ヲ求メルモノデナイ以上ハ、其決議ガ其儘行ハレテモソレマデノコトデゴザイマスガ、認可ヲ求メル場合ニハ、行政官ガ地方團體ノ利害得失ヲ攻究イタサナケレバナリマセヌ、十分ニ其許否ニ付テハ熟考ヲ致サナケレバナラヌノデアリマスカラ、

多數ノ決議ナラ必ズ之ヲ認可スルト云フ譯ニハ參ラヌ、殊ニ横濱市ノ如キハ明治三十一年十一月ニ初メテ市條例ヲ設ケテ三區ニ分ケテ、サウシテ三十四年十月ニハ更ニソレヲ五區ニ分ケテ、市ニ接續スル所ヲ市ニ編入シテ五區ニシタノデアリマス、ソレデ何等ノ不都合モナク、著シキ弊害ヲ見ズシテ各階級、又各選舉區ニ分レテ相當ノ人が出テ居ツテ一向何モ差支ナイノデアル、ソレヲ何ゾヤ選舉ヲ目前ニ控ヘテ沿革ヲ捨テテ、三十一年來ノ條例ヲ廢止シテ、直チニ他ノ大ナル市ニモ餘リ例ノナイ大選舉區ヲ實行スルノハ、是ハ横濱市ノ利益トハドウシテモ見ラレナカツタノデアリマス、ソレハ利益ト見タ方ガ宣イカ、見ナイ方ガ宣イカト云フコトハ特別トシテ、ドウシテモ横濱市ノ爲ニ利益デアルトハ見ラレナカツタ、ソレ故ニ此市條例廢止ノコトニハ認可ヲ致サナカツタノデアリマス、ソレカラ地方ニ於テ或黨派ガ多數ヲ占メタラドウスルカト云フコトデアリマシタガ、是ハ將來ノコトハ申ス迄モナク、既往竝ニ現在ニ於テ縣會ナドデ、政友會ナドガ多數ヲ占メテ居リマセウトモ、新政策黨ガ多數ヲ占メヤウガ、縣知事ノ見込ニ依テ、多數ノ決議ヲ採用セズシテ、地方官ノ提出シタル原案ノ執行ヲスルコトガアリマス、無論是ハ已ムヲ得ザル場合ニ限ル事デハアリマスガ、隨分屢々見ルコトデ、殆ド毎年見ルコトデアリマス、是ハ必シモ多數ノ決議ナルモノガ、其地方ニ利益ヲ興ヘルバカリニ限ラヌノデアリマスカラ、行政官タル者ハ篤ト攻究シテ、多數ノ決議ト雖モ之ヲ採用セズシテ原案ヲ執行スル場合ガアルノデゴザイマス、是ハ内務省ニ申請イタシテ來ル場合ニハ、内務省ニ於テモ篤ト審査ヲ致シテ、サウシテ地方官ノ言フコトガ尤モデアルト見レバ原案ヲ執行スル方針ヲ執ルノデアリマス、ソレガ爲ニコソ府縣制ニ於テモ、市町村制ニ於テモ、上級官廳ニ監督權ヲ有タセテ、或場合ニハ原案ヲ執行スルト云フコトガ法律ノ上ニ存在シテ居ル所以ト思ヒマス、故ニ此權利ヲ濫用シテ勝手ナコトヲ致シテハ濟ミマセヌガ、公平ナル處置ヲ執ツテ、サウシテ許否ヲ致スコトハ國家ノ爲ニモ利益アリト考ヘマス、故ニ地方議會等ニ對シマシテハ、將來ト雖モ、既往ニ於ケル如ク、公平ナル方針ヲ以テヤルヨリ外ハナイト考ヘマスカラ序ナガラ辯明シテ置キマス

○鎌田榮吉君 地方ノ爲ニ利益デアル不利益デアルト云フコトハ人ミノ見込ニ依ルコトデアリマシテ、地方長官ハ必シモ多數黨ヨリ賢明デアルトハ限ラヌ、併ナガラ地方長官ハ監督權ヲ有ツテ居ルカラ或場合ニソレガ爲ニ何カ騒

擾ヲ生ズルトカ、或ハ面リ非常ナル危險ヲ生ズルト云フヤウナ場合ニ監督權ヲ實行スルコトハ無論宜シイデアリマセウ、併ナガラ多クハ多數ノ意見ニ從フト云フコトガ自治制ノ本則デハナイカト本員ハ考ヘテ居ル、故ニ内務大臣ノ御考ハ如何ニ此自治ノ程度ガ進ンデ來テモ、矢張リ監督權ヲ行使スルノハ最初ト同ジャウニ行ツテ行カウト云フ御考ノヤウニチヨット伺ヒマシタノデアリマスガ、或ハ法律ノ明文上カラハソレデモ宜カラウト思ヒマスガ、ソレハ少シク自治ヲ發展セシメル方針ニ違背シテ居リハセヌカト懸念スルノデアリマス、且今申シマス通り、此國家ノ政治ヲ政黨ニ依テ行フト云フコトニナッテ來マシテ、而シテ其中央政府即チ中央政府ヲ代表スル所ノ府縣知事ガ、多數黨ノ決議ト雖モ之ヲ不認可スルト云フコトガ度ニアルヤウナコトニナリマスト、自然是ハ即チ大政黨、所謂國家ノ政黨ノ勢力ヲ以テ地方ノ自治ヲ攬亂スルト云フコトニ、ドウシテモ傾クヤウニナルト思ヒマス、私ハ内務大臣タルモノガ眞ニ自治ノ發達ト云フコトヲ心トセラルナラバ、其點ニ於テハ餘程慎重ノ態度ヲ執ラレナケレバナラヌト考ヘル、併ナガラ是ハ私ノ意見デアリマスカラシテ、内務大臣ハ矢張リ今ノ御答ノ通リデアルト云フコトデアレバ、更ニ御答辯ヲ煩ハス必要ハナイト思ヒマス

〔國務大臣原敬君演壇ニ登ル〕

○國務大臣(原敬君) 鎌田君へ御答イタシマスルガ、慎重ノ態度ヲ執ラヌト云フ意思ハゴザイマセヌ、從來ニ於テモ縣知事ガ原案執行ノ認可ヲ内務省ニ持ツテ參ル、此時ニ於テ十分ナル調ヲ致シ、時トシテハ人ヲ派出イタスト云フヤウナルコトヲ致シテ、十分ニ審議ヲ盡シマシテ、如何ニモ知事ノ言フ所ガ宜シイトナレバ、ソレヲ初メテ認可イタシテ原案ヲ執行サセマスシ、又知事ノ言フ所ニ幾分カ不都合ナ所ガアレバ、ソレヲ修正シテ是ダケノ所ハ認可シテ宜シイ、アトハ多數ノ決議ニ從フガ宜カラウ、斯ウ云フコトヲ申ス次第デアリマス、現ニ多數黨ニ依ル所ノ議決ハ多數ニ依リ、多數ハ政黨ニ依ルト云フコトハ申スマデモアリマセヌケレドモ、或縣ニ於テ政友會ガ多數ヲ占メマシタ云フ譯ヲ以テ、私ガ政友會員デアルガ故ニ、ソレヲ直チニ認可スルト云フコトガ一ノ原則ナリト解釋ハ出來ヌノデアリマスカラ、假令其地方ニ於テ私共ト同様ナ者ガ多數ヲ占メテ決議ヲ致シマシテモ、ソレハ縣民ノ利益トナラズト考ヘタ時ニハ、篤ト審査ヲ致シテ或ハ修正シ、或ハ全ク地方官ノ意見ヲ採用シテ原案ヲ執行スルコトハ、國家ノ爲ニ已ムヲ得ヌノデアリマス、

成ルベク自治ノ發達ハ圖リタイノデアリマスケレドモ、多數決バカリニ依ルト云フ譯ニモ參リマセヌ、時トシテハ原案ヲ執行シナケレバナラヌ、其場合ハ十分ナル審査ヲ致サナケレバナラナイ、今日十分ナ審査ヲシテ居リマスケレドモ、尙注意シテ審査ヲスルト云フコトハ少シモ異論ハアリマセヌ、ガ今日猥ニ監督權ヲ濫用イタシテ居ルノデハナイト云フコトハ能ク御了承ヲ願ヒタイ、將來ニ於テ多數ノ決議デアラウガ、少數ノ決議デアラウガ、其決議ヲ無視シテヤルト云フ考ハナイ、多數デアレバ其決議ヲ尊重スルトシテモ、ソレガ國家ノ不利益、地方ノ不利益ナリト考ヘマシタ時ニハ、之ヲ認可セヌト云フコトノ已ムヲ得ヌ場合モアルノデアリマス、之ヲ處置スルニハ極メテ公平ナ考ヲ必要トスルコトハ、是ハ論ノナイコトデアリマス

○侯爵德川賴倫君 唯今問題ニナッタ居リマス請願ノ意見書案ニ印刷ノ誤ガアリマスカラ、其點ヲ申上ゲテ宜シウゴザイマスカラ

○副議長(侯爵黒田長成君) 宜シウゴザイマス

○侯爵德川賴倫君 意見書案第五行目ノ所ニ「神奈川知事」トアツテ「縣」ノ字ガ脱クマシタ、是ハ些細ナ點デアリマスケレドモ、印刷ノ誤デアリマスカラチヨヅト申上ゲマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 別ニ御發議モナイト認メマスカラ採決イタシマス、請願委員長ノ報告ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 多數

○副議長(侯爵黒田長成君) 過半數ト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 別ニ御發議モナイト認メマスカラ採決イタシマス、請願委員長ノ報告ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 議事日程第二十三、東京美術學校ニ寫眞科設置ノ請願、第二十四、岡山縣奥津郵便局ニ電信電話開設ノ請願、第二十五、鹿兒島縣沖永良部島與論島間海底電信布設ノ請願、第二十六、軍人恩給法規中改正ノ請願、第二十七、岡山縣兒島郡興除村ニ用水路新設ノ請願、第二十八、爲替貯金支局ヲ札幌區ニ設置ノ請願、第二十九、四國鐵道速成ノ請願、第三十、軍人恩給法規中改正ノ請願、第三十一、貯金支局ヲ小樽區ニ設置ノ請願、第三十二、膽振鐵道速成ノ請願、第三十三、山口縣厚南郵便局ニ集配事務開始ノ請願、會議

意見書案

東京美術學校ニ寫眞科設置ノ件

新潟縣長岡市東坂ノ上町ニ丁目寫眞業長尾義賢呈出

右ノ請願ハ輓近寫眞術ノ進歩ハ之ヲシテ専門學ノ一タルノ觀アルニ至ラシ  
メタルノミナラス其ノ製作品ハ美術的價値ノ如何ニ依リテ優劣ヲ別タル  
ノ傾向増加シタルモ未之カ研究ヲ遂ケ技術者ヲ養成スルノ機關ヲ観クハ遺  
憾尠カラサルヲ以テ東京美術學校ニ寫眞科ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシ  
テ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條  
ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

意見書案

岡山縣奥津郵便局ニ電信電話開設ノ件

右ノ請願ハ岡山縣苦田郡奥津村及上齊原村ハ山陰道ニ至ルノ要路ニ當リ物  
產ニ富ミ且溫泉場ノ所在地ニシテ貨客ノ出入頻繁ナルニ拘ラス電信電話ノ

便ヲ観キ地方人民ノ被ル不便不利甚シキヲ以テ奥津村郵便局ニ電信電話ノ  
取扱ヲ開始セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモ

ノト決議致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

意見書案

鹿兒島縣沖永良部島與論島間海底電信布設ノ件

鹿兒島縣大島郡與論村平民林清重外千六百三十名呈出

右ノ請願ハ鹿兒島縣大島郡與論島ハ大島喜界島德之島沖永良部島及琉球列  
島ト共ニ國防上樞要ノ位置ニ在リ戸口多ク產物ニ富ムニ拘ラス僅ニ毎月二  
回ノ定期航海ノ便ニ倚ルノ外交通ノ便ヲ観クヲ以テ人文進マス產業殷ナラ  
ス其ノ他島民ノ被ル不利益尠カラサルヲ以テ沖永良部島ヨリ同島ニ海底電  
信支線ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモ

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

モノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

軍人恩給法規中改正ノ件

三重縣員辨郡大泉原村平民雜貨商上村安次郎外百九十三名呈出

茨城縣水戸市大字上市久保町士族公吏津田茂外七十三名呈出

右ノ請願ハ明治四十四年法律第五十九號ヲ以テ軍人恩給法ヲ改正セラレタ  
ルモ改正ノ恩典ハ同法制定以前ニ現役ヲ離レタル者並死歿シタル軍人ノ遺

族ニ及ハス請願人等ハ日ニ窮困ニ陥ルヲ以テ同法附則第二項及第三項ヲ改  
正シ請願人等ヲシテ齊シク同法ノ恩典ニ浴セシメラレタシトノ旨趣ニシテ  
貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ  
依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

意見書案

岡山縣兒島郡興除村ニ用水路新設ノ件

岡山縣兒島郡興除村平民農下野桂太郎外二百八十七名呈出

右ノ請願ハ岡山縣兒島郡興除村ハ兒島灣ニ臨ム新開ノ土地ニシテ飲料水ト  
灌漑ノ用水トニ乏シク爲ニ風土病ニ罹ルモノ多ク米作屢豐穰ナラス依テ之  
カ疾苦ヲ除カムカ爲國費ヲ以テ高梁川ノ或地點ヨリ同村ニ通スル用水路ヲ  
開設セラレタシ而シテ村民ハ國費ノ幾部ヲ助クル爲五萬圓ヲ十箇年賦ニテ  
寄附スヘシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致  
候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

意見書案

爲替貯金支局ヲ札幌區ニ設置ノ件

北海道札幌區南六條西七丁目平民會社員永田巖外五百十五名呈出  
右ノ請願ハ札幌區ハ北海道拓殖ノ中樞ニシテ他ノ郡區ニ比シテ郵便貯金ノ  
數額最多キノミナラス官衙學校銀行等諸般ノ施設備ハルヲ以テ振替貯金ノ  
利用劇増スヘキハ疑ヲ容レス依テ爲替貯金支局設置ノ地トシテ最適當ナル  
ヲ以テ同區ニ該支局ヲ置カレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採  
擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

意見書案  
貯金支局ヲ小樽區ニ設置ノ件

北海道濱益郡茂生村平民商熊谷林藏外十七名呈出

樺太西海岸北名好本通一丁目士族雜貨商田澤義雄外十一名呈出  
右ノ請願ハ北海道小樽區ニ郵便貯金支局ヲ設置セラルハ請願人等ノ利便  
ヲ増進シ且北海道樺太ノ開發ニ必要ナルヲ以テ大正三年度ニ於テ帝國北部  
ニ之ヲ新設セラルハ同區ニ之ヲ置カレタシトノ旨趣ニシテ貴族院  
ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別  
冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

意見書案  
膽振鐵道速成ノ件

小樽商業會議所會頭磯野進呈出

右ノ請願ハ北海道室蘭港ヲ起點トシ有珠虻田ノ兩郡ヲ經テ俱知安驛ニ於テ  
函館本線ニ連絡スル膽振鐵道ハ東西ノ海岸ヲ連結シ同道ノ開拓上最必要ナ  
ルモノナルカ故ニ之力急設ニ關シ既ニ屢議院ニ請願シ其ノ採擇ヲ得タルモ  
未工事ニ著手セラレス同道ノ拓殖上寔ニ遺憾ナルヲ以テ速ニ起工セラレタ  
シトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議

院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

貴族院議長公爵德川家達

意見書案  
山口縣厚南郵便局ニ集配事務開始ノ件

山口縣厚南郵便局ニ停車場ヲ設置セラレテヨリ以來輕便鐵道ノ敷設セラレタル等交通機關ノ施設面目ヲ改メタルニ拘ラス通信機關トシテ無集配郵便局

右ノ請願ハ山口縣厚南村平民政公吏繩田壽外十八名呈出而シテ近時村内ニ停車場ヲ設置セラレテヨリ以來輕便鐵道ノ敷設セラレタルニ依リ郵便物ノ授受ヲ行ハシメラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

○子爵前田利定君 唯今問題ニナッテ居リマス中、第二十八ト第三十一ハ其項ガ非常ニ相類似ノモノデアリマス、意見書ヲ見マスト云フト、第二十八ノ方ハ唯郵便貯金件數ガ非常ニ煩雜ニナルトカ云フヤウナコト、第三十一ノ方ハ樺太及北海道ノ開發ニ利便アリト云フヤウニ、多少理由ノ上ニ於キマシテ變ツテ居リマスルガ、要スルニ貯金支局ヲ札幌ニ置クト云フノト、小樽ニ置クト云フノト兩方御採擇ニナッテ居ル、是ハ北海道ノ札幌並ニ小樽ノ二箇所ニ支局ヲ置クコトヲ御採擇ニナッタノデアリマスルカ、或ハ又此兩者ノ中何レデモ宜シイト云フヤウナ意味合ヲ以テ御採擇ニナッタノデゴザイマスカ、若シ兩者二ツナガラ御採擇ニナルト云フコトデアルト、北海道ノ地域ニ持ツテ行シテ二箇所支局ヲ置クト云フノハ、少シ他ニ比例イタシマシテ多過ギルヤウニモ考ヘル、其點ヲ請願委員長ニ一應伺ヒマス

○侯爵德川頼倫君 前田子爵ニ此席カラ御答ヘ申上ゲマスガ、唯今ノ御質問ノ趣ハ、一箇所ト云フコトデ、何レト云フコトハ指シテ居ラヌヤウニ、分科會

デハ審査ニナッテ居ルヤウニ記憶シテ居リマス、又委員會デモ其通リ可決ニナッテ居リマス、此段ヲ申上ゲマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 第二十三ヨリ第三十三マデ、請願委員長ノ報告通リデ御異議ハゴザイマセヌカ

「異議ナシ」ト呼フ者アリ】

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス

○副議長(侯爵黒田長成君) 横太漁業制度改正ノ件

○副議長(侯爵黒田長成君) 第三十四、樺太漁業制度改正ノ請願、會議右ノ請願ハ樺太ニ於ケル主要水產物タル鰈鮭鯿ノ漁獲ハ多ク之ヲ島外ノ資本タル建網漁業者ニノミ許可セラルル爲移住シタル小漁民ハ其ノ業ヲ失フノ窮状ニ陥リ遂ニ法ヲ犯シテ密漁ヲ敢テスルニ至ル等困憊甚シキモノアリ而シテ樺太廳ハ之ヲ救治スル爲多少ノ施設ヲ爲シタリト雖到底其ノ目的ヲ達スルニ足ラス依テ現行ノ制ヲ改正シ移住小漁民ニ對シ適當ナル制限ノ下ニ主要魚族ノ漁獲ヲ許サレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵德川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

○一木喜徳郎君 本員ハ此請願ニ關シマシテ政府ニ質問イタシタイ、此請願ノ趣旨ハ、樺太ニ從來行ハレテ居リマシタ所ノ漁業制度ノ根本ヲ改メヤウト云フ請願デアリマスケレドモ、政府ハ之ニ對シテ如何ナル御方針ヲ有フテ居ラルコトデアリマスカ、其制度ノ根本ヲ變更スルノ必要ヲ御認ニナッテ居ルヤ否ヤ、又ハ少クトモ此變更ノ必要アリヤ否ヤヲ調査スルノ必要ヲ御認ニナッテ居ルヤ否ヤ、此點ニ付キマシテ政府ノ御答ヲ得タイト思ヒマス、尙若シ變更新スルノ必要アリト云フ御意見デアリマスナラバ、其理由ヲ詳細ニ承リタインデアリマス

〔政府委員水野鍊太郎君演壇ニ登ル〕

○政府委員(水野鍊太郎君) 唯今一木君ノ御質問ニ御答イタシマス、御承知ノ如ク樺太ノ現今ノ漁業制度ト申シマスノハ、謂ハユル建網一網制度ヲ原則

トシテ採ツテ居ルノデアリマス、何故ニ建網一網制度ヲ採ツテ居ルカト申シマスルト、是ハ漁業ニ關スル専門家ノ研究ニ依リマシテモ、又樺太ニ於ケル現時ノ狀態ニ徵シマスルモ、此制度ヲ以テ樺太ノ漁業法ノ上ニ必要ナリト認メテ居ルノデアリマス、即チ建網制度ニ依リマスレバ、樺太ニ於ケル主要漁業即チ鯨、鮭、鱈ノ濫獲ヲ防グコトガ出來ル、又建網制度ニ依リマスレバ、是等ノ魚族ノ四散スルコトヲ防グコトガ出來ル、又是等ノ魚卵、玉子ヲ攪亂セシメザルコトガ出來ルノデアリマス、若シ之ニ反シテ他ノ網、即チ刺網、曳網ノ如キモノヲ御許ニナリマスナラバ、先キ程申シマシタ魚族ノ蕃殖上ニ妨害ヲ來スト云フコトデアリマス、而シテ是ハ漁業専門家、技術家ノ研究ニ依ッタノデゴザイマシテ、此研究ハ今日新ニ始マタノデゴザイマセズ、從來樺太ニ於キマシテモ漁業ヲ如何ニスベキヤト云フコトニ付テ慎重ニ考慮ヲ費シタノデアリマス、斯ル次第デアリマスルガ故ニ、政府ハ此點ニ付キマシテ現行ノ漁業制度ヲ以テ之ヲ至當ナリト認メテ居ルノデアリマス、今日迄ノ研究ハ唯今申ス通リノコトデアリマス、併ナガラ若シ新シイ事實が出テ、新シイ學問ノ進歩ガ出來テ、斯ウデナイト云フ事實ガ出マシタナラバ、是ハ又其時ニハ必シモ改正セヌト云フノデアリマセヌ、今日マデノ研究ニ依レバ、樺太ニ於キマシテハ現行ノ制度、即チ建網一網制度ヲ以テ適當ナリト考ヘテ居リマス、唯此請願ニ依リマシテ、斯クスレバ謂ハユル雜漁ニ從事シテ居ル漁民、即チ雜漁民ト云フモノガ困難ヲ感ズルガ故ニ、相當ノ救濟ヲ講ゼラレタイト云フ請願デアリマスルガ、此點ニ付キマシテモ樺太廳ニ於キマシテモ並ニ政府ニ於キマシテモ注意ハ致シテ居リマス、之ヲ以テ必シモ輕易ナル問題トハ考ヘテ居リマセヌ、併ナガラ原則ト致シマシテ、今日ノ漁業制度ヲ改正スルコトハ是ハ樺太殖民ノ發展上竝ニ國家ノ財政上ニ於テ適當ナラズト考ヘテ居リマス、シマスルガ樺太ノ雜漁民ヲ救濟スル上ニ於キマシテ相當ナ方法モ講ジ、尙適當ナ方法ヲ講ズルコトヲ必要ト認メテ居リマスガ、漁業制度ハ今日ノ制度ヲ以テ適當ナリト考ヘテ居ルノデアリマス

○一木喜徳郎君 唯一通り御説明ヲ得マシテ、政府ノ方針ノアル所ヲ拜聴イタシマシタ、尙此問題ヲ詳細研究スルニ付キマシテハ更ニ細目ニ入ッテ御尋イタシタコトモゴザイマスケレドモ、此場合是等ノ點ニマデ立入りマスルコトハ諸君ノ御累ヒヲ來スデアラウト思ヒマスカラ、サリナガラ

唯今問題ニナッテ居リマスル所ノ重ナル目的ハ、漁業制度ノ根本ヲ改メルト云

○江木千之君 私ハ唯今ノ一木君ノ説ニ賛成ヲ致スモノデアリマス、此請願ニ對スル政府ノ意見ハ唯今政府委員ノ述ベラレタ通リデアル、又此請願ニ對スル本院ノ院議ト云フモノハ既ニ昨年モ不採擇ト云フコトニナッテ居ルノデアリマス、加フルニ唯今不採擇ノ説ヲ述ベラレタ一木君ハ嘗テ内務省ノ要地ニ居ラレテ、是等ノ制度ニ付テハ能ク通ジテ居ラレル人デアル、此一木君ニシテ尙此不採擇ヲ主張セラルルト云フコトデアリマスル以上ハ、是ハ本院ノ容易ニ之ヲ採擇スベキモノデナイト考ヘマスルカラ、私ハ之ヲ不採擇ニナルコトヲ希望イタシマシテ、一木君ノ説ニ賛成イタシマス

〔岡田良平君發言ノ許可ヲ求ム〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 岡田君ハ何デスカ

○岡田良平君 私ハ請願委員長ニ伺<sup>ツ</sup>テ見タインデスガ、唯今ノ問題ハ一網制ヲ廢シテ二網制ヲ採ラウト云フヤウナ請願デアリマスルガ、私ハソレ程根本的ニ改正シテ貴ヒタイト云フ請願デハナイカト思<sup>ツ</sup>テ居リマス、甚ダ調ガ不行届デアリマスガ、ドウ云フ請願ノ趣旨デアリマスカ

○侯爵德川賴倫君 御答ヲ申上ゲマス、之ニ付キマシテノ調査ヲ致シテ居リマスダケ、分科會ノ審査サレマシタコトヲ申上ゲテ置キタイト思ヒマス、唯今一木君ヨリモ御述ニナリマシタ通り、此請願ハ樺太ニ付キマシテ重大ナ請願デゴザイマシテ、此請願ノ所屬ハ第二分科ト思ヒマス、此第二分科ニ於キマシテ非常ナル御注意デ審査ヲサレマシテ、委シク申上ゲマスト、此樺太問題ノ爲ニ或節ニハ午前十時五十分カラ午後四時過マデ掛リマシタト申ス程、數回ノ中ニ委員諸君ハ勉強ヲナサレテ講究ヲサレマシタノデゴザイマス、此段ハチヨット序ニ申上ゲマシテ、續イテ唯今ノ御質問ニ御答ヲ致シマスルガ、申上ゲル迄モナク御承知ノ通り、唯今政府委員ガ答ヘマシタ通り、樺太ハ建網一網制デゴザイマシテ、然ルニ樺太デ申シマス雜漁民ナル者ガ、此建網ヲ致スト云フコトハ出來マセズ、又雜漁ノ家ハ如何ニモ生活ガ困難デアルト云フ所カラ、雖其他ノ群集イタシテ居リマス時期ニ……ソレヲ見テ居リマシテ、如何ニモ捕ルコトガ出來ズ、彼ノ雜漁民等ノ生活ガ困難ナルカラ、ドウゾ外ノ方法ヲ採リタイト云フ所カラ請願ガ起<sup>ツ</sup>テ參リマシタ、遂ニ今日ニナリマシタノデゴザイマス、大體サウ云フモノデアリマスルガ、此請願ニ付キマシテ記憶イタシマス所ニ依リマスト、委員會デモ或ハ分科會デモ、唯今ノヤウナ大問題デアリマスカラ、分科會毎ニ議論ガゴザイマシタガ、結果ハ成ルベク雜漁民ヲシテ生活ノ困難ニ陥ラシメヌヤウニ、一網制デアルケレドモドウゾ十分ニ政府モ講究シテ貴ヒタイ、受理サレバ……ト云フコトデ議論ガ進行イタシテ居リマシテ、其結果唯今御尋ノ通り、樺太ノ大體ノ方針ニ及ンデ居リマスノデゴザイマス、請願ト致シマシテハ唯今ノ雜漁民ヲドウゾ救濟シタイト云フ要點ニ於テ研究サレテ居ル次第デゴザイマスカラ、此段ヲ申上ゲマス○岡田良平君 左様イタシマスト、此請願ノ採擇ト云フコトハ大問題ニ少シモ接觸シテ居ラヌト思ヒマス、即チ樺太ノ漁業制ノ問題ニハ接觸シテ居ラヌ、唯雜漁民ガ難澁デアルカラ何トカ救濟シテ貴ヒタイト云フ意味デ、現在ノ漁業制度ガ不完全デアル、或ハ之ヲ改正シテ貴ヒタイト云フヤウナ根本的ノ問題ニハ接觸シテ居ラヌ、斯ウ了解イタシテ宜シウゴザイマスカ

○侯爵德川賴倫君 唯今申上ゲマシタコトノ關係ト致シテハ、大問題ニモ連イタシテ居ルト存ジテ居リマス

○岡田良平君 若シモ此請願ガ漁業制度ニ根本的ノ改正ヲ求メルト云フ意味デアリマスナラバ是ハ容易ナラヌ大問題デアリマス、決シテ容易ニ茲<sup>ツ</sup>テ通過スルコトハ出來ナイモノト思ヒマス、依テ本員モ一木君ノ意見ニ賛成ヲ致シマス

○副議長(侯爵黒田長成君) チヨット申上ゲマスガ、一木君ノ否決説ハ別ニ賛成者ハ要シマセヌ

○岡田良平君 同意見デアリマス

〔男爵田健治郎君「私モ一木君ト同意見デス」ト述フ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 採決イタシマス、請願委員長ノ報告ニ同意ノ諸君ノ起立ヲ請ヒマス

起立者 少數

○副議長(侯爵黒田長成君) 少數ト認メマス、否決セラレマシタ

○副議長(侯爵黒田長成君) 議事日程第三十五、雄物川改修工事速成ノ請願、第三十六、山形縣神町郵便局設置ノ請願、第三十七、國勢調査實施期決定ノ請願、第三十八、信濃阿賀野兩川治水ニ關スル請願、第三十九、膽振鐵道急設ノ請願、第四十、雄物川改修工事速成ノ請願、會議

#### 意見書案

#### 雄物川改修工事速成ノ件

秋田縣南秋田郡土崎湊町士族公吏出藤吉外百十五名呈出(二通)

右ノ請願ハ秋田縣雄物川ハ曩ニ第一期川トシテ改修工事ヲ施行セラルルコトニ定メラレタルモ未施工ノ時期ニ達セス然ルニ頻年氾濫シテ沿岸地方ノ被害每ニ數十百萬圓ノ巨額ニ上リ且河口ニ土砂堆積シ船舶ノ航行ヲ危険ナラシムルニ至レリ而シテ本年ノ如き凶歉ノ時ニ於テ河身及河口ノ改修工事ニ著手セラルルハ最機宜ヲ得タルモノナルニ依リ速ニ施行セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

意見書案

山形縣神町郵便局設置ノ件

右ノ請願ハ山形縣北村山郡東根町平民農橫尾市内呈出シテ奥羽本線ト神町仙臺間局部鐵道豫定線トノ分歧地點ナリ然ルニ所管郵便局ヲ距ルコト一里半ニシテ不便不利尠カラサルヲ以テ町内字神町ニ無集配郵便局ヲ設置セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

意見書案  
國勢調査實施期決定ノ件

東京市京橋區山城町東京統計協會會長男爵阪谷芳郎呈出

右ノ請願ハ國勢調査ハ國家治道ノ要具ニシテ百般ノ施設之ニ依テ決ス而シテ明治三十五年國勢調査ニ關スル法律ヲ公布セラレタルモ未一タヒモ之ヲ施行セラレナルハ洵ニ昭代ノ一大闕點ナリ依テ速ニ實施ノ時期ヲ定メ以テ之ヲ實行セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

意見書案  
信濃阿賀野兩川治水ニ關スル件

新潟縣新潟市旭町通一番町平民吉田良治郎外七十二名呈出

右ノ請願ハ信濃川及阿賀野川ハ年々氾濫シ流域地方人民ノ被害每ニ巨額ニ達ス政府ハ兩川ノ河身改修及新潟港口ノ修築ニ關シ既ニ著手セラル所ア

リト雖之カ完成ハ尙遠ナリ依テ大正三年度ヨリ阿賀野川改修工事ヲ開始シ及信濃川改修大河津分水工事費ヲ増加シ以テ全事業ノ速成ヲ期セラレタシ而シテ現時ノ財政事情ニシテ之ヲ許サストセハ年度割地方分擔金ヲ適宜ニ繰上ケ使用セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

意見書案  
膽振鐵道急設ノ件

北海道虻田郡俱知安村平民農河合篤叙外五千三百六十一名呈出

右ノ請願ハ北海道虻田郡俱知安ヨリ室蘭郡室蘭ニ至ル膽振鐵道ノ敷設ハ同道ノ開拓上並軍事上最必要ノモノニシテ之カ經營ハ頗有利ナルヲ以テ國費ヲ以テ速ニ之ヲ敷設セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵徳川家達

内閣總理大臣伯爵山本權兵衛殿

意見書案  
雄物川改修工事速成ノ件

秋田縣河邊郡仁井田村平民農館岡政千代外三百四十八名呈出(三通)

右ノ請願ハ雄物川ハ曩ニ第一期川トシテ改修工事ヲ施行セラルルコトト定メラレタルモ未施工ノ時期ニ達セス然ルニ同川ハ頻年氾濫シテ沿岸地方ノ被害専カラス就中秋田縣河邊郡仁井田村ノ如キハ被害ノ程度甚シキヲ以テ水害ヲ除キ運輸ノ便ヲ開ク爲大正三年度ニ於テ同川及河口ノ改修工事ニ着手セラレタシトノ旨趣ニシテ貴族院ハ願意ノ大體ハ採擇スヘキモノト議決致候因テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及送付候也

大正三年 月 日

貴族院議長公爵徳川家達

○副議長(侯爵黒田長成君) 是等ノ請願ハ請願委員長報告通り御異議ゴザイマセヌカ

○副議長(侯爵黒田長成君) 御異議ナイト認メマス

〔「異議ナシ」ト呼フ者アリ〕

○副議長(侯爵黒田長成君) 本日ノ會議ハ是ニテ終リマシタ、明後十八日ノ  
議事日程ハ決定次第、本院彙報ヲ以テ御通知イタシマス、今日ハ散會ヲ致シ  
マス

午後三時三十三分散會